

# 堀 端 遺 跡

—平成19年度市単独土地改良事業（郷原堀端地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—

2 0 0 8

群馬県安中市教育委員会

# 堀 端 遺 跡

—平成19年度市単独土地改良事業（郷原堀端地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—

2 0 0 8

群馬県安中市教育委員会



堀端遺跡南調査区全景



堀端遺跡北調査区全景



堀端遺跡出土墨書土器・刻書土器（内面）



堀端遺跡出土墨書土器（底面）



## 序

2006年3月に旧安中市と旧松井田町が合併して新たに安中市としてスタートしました。これによって板鼻から碓氷峠までが一つの市になりました。

この安中市のほぼ中央を碓氷峠に源を発する碓氷川が東西に流れています。この碓氷川の北岸（左岸）の下野尻から郷原までは碓氷川中位段丘（安中・原市台地）が位置し、下野尻から西になるにつれて緩やかに標高が高くなります。この台地上は江戸時代には五街道の一つである中山道が横断し、現在は国道18号線がとおる交通の要衝です。この台地の西端に位置する郷原地区は畑作地帯ではありますが、近年は住宅が増えてきました。また、郷原地区の碓氷川寄りには安中工業団地が造成され、様々な工場が建ち並んでいます。さらに、その奥には郷原緑地があり、市民の憩いの場となっています。その中で今回、発掘調査を実施した郷原の堀端地区は安中工業団地のすぐ北に位置する、一面の畑が広がる畑作地帯であり、緑豊かな自然と共存した地域であります。今回、農道の拡幅工事に伴い発掘調査を実施した結果、縄文時代の遺構や古代の集落が見つかり、この地に古代の人々の営みが続けられていたことが明らかとなりました。この報告書はその調査成果をまとめたものです。本報告書が、學術分野に寄与するだけでなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査に従事していただいた方々、調査にご協力いただいた各関係機関をはじめとする皆様には感謝申し上げます。次第です。

平成20年12月

安中市教育委員会  
教育長 中澤 四郎

## 例 言

- 1 本書は安中市産業部農林課が実施した安中市単独土地改良事業（農道拡幅）に伴う郷原地区遺跡群内に所在する堀端遺跡（略称C-22）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 堀端遺跡は安中市郷原字堀端地内に所在する。
- 3 確認調査については国庫補助金・県費補助金により、平成19年度に安中市教育委員会が実施し、本調査及び遺物整理は原因者負担により、平成19年度に安中市教育委員会が直営で実施した。
- 4 確認調査及び発掘調査、遺物整理は安中市教育委員会学習の森文化財係主査（文化財保護主事）深町 真が担当した。
- 5 確認調査は平成19年6月4日より6月12日まで実施した。発掘調査は平成19年6月15日より10月1日までの間、実施した。資料整理は調査終了後より平成20年9月1日までの間、断続的に実施した。また、報告書作成は平成20年4月1日より10月31までの間、実施した。
- 6 本書の編集は深町が行い、主任（文化財保護主事）井上慎也が補佐した。本文の執筆は、縄文土器については、主査（文化財保護主事）壁伸明、石器については、井上が行った。それ以外を深町が行った。主な作業分担は以下のとおりである。  
遺構図の作成・トレース及び各種挿図の作成・デジタル編集：深町、吉澤栄子、大月圭子、菅生陽子  
土器の分類・台帳作成：深町（古代）、壁（縄文）、中里徳子  
遺物実測及び観察表作成：（有）前橋文化財研究所（土師器・須恵器）、深町、壁、中里（縄文土器）  
石器の分類・実測と観察表の作成：井上、菅生、吉澤  
各種データの入力・作成：吉澤、大月、菅生  
遺構・遺物写真データの作成・編集：深町、菅生、大月
- 7 遺構の写真撮影は深町が行った。航空写真撮影は（株）テクノプランニングに委託した。  
土師器・須恵器の写真撮影は（有）前橋文化財研究所に委託し、それ以外を深町が行った。
- 8 基準杭測量、グリッドの設定は（株）大成測量に委託した。
- 9 発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
- 10 発掘調査及び遺物整理の期間中次の方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。  
三浦京子 折館伸二 大工原 豊 谷藤保彦
- 11 調査組織（平成19・20年度）  
教育長 中澤四郎  
教育部長 佐藤伸太郎（平成19年度）  
富沢春寿（平成20年5月7日退職）  
本多英夫  
学習の森所長（参事）小島成公  
文化財係長（課長補佐）藤巻正勝（事務総括）  
主査 蜂須賀まゆみ（経理担当） 主査（文化財保護主事）深町 真（発掘調査・整理担当）  
主査（文化財保護主事）千田茂雄 主査 新井雅彦  
主査（文化財保護主事）壁 伸明 主任（文化財保護主事）井上慎也

発掘調査参加者

今井保美 石井俊介 片貝誠二 阪西 武 長井 明 戸高久暉 野口義則 長谷純則 湯本久江  
大沢早知子

整理作業参加者

大月圭子 菅生陽子 吉澤栄子 中里徳子 武田文吉 戸高久暉 萩原今朝治 橋爪千昭

## 凡 例

- 遺構の実測図は1/80を基本としたが、遺構の大きさにより1/40、1/160とした。
- 遺構図中の北マークは磁北である。なお、座標は2002年4月改正以前の日本測地系を使用した。本文中で使用した地図は国土地理院発行の地形図「松井田」(1/25,000)、安中市都市計画地図(1/2,500)である。
- 遺物実測図の縮尺は次のとおりである。  
土器：1/4(縄文土器実測図中の●は繊維土器を示し、実測図脇の●は須恵器を示す)  
石器：1/4 鉄製品・石製品・土製品：1/2 一部の石製品：1/4
- 土層説明中での記号、略称は次のとおりである。  
土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』による。  
色調<：より明るい方向を示す(暗<明)  
しまり、粘性 ◎：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし  
混入物の量 ◎：大量(30~50%) ○：多量(15~25%) △：少量(5~10%)  
※：若干(1~3%)  
混入物 RP：ローム粒子(溶け込んだ状態) RB：ロームブロック(固まりの状態)  
YP：板鼻黄色軽石

- ピットの深さ ○ 0~19cm ● 20~39cm ◐ 40~59cm ◑ 60cm以上

6 遺物重量分布及び遺物分布図マーク

土師器・須恵器			縄文土器			
	10g	100g	1000g	10g	100g	1000g
土師器壘系	●	●	●	前期 △	△	△
土師器坏系	■	■	■	中期 前半 ▲	▲	▲
須恵器	○	○	○	中期 後半 ○	○	○
その他 ▲	▲	▲	▲	後期 称名寺 ●	●	●
石器 縄物石 +	+	+	+	後期 堀之内 □	□	□
		10個		後期 時期不明 ■	■	■
		+		時期不明 ⊕	⊕	⊕
				無紋 ×	×	×
				底部 ↓	↓	↓

個数

7 石材と略号の対応関係は下記のとおりである。

略号	Ob	Ch	Sh	BAn	An	SS	Sc	GrR
石材	黒曜石	チャート	頁岩・泥岩	黒色安山岩・緻密質安山岩	安山岩	砂岩	結晶片岩類	緑色岩類

# 目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次・表目次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
(1) 発掘調査の経過	1
(2) 資料整理の経過	4
II 調査の方法	4
1 発掘調査の手順	4
2 遺構調査の方法	5
(1) 竪穴住居址の調査方法	5
(2) その他の遺構の調査方法	5
(3) 遺構測量、遺物の記録の方法	6
3 資料整理の方法	6
(1) 遺構図整理の方法	6
(2) 遺物整理の方法	7
(3) 写真整理の方法	10
(4) デジタル編集の方法	10
III 遺跡の地理的環境・歴史的環境	11
1 地理的環境	11
2 歴史的環境	11
3 基本層序	14
IV 検出された遺構と遺物	16
1 遺跡の概要	16
2 南調査区	16
(1) 縄文時代の遺構と遺物	16
a. 遺構	16
b. 縄文土器	27
c. 石器	36
(2) 奈良・平安時代の遺構と遺物	43
a. 遺構	43
b. 遺物	53
(3) 時期不明の遺構	64
a. 遺構	64
b. 遺物	65
3 北調査区	66
(1) 奈良・平安時代の遺構と遺物	66
a. 遺構	66
b. 遺物	70
(2) 中近世の遺構	76
V 成果と問題点	78
1 縄文時代の配石遺構について	78
2 奈良・平安時代の土器及び埴端遺跡の変遷について	81
3 墨書土器および刻書土器について	81
遺構観察表	90

写真図版

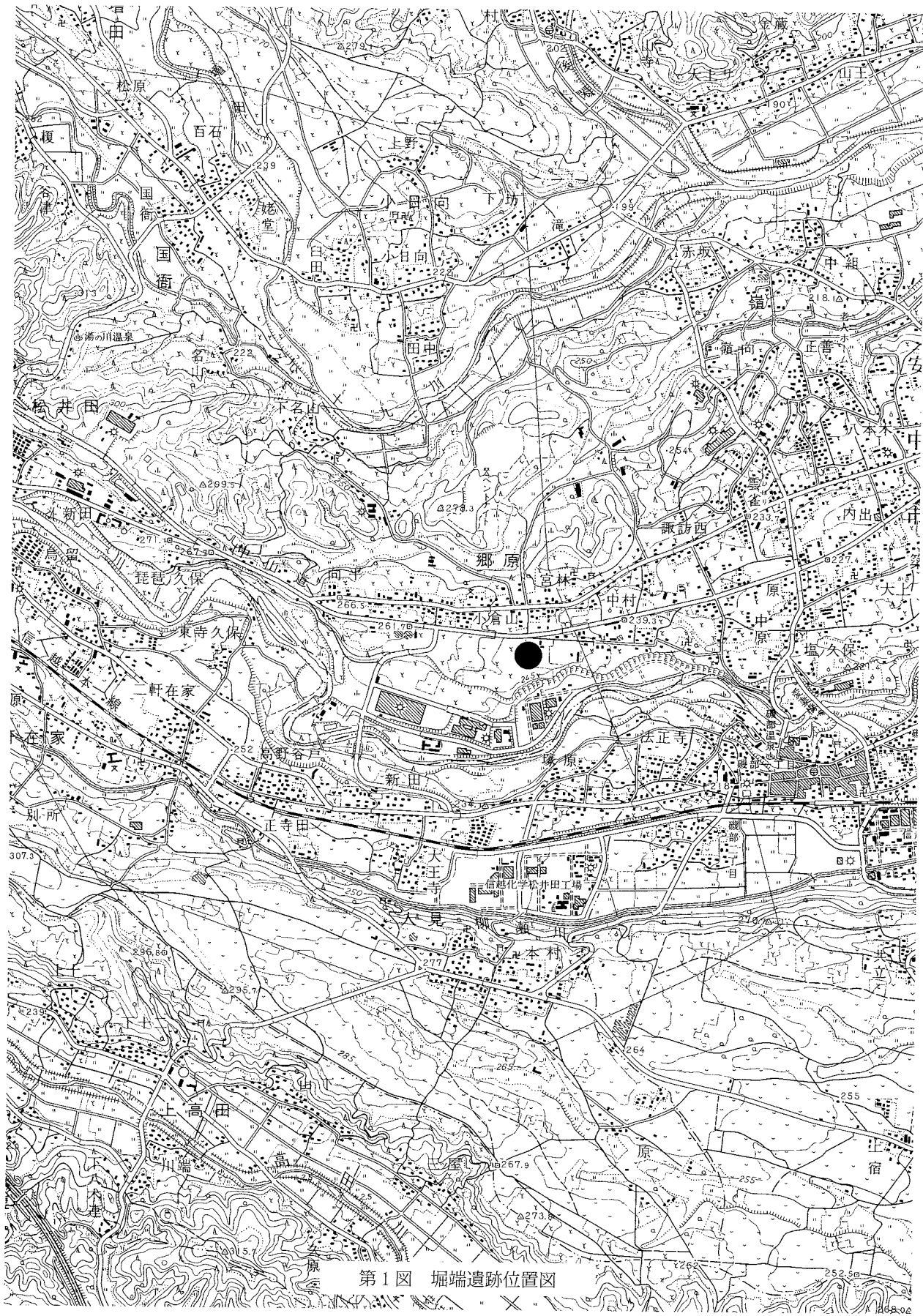


## 挿図目次

第1図	堀端遺跡位置図	第30図	M-1号溝実測図	51
第2図	堀端遺跡調査区設定図	第31図	M-2号溝実測図	52
第3図	郷原堀端地区確認調査トレンチ配置図	第32図	南調査区土師器・須恵器分布図	55
第4図	堀端遺跡と周辺遺跡分布図	第33図	H-4号・H-5号・HT-6号・H-2号住居址出土土器実測図	56
第5図	土層断面模式図・土層説明	第34図	H-3号住居址出土土器実測図(1)	57
第6図	堀端遺跡全体図	第35図	H-3号住居址出土土器実測図(2)	58
第7図	堀端遺跡南調査区全体図	第36図	H-6号住居址出土土器実測図(1)	59
第8図	S-1号配石遺構実測図	第37図	H-6号住居址出土土器実測図(2)	60
第9図	S-1号配石遺構遺物分布図	第38図	HT-1号・T-1号・JT-1号竪穴状遺構実測図	64
第10図	T-2号竪穴状遺構・T-3号竪穴状遺構実測図	第39図	南調査区土坑実測図(3)	65
第11図	T-4号竪穴状遺構・T-5号竪穴状遺構・JT-9号竪穴状遺構実測図	第40図	堀端遺跡北調査区全体図	67
第12図	JT-7号竪穴状遺構・T-7号竪穴状遺構実測図	第41図	T-8号住居址・H-10号住居址実測図	68
第13図	南調査区土坑実測図(1)	第42図	H-11号住居址・北調査区の土坑実測図	69
第14図	南調査区土坑実測図(2)	第43図	北調査区土師器・須恵器分布図	71
第15図	南調査区縄文土器分布図(1)	第44図	T-8号住居址・H-10号住居址出土土器実測図	72
第16図	南調査区縄文土器分布図(2)	第45図	H-10号住居址・H-11号住居址出土土器実測図	73
第17図	南調査区縄文土器重量組成	第46図	北調査区土坑及び遺構外出土遺物実測図	74
第18図	南調査区縄文土器実測図(1)	第47図	M-3号溝実測図	77
第19図	南調査区縄文土器実測図(2)	第48図	堀端遺跡S-1号配石遺構	79
第20図	南調査区縄文土器実測図(3)	第49図	安中市内の配石遺構位置図	79
第21図	南調査区縄文時代石器分布図	第50図	安中市内の配石遺構	80
第22図	南調査区縄文時代石器組成	第51図	堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(1)	82
第23図	南調査区縄文時代の石器実測図	第52図	堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(2)	83
第24図	H-4号住居址・H-8号住居址実測図	第53図	堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(3)	84
第25図	H-5号住居址実測図	第54図	堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(4)	85
第26図	HT-6号住居址実測図	第55図	堀端遺跡奈良・平安時代の変遷	86
第27図	H-3号住居址実測図	第56図	堀端遺跡出土墨書土器・刻書土器	87
第28図	H-2号住居址実測図	第57図	関連する墨書土器・刻書土器が出土した市内の遺跡	88
第29図	H-6号住居址実測図	第58図	市内の遺跡から出土した関連する墨書土器・刻書土器	89

## 表目次

第1表	遺構別調査方法一覧表	第13表	南調査区土師器・須恵器観察表(3)	63
第2表	遺構の記載方法	第14表	北調査区土師器・須恵器観察表(1)	75
第3表	石器系列・器種分類表	第15表	北調査区土師器・須恵器観察表(2)	76
第4表	石材系列・石材分類表	第16表	安中市内の配石遺構	78
第5表	周辺遺跡一覧表	第17表	堀端遺跡出土墨書土器・刻書土器一覧表	81
第6表	南調査区縄文土器観察表(1)	第18-1表	安中市内の関連墨書土器一覧表	88
第7表	南調査区縄文土器観察表(2)	第18-2表	安中市内の関連刻書土器一覧表	88
第8表	南調査区縄文土器観察表(3)	第19表	遺構観察表(1)	90
第9表	南調査区石器観察表(1)	第20表	遺構観察表(2)	90
第10表	南調査区石器観察表(2)	第21表	遺構観察表(3)	90
第11表	南調査区土師器・須恵器観察表(1)	第22表	遺構観察表(4)	90
第12表	南調査区土師器・須恵器観察表(2)	第23表	土坑観察表	91



第1図 堀端遺跡位置図

# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経過

平成19年4月13日、安中市産業部農林課（以下、農林課と記す。）から平成19年度安中市単独土地改良事業（農道拡幅）予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。該当場所は周知の埋蔵文化財包蔵地内にあり、開発については確認調査が必要であることを伝え、4月17日、農林課へ事業地内の土木工事等に係る意見書を提出した。4月19日、農林課から市教育委員会へ確認調査の依頼が提出された。これを受けて同年6月1日～12日の間、市教育委員会で確認調査を実施した。確認調査の結果、古代の住居址と溝、縄文時代の配石遺構などが検出され、事業区域内に埋蔵文化財が存在することが判明した。同年6月8日～12日、農林課へ確認調査の結果について伝え、検出された埋蔵文化財の取り扱いについて協議したが、市単独土地改良事業（農道拡幅）の計画を変更することは困難な状況であるとのことから、工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。同年6月11日、必要書類（法94条第1項通知、添付書類）が提出され、同年6月15日から市教育委員会が主体となって発掘調査を開始した。

## 2 調査の経過

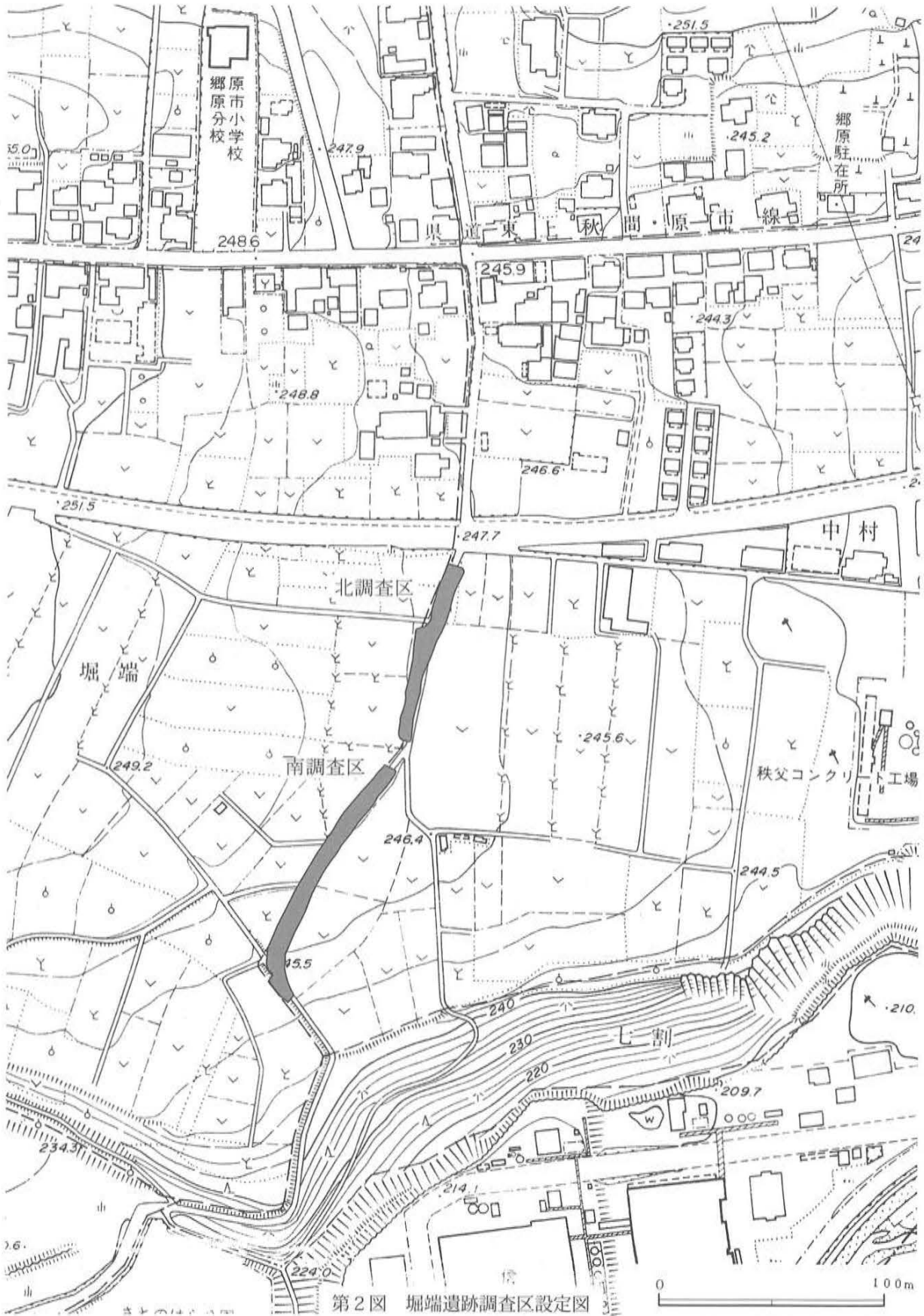
### （1）発掘調査の経過

平成19年度安中市単独土地改良事業（農道拡幅）の周辺地域は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内にあることから、本事業区域内にも埋蔵文化財の存在が予想された。このため、確認調査を平成19年6月1日から6月12日までの間、実施した。確認調査は、事業面積2,000㎡を対象とし、トレンチを8本設定した。確認調査の結果、古代の住居址と溝、縄文時代の配石遺構が検出され、本事業区域内に遺跡が存在することが明らかとなった。

本調査は周辺の農地の耕作の都合から南と北の2区に分けて実施することになった（以下、南調査区・北調査区と呼称する。）。

最初に南調査区の調査を6月15日から実施した。6月15日から表土・コンクリート剥ぎ及び遺構確認作業を行い、6月21日に表土・コンクリート剥ぎを完了した。6月29日に基準杭測量を行い、7月2・3日でグリットを分割しグリット毎に遺物を採取して、7月3日から遺構精査を開始した。8月9日に空撮を実施し、その後、遺構の平板測量を行った。8月28日に南調査区の調査を完了して埋め戻しを開始し、翌8月29日に埋め戻した。

続いて9月3日から北調査区の表土・コンクリート剥ぎを開始したが、9月6日に台風9号が関東地方に襲来し、北調査区全域が水没した。このため、翌9月7日から水抜きを始め、9



第2図 堀端遺跡調査区設定図





第3図 郷原堀端地区確認調査トレンチ配置図

月10日になって水抜きが完了したので、ようやく表土剥ぎを再開することができたが、9月11日夕方～12日午前中に大雨のためふたたび水没し、12日午後水抜きを行った。9月13日に基準杭測量を行い、遺構精査を開始し、9月22日に空撮を実施した。9月18日から始めた平板測量は9月27日までに完了した。翌9月28日から撤収作業に入り、10月1日に引っ越し作業を終了した。

## (2) 資料整理の経過

資料整理は、平成19年度と平成20年度に実施した。

平成19年度は、発掘調査終了後に遺物洗浄と注記を直営で行った後、土師器・須恵器の接合と坏・碗類25点の実測図・遺物観察表作成を前橋文化財研究所に委託した。

平成20年度は改めて土器・石器・礫の分類及び遺物台帳作成等の遺物整理を行った。また、遺構平面図・土層断面図等の修正・整理、現場遺構写真の整理、各種台帳の整理、図面トレース、データ集計を直営で実施した。続いて、縄文土器の遺物実測・トレース・拓本・遺物写真撮影を行い、土師器・須恵器41点、縄文土器2点の実測図・トレース・遺物観察表作成、及び19年度分と合わせて68点の遺物写真撮影を前橋文化財研究所に委託した。さらに、現場遺構写真をkodak社の「imagepac CD」化して、写真図版作成を実施し、並行して報告書作成をデジタル編集により行った。

## II 調査の方法

### 1 発掘調査の手順

発掘調査の方法及び手順は安中市中野谷地区遺跡群等の調査で採用している独自の方法を基本としているが、平板測量等従来の方法を用いた。詳細については、『大下原遺跡・吉田原遺跡』(1993)、『中野谷地区遺跡群』(1994)、『中野谷松原遺跡―遺構編―』(1996)を参照していただきたい。

発掘調査は、調査区の設定をした後、バックホー(0.4m<sup>3</sup>)で遺構確認面(Ⅲ層下部)まで掘削し、人力でジョレンを用いて遺構確認を行った。表土掘削後に基準杭測量及びグリッド設定を行った。グリッドは、4m四方を単位とし、その名称は北西隅を起点として、南北方向をアルファベット(A, B, C, ……、1A, 1B, 1C, ……)、東西方向をアラビア数字(1, 2, 3, ……)の組み合わせとした。また、1グリッド内を4分割し、北西から順番にa, b, c, dに細分した。また、検出された遺構については、遺構毎に遺構略称と番号を付け、遺構の内容に応じた精査を行い、遺物出土状況、土層断面状況及び完掘した遺構をリバーサル・フィルム及びモノクロ・フィルム(35mm)で写真撮影した。写真撮影終了後に各種の図面(遺構平面図、土層断面図等)を作成した。すべての遺構の精査が終了した後、ラジコンヘリコプターで遺跡の空中写真撮影を実施した。空中写真撮影後に平板測量を行った。

作業の種類	住居址	竪穴状遺構	土坑	ピット	溝	表採
グリット杭	基準杭測量を委託し、4mごとに分割。					
表土掘削・除去	バックホー (0.4㎡)、キャリアダンプ					
遺構確認	ジョレン					
遺構精査・掘削	移植ゴテ 三角鎌 (両刃) 中華用お玉 手鋤 竹篋 プラスチック製荷札					
遺構測量用	レベル スタッフ 平板 アリダード 三角スケール 巻尺 水糸 コンベックス 五寸釘 コノエダブル 対空標識					
遺物取り上げ法	分層16分割法	一括	一括	2mごと	グリットを4分割	
遺構平面図	平板測量					
土層断面図	やり方測量					
遺物分布図	デジタル方式					
エレベーション	図面起こし					
遺構写真	リバーサル・フィルム、モノクロ・フィルム (35mm)					

第1表 遺構別調査方法一覧表

## 2 遺構調査の方法

### (1) 竪穴住居址の調査方法

竪穴住居址の調査は、「分層16分割法」で行った。住居址の遺構の範囲を確定後、中心を東西南北に直交する2本のベルトを設定する（ポイントは赤色）。さらに、その間を16分割するための補助点を設定し、16分割区をつくる（ポイントは黄色）。南北方向のベルトに平行してサブレンチを設定し、土層を分層しながら床面まで人力で掘削する。住居址の深さと大きさが決まった後、分層毎に掘り下げを行う。遺物の取り上げは16分割を基本とし、上層の遺物は取り上げ、床直及び下層の遺物はそのまま残し遺構を掘り下げる。竈、土坑、ピット等の関連遺構の遺物は16分割とは別に遺構毎に取り上げる。ベルトを残しながら床面まで精査が終了した後、土層断面写真を撮影し、土層説明を記録する。土層の記録が完了した後、ベルトを崩す。床面を精査し柱穴（ピット）、貯蔵穴（土坑）を確認し精査する。平行して竈の精査も実施する。竈・土坑は半裁し、土層堆積状況を記録した後、完掘する。

### (2) その他の遺構の調査方法

竪穴状遺構は竪穴住居址の調査に準じた。

土坑は範囲を確認して半裁し、土層断面図を作成した。その後、残り半分を精査し完掘する。ピットは完掘した後、出土遺物を確認する。

溝は、任意に土層観察用のベルトを設定し、それ以外の部分を掘り下げ、ベルトの土層断面図を作成した。

### (3) 遺構測量、遺物の記録の方法

**遺構の平面図：**全ての遺構の平面図は、遺構完掘後、平板測量を行い、1/40または1/20で作成した。また、土層断面図は1/20で作成した。

**遺物の出土記録：**住居址・竪穴状遺構出土の遺物は、分割区毎、層別に取り上げ、遺物出土量を袋の大きさで相対的量（大量・多量・少量・微量）に置き換え、カードに記録し、報告書作成の段階で遺物分布図を作成した。なお、土坑やピットの覆土中のものは「覆土一括」で取り上げ、出土量を記録した。

## 3 資料整理の方法

### (1) 遺構図整理の方法

**住居址：**住居址の時期は最下層及び竈の遺物によって時期を決定した。重複のある場合は土層堆積状況と遺物出土状況により新旧の判断をした。報告書には各住居址の平面図、土層断面図、遺構断面図、遺物分布図、竈・土坑等の平面図及び土層断面図、土層説明表、住居址観察表を掲載した。平面図には柱穴（ピット）の深さを示し、配列が分かるようにした。

**竪穴状遺構：**住居址に準じる。

**土坑：**全ての土坑については、特定の機能を示さないで用いる「土坑」の用語で統一した。土坑の中には「墓」、「貯蔵用」と考えられるものも含まれるが、機能を明確に区別できるものは少ない。時期及び機能については特定するのが難しいため、本報告では平面形態と出土遺物の性格から判断することにした。報告書には平面図、土層（遺構）断面図、土層説明表、観察表を掲載した。

**溝：**遺構の時期については、確認面及び覆土中の遺物から判断した。報告書には平面図、土層（遺構）断面図、土層説明表、遺構観察表を掲載した。



遺構の種類	掲載図面等	時期決定の基準	備考
竪穴住居址	遺構平面図 遺物分布図（デジタル方式） 土層断面図 土層観察表 エレベーション 竈断面図 土坑断面図	竈出土遺物 床直遺物 最下層遺物	
竪穴状遺構	竪穴住居址に準ずる。	床直遺物 最下層遺物	
土坑	遺構平面図 土層断面図 土層観察表 エレベーション 土坑観察表	出土土器	直径が50cm以上の穴。平面形態から円形・楕円形・隅丸方形・不定形に区分した。また、断面形態から皿状・碗状・袋状に区分した。
ピット	遺構平面図	出土土器	直径が50cm未満の穴。
溝	遺構平面図 土層断面図 土層観察表 エレベーション 溝観察表	出土土器	数mおきにベルトをもうけ、土層を観察した。

第2表 遺構の記載方法

## (2) 遺物整理の方法

### ①土器の整理

土器は時代毎に大別し、おのおのを器種毎に分類した。土器は「量」を把握するために重量を区・層毎に記録し、16分割を基本とした遺物分布図を作成した。

縄文土器については、前期、中期前半、中期後半、後期（称名寺式期）、後期（堀之内式期）、後期（時期不明）、時期不明、無紋、底部に分類し、遺物分布図では底部以外は重量を、底部は個数を表示した。

奈良・平安時代の土器は、廃棄により覆土中から出土したものと床面直上及び住居に伴う遺棄（竈等の遺構出土）されたものとに区別し、後者を一括性をもつ土器群として捉えて検討した。

土器の分類は、破片と復元できる個体に分け、破片については器種毎に重量を記録した。復元できる個体については重量を記録した後、復元率によってランク付け（A～D）を行い、個体台帳を作成し、器種、接合状態、重量を記録した。土器の実測については、住居別、器種組成を考慮し、完形もしくは完形に近いものについては、極力図化に努めた。遺物の出土量を記録することは、破片についての情報も活用できるので、遺構全体での遺物の出土傾向が把握できる点で有効性をもつと判断した。報告書には遺構毎に土器群の特徴が検討できるものを優先して掲載した。実測した土器については、個別に観察表を作成した。また、土器群の特徴及び編年的位置付けについての所見を掲載した。

石器系列	器種系列(類)	種別	器種	技術的特徴	
打製系列	押圧剥離系列 (A類)	石器	石鏃 石錐 石匙A類 スクレイパーA類 (ScA) リタッチド・フレイクA類 (RFA) 楔形石器 石鎗	調整に押圧剥離を多用	
		剥片類	剥片A類 石核A類 原石A類		
	直接打撃系列 (B類)	石器	打製石斧 石匙B類 スクレイパーB類 (ScB) リタッチド・フレイクA類 (RFB)		調整に直接打撃を多用
		剥片類	剥片B類 石核B類 原石B類		
使用痕系列	形状選択系列 (C1類)		凹石 磨石 石皿 球石 部分研磨石器	研磨痕・敲打痕により 石器と認識できるもの	
	形状非選択系列 (C2類)		敲石 台石 砥石		
複合技術系列	非機能系列 (D類)		石棒 棒状礫 鎗状石器 多孔石 丸石	直接打撃・敲打・研磨 を複合的に用いる。	
	機能系列 (E類)	石器	磨製石斧		
		剥片類	剥片E類 石核E類 原石E類		
	装身具系列 (F類)	石器	垂飾 塊状耳飾 管玉 勾玉 石製円盤 各種石製品 ストーン・リタッチャー		
剥片類		剥片F類 原石F類			

第3表 石器系列・器種分類表

石材系列	石 材	石材の特徴
I 類 剥片最適系列	黒曜石 チャート 硬質頁岩 黒色安山岩 めのう・玉随 鉄石英 (赤玉・黄玉) 硅質岩 流紋岩 (硬質)	硬質で粘度が少ない。 剥片剥離に最も適する。 剥離面は極めて平滑で、エッジは鋭利。
II 類 剥離適合系列	頁岩類 (泥岩・シルト岩) 硬質砂岩 輝緑凝灰岩 ホルンフェルス	多少軟質でやや粘度がある。 剥離に適する。 剥離面はやや平滑で、エッジはやや鋭利。
III a 類 剥離不適系列	安山岩類 石英閃緑岩	やや軟質で粘度がある。 剥離に不適である。 割れ面は粗面で、エッジは鋭利でない。 耐火性に富む。
III b 類 剥離不能系列	砂岩 (牛伏砂岩) 凝灰岩	軟質で粘度がない。 剥離に極めて不適である。 割れ面は極めて粗面で、エッジは鈍い。
IV 類 節理系列	結晶片岩類	硬質な部分と軟質な部分があり、粘度は ややある。 節理で剥離に方向性があり、やや不適で ある。 剥離面の鋭利さは方向に左右され一定で はない。
V 類 緻密質系列	緑色岩類 蛇紋岩 蛇灰岩	緻密質で比較的硬質で、粘度もある。 剥離にあまり適さない。 剥離面は粗面で、エッジはやや鋭利。
VI 類 その他	翡翠 滑石 軽石 礫岩 軟質泥岩 溶岩 石英斑岩 珪化木 石英 緑色凝灰岩 (グリーンタフ) 黒雲母流紋岩 (下呂石) 斜長石	比較的希少な多種多様な石材

第4表 石材系列・石材分類表

## ②その他の遺物の整理

遺物の種類毎に分類し、各台帳（観察表）を作成した。石器については安中市の分類基準に準じて分類した。

## （３）写真整理の方法

発掘調査時に撮影した写真については、35mmのリバーサル・フィルム（カラー）及びモノクロ・フィルム別にファイルし、アルバムを作成した。また、リバーサル・フィルムはkodak社の「imagepac CD」に記録してデジタル化した。

遺構写真図版は、画像を全てデジタル化し、遺構毎のフォルダを作成した。使用カットは遺構全景、遺構土層堆積状況（セクション）、遺物出土状況を基本とし、必要に応じてカットを追加した。デジタル画像は全てカラーとした。

遺物写真は、全てデジタルカメラによって撮影（一部委託）し、遺構写真と同様、画像をデジタル化した。

遺物写真図版は、実測した土器及びその他の遺物について全て単体で撮影した。

## （４）デジタル編集の方法

遺構図及び遺物実測図については、デジタル機器（パソコン・スキャナー等）を使用して編集した。遺構図については、原図を修正した後、スキャナーで図面を取り込み、デジタルトレースで挿図を作成した。

手書きのトレースや地図については、スキャナーで取り込み、画像を編集し、挿図を作成した。

遺物観察表は表計算ソフトを使用して作成した。

写真図版は「imagepac CD」化した画像データを使用して、報告書に必要な写真を選別し、編集した。



### Ⅲ 遺跡の地理的環境・歴史的環境

#### 1 地理的環境

安中市は群馬県西部（西毛地域）の一角を占め、板鼻の低地から碓氷峠まで東西に細長く広がる。安中市の中央を碓氷峠付近を水源とする碓氷川が西から東へ流れ、市域を南北に分断する。また、碓氷川の北側には並行して九十九川が流れており、西毛運動公園付近で碓氷川に合流する。

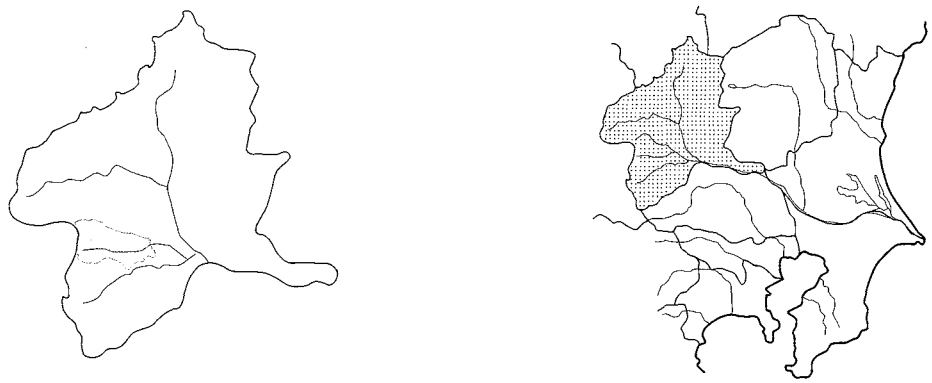
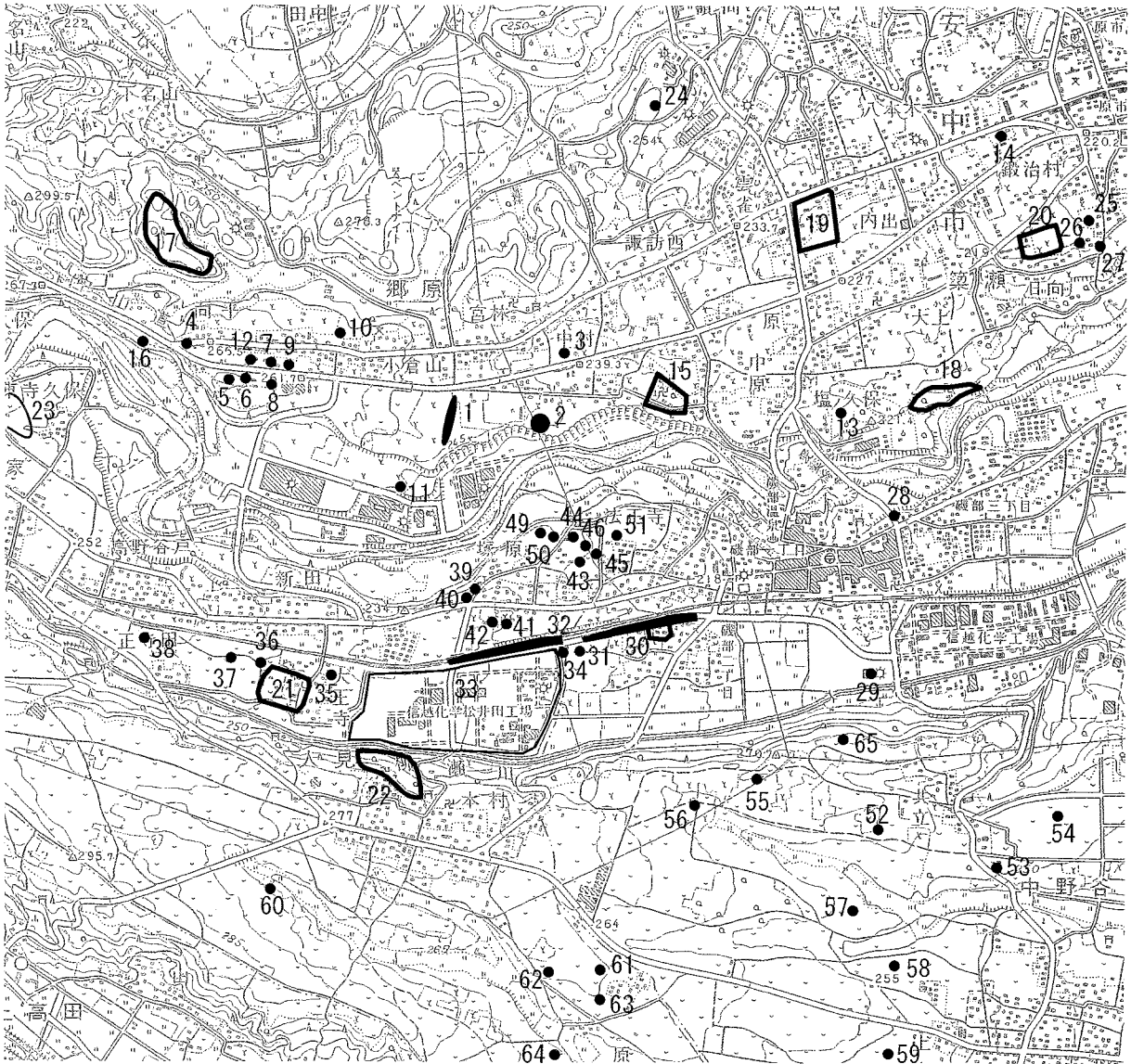
この碓氷川の流域には、河岸段丘が発達し、碓氷川下位段丘（磯部地区）、碓氷川中位段丘（安中・原市地区）、碓氷川上位段丘（横野地区）に区分される。このうち、碓氷川中位段丘は碓氷川の左岸の郷原地区から下野尻地区まで続く台地（安中・原市台地）を形成し、郷原が高く、東にいくにつれて低くなっている。また、郷原地区の自性寺・日枝神社の北には丘陵があり、その北を八咫川が北東方向に流れ、台地を開析して谷底平野を造り、水田となっている。やがて古屋地区で九十九川に合流する。また、郷原の北西にある名山地区には松井田丘陵から続く名山丘陵が連なっている。安中原市台地は郷原の西端の墓戸で馬の背状に狭くなっている。

堀端遺跡は安中市郷原字堀端地内に所在し、碓氷川と八咫川に挟まれた碓氷川中位段丘面（安中・原市台地）に位置する。本遺跡の標高は、約244m～246mである。本遺跡のすぐ南側は、急峻な崖となり、崖下は碓氷川下位段丘面となっている。

#### 2 歴史的環境

郷原地区には、縄文時代前期・中期・後期、奈良・平安時代の遺物散布地（市No.312～318）が広がるが、発掘調査された箇所が少ないため、遺跡分布の状況は不明な点が多い。平成20年度現在までに調査された状況をもとにして概観してみることにする（第4図・第5表）。平成19年には、鉄塔建て替え工事に伴い、中村遺跡が調査され、縄文時代前期前半～後期前半にかけての遺物包含層と土坑3基及び中世の溝を検出した（2、井上 2008）。また、旧国道18号線の水道工事で発見された郷原墓戸遺跡からは弥生時代Ⅳ期の赤色塗彩された小型注口付き壺が出土した（4）。また、郷原地区の西部には、円墳を主体とする郷原古墳群が存在し、現在でも原市1号墳（6、6世紀後半）を始め数基の円墳が分布する（7～12）。このうち、昭和45年に調査された上毛古墳綜覧原市4号墳（6世紀末～7世紀前半）が平成18年に再調査され、基壇面・基壇葺石・周堀が検出された（5、千田 2007）。また、郷原地区を通る現在の旧国道18号沿いは、古代東山道の推定ルートとされており、近世には中山道として機能した。中世では、中村遺跡の北にある自性寺には、室町時代の宝篋印塔2基（応永3年（1396）・嘉吉3年（1443））があり、市指定重要文化財に指定されている。また、民間開発に伴う中村遺跡の平成16年確認調査地点では、中世の井戸を検出した（3）。平成19年度に調査された中村遺跡の東には菅沼城（15、海雲寺境内）が存在する。また、郷原の西端の酒盛山は中世の砦跡である（16）。

郷原地区の隣接地についてみると、北東に位置する嶺地区の鍛冶ヶ嶺遺跡からは縄文時代の



第4図 堀端遺跡と周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	旧	縄文時代					弥生時代			古墳時代				奈良	平安	中世	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	終	前	中	後				
1	堀端遺跡				△	△	○								◎	◎	△	
2	中村遺跡(平成19年度)				△	△	※										△	
3	中村遺跡(平成16年度)																△	
4	郷原墓戸遺跡							※										
5	原市4号墳												◎					郷原古墳群
6	原市1号墳(山の神)												◎					郷原古墳群
7	原市6号墳(衣笠様)												◎					郷原古墳群
8	原市7号墳(須賀神社)												◎					郷原古墳群
9	原市8号墳(三ツ峯山)												◎					郷原古墳群
10	原市9号墳												◎					郷原古墳群
11	原市10号墳												◎					郷原古墳群
12	増田化学古墳												◎					郷原古墳群
13	東下毛山古墳												◎					
14	原市11号墳												◎					
15	菅沼城																◎	
16	酒盛山																◎	
17	名山城																◎	
18	滝山城																◎	
19	築瀬内出																◎	
20	八幡平陣城																◎	
21	大王寺城																◎	
22	人見城																◎	
23	二軒在家城																◎	
24	鍛冶ヶ嶺遺跡			○												◎		
25	築瀬二子塚古墳												◎					前方後円墳
26	首塚古墳												◎					
27	八幡平Ⅱ遺跡				○	○												
28	塩ノ久保遺跡												◎					円墳
29	田中田・久保田遺跡												◎			○		
30	新寺地区遺跡群			△	○								◎		◎	◎		
31	西裏遺跡				○			※					◎	○	○	◎		
32	人見北原遺跡					※							○			○		
33	松井田工業団地					※			○	○	○		◎		◎	◎		
34	松井田工業団地Ⅱ					※	※						◎			◎		
35	人見大王寺遺跡													○		◎	△	
36	人見中の條遺跡														○	◎		
37	人見中の條2遺跡													○	◎	◎		
38	人見正寺田遺跡								◎							◎		
39	西横野10号墳												◎					人見古墳群
40	西横野11号墳												◎					人見古墳群
41	西横野13号墳												◎					人見古墳群
42	西横野14号墳												◎					人見古墳群
43	西横野16号墳												◎					人見古墳群
44	西横野17号墳												◎					人見古墳群
45	西横野18号墳												◎					人見古墳群
46	西横野19号墳												◎					人見古墳群
47	西横野20号墳												◎					人見古墳群
48	西横野21号墳												◎					人見古墳群
49	西横野22号墳												◎					人見古墳群
50	西横野23号墳												◎					人見古墳群
51	西横野24号墳												◎					人見古墳群
52	加賀塚遺跡			○	○			※					◎	◎				
53	天神原遺跡			○		◎	◎						○			○		
54	中野谷松原遺跡	△	※	◎	◎	○							◎		△			
55	中野谷原遺跡				△			◎	○			○	◎		△	△		
56	上北原遺跡								◎				○		△	△		
57	中島・中島Ⅱ遺跡			○	◎	○					○		◎					
58	砂押・砂押Ⅱ・砂押Ⅲ				◎	○									△	△		
59	大道南・大道南Ⅱ				◎	◎												
60	上人見遺跡							△										
61	人見東原遺跡											○						
62	人見東原Ⅱ遺跡				◎												△	
63	人見西下原遺跡				△													
64	人見枝谷津遺跡				◎						○	◎				◎		
65	磯部2号墳												◎					

◎：大規模な遺跡（住居址5軒以上、古墳、城館） ○：中規模な遺跡（住居址4軒以下、水田、畑）  
△：小規模な遺跡（土坑、ピット、溝など） ※：遺物のみ

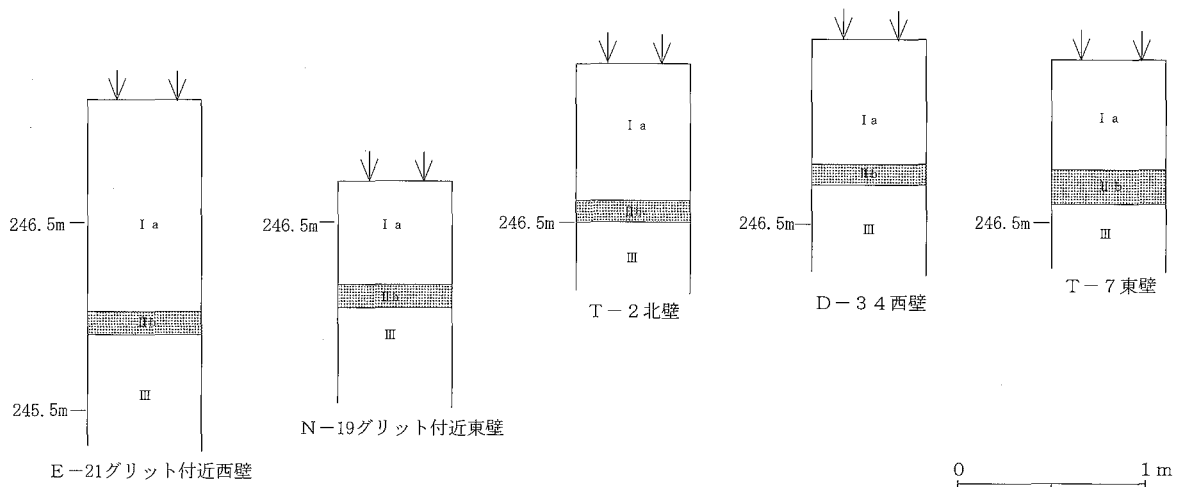
第5表 周辺遺跡一覧表

竪穴住居址 2 棟、奈良・平安時代の竪穴住居址 2 棟とともに、大型の堀立柱建物址 4 棟が検出され、寺院跡または官衙跡と推測される (24、千田 2001)。また、築瀬には関東地方で最初に横穴式石室を取り入れた前方後円墳の築瀬二子塚古墳がある (25、6 世紀初頭)。中世には、築瀬八幡平に陣城が築かれ (20)、碓氷川沿岸に滝山城が築かれた (18)。また、名山の丘陵地には名山城が築かれた (17)。

碓氷川の右岸についてみると、碓氷川上位段丘 (横野台地) 上には縄文時代～古墳時代までの各種の時代の遺跡が存在する (52～65)。碓氷川寄りには人見古墳群が分布する (38～51)。また、人見正寺田地内～西上磯部新寺地内にかけては、大王寺地区遺跡群としてまとめられるような古墳時代後半～平 9 安時代にかけての遺跡群が認められ、墨書土器が多いことも注目される (30～38)。中世になると、大王寺地区に大王寺城 (21)、上人見の段丘崖寄りに人見城 (22) が築かれた。

### 3 基本層序

堀端遺跡の土層堆積は、浅間 A 軽石 (As-A) の混入する I a 層 (黒褐色) の下に浅間 B 軽石 (As-B) の純層である II b 層 (灰褐色) が続き、さらにその下に弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺物包含層である III 層 (黒色) の順で堆積がみられた (第 5 図)。土層の堆積は南調査区では北ほど厚く、南端では 0.5m ほどであるが、北端では約 1.5m あった。北調査区では遺構確認面までは平均 1.5m である。 (深町 真)

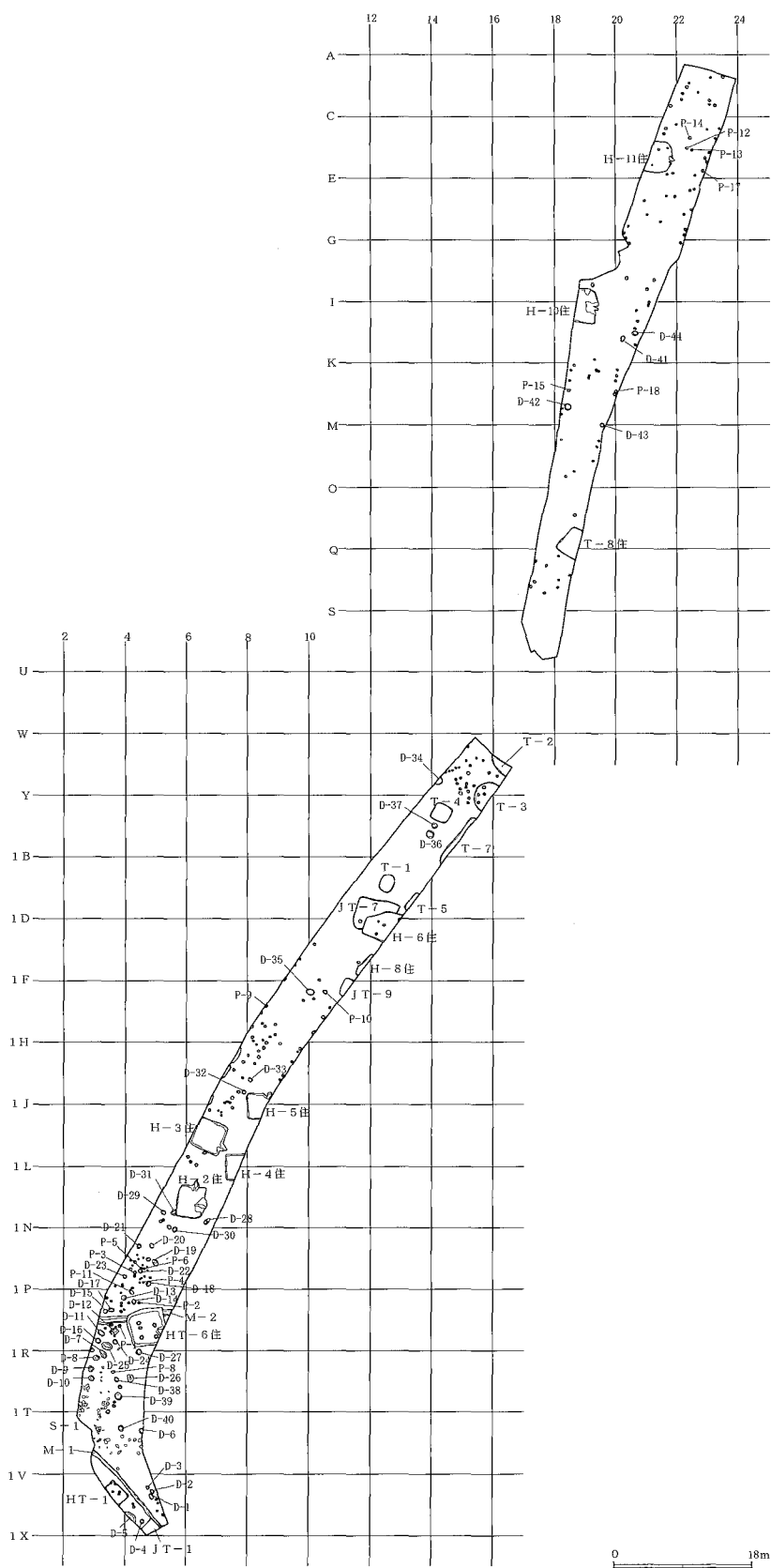


層名	色調	しまり	粘性	混合物						備考
				RP	RB	YP	As-A	As-B		
I a 黒褐色土層		△	△				○		耕作土	
I b 灰白色軽石層	I a < I b	×	×				◎		A 純層	
II a 黒色土層	I b > II a	△	○					○	B 純層	
II b 灰褐色軽石層	II a < II b	×	×					◎		
III 黒色土層	II b > III	△	○							
IV 暗褐色土層	IV a > IV	○	○	*					上部に IV a	
V 暗黄褐色土層	IV < V	◎	◎	◎	◎				上部にスッ	
VI 黄色軽石層	V < VI	×	×			◎			Y P 純層	

基本土層説明

第 5 図 土層断面模式図・土層説明

堀端遺跡全体図



第6図 堀端遺跡全体図

## IV 検出された遺構と遺物

### 1 遺跡の概要

堀端遺跡は南調査区と北調査区に分けて調査した（第6図）。主な遺構は、縄文時代の配石遺構、縄文時代の土坑・竪穴状遺構、奈良・平安時代の住居址8軒及び溝2条、中近世の溝1条である。

#### 南調査区（第7図）

南調査区では、調査区南寄りで縄文時代の配石遺構や土坑群が検出し、調査区北寄りでも縄文時代の遺構を検出した。また、奈良・平安時代の住居址5軒および溝2条などを検出した。

#### 北調査区（第40図）

北調査区では奈良・平安時代の竪穴住居址2軒と竪穴状遺構1基、土坑4基を調査した。また、奈良・平安時代の確認面よりも上で溝1条を検出した。

### 2 南調査区

#### （1）縄文時代の遺構と遺物

##### a. 遺構

##### 配石遺構

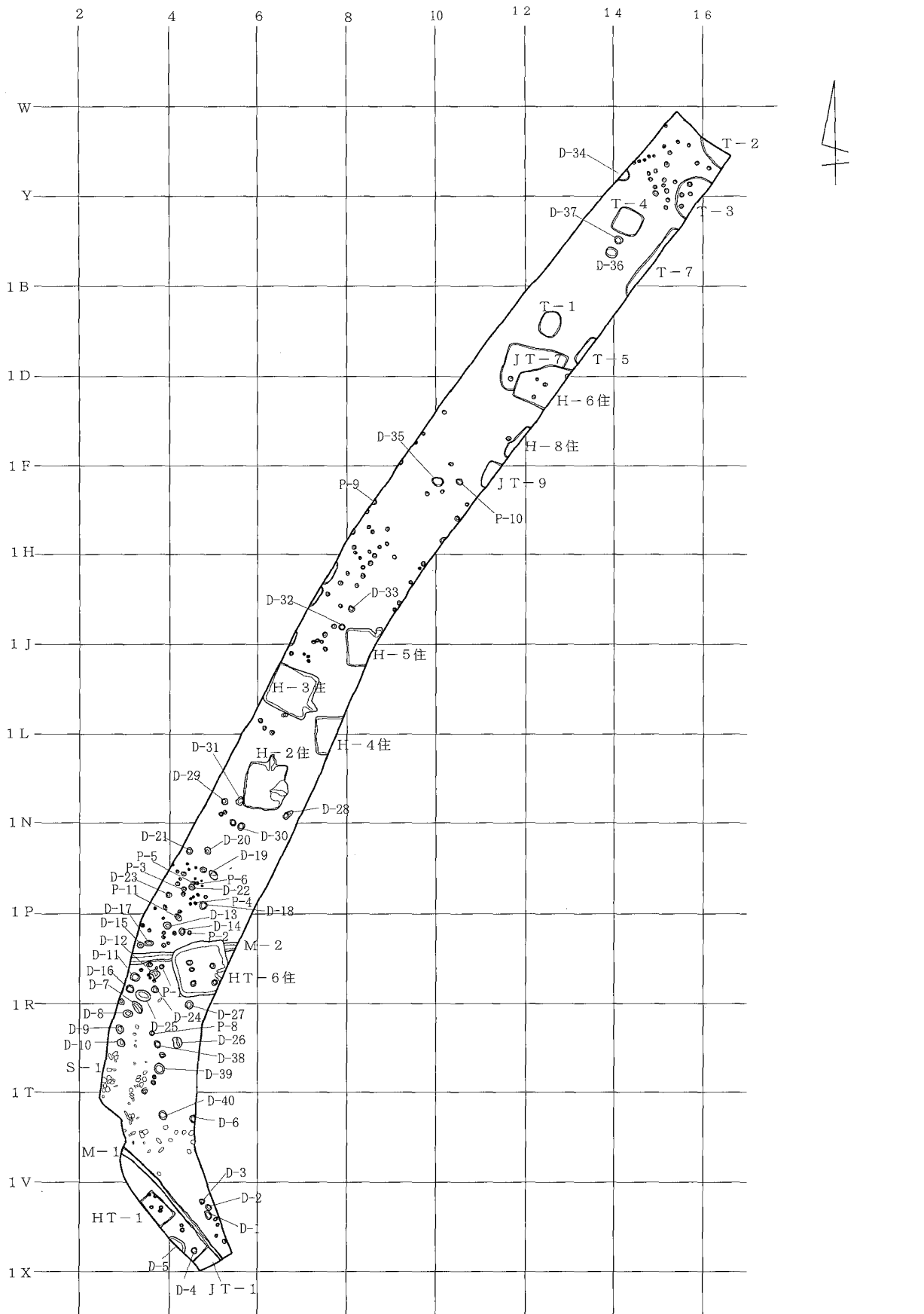
##### S-1号配石遺構（第8図・第9図）

南調査区の南端付近で大振りの石（安山岩、被熱なし。）を並べて配置した遺構で、周辺から縄文土器や石器も多く出土した。全体としてL字形に並んでいるが、調査区の西側及び東側にも広がっている可能性がある。また、P-8、D-38号土坑、D-39号土坑などがL字形の縦棒の東側に半円形に並んでいた。この配石遺構の周辺からは堀之内式土器（第19図22・24、第20図2・10・12）が出土しており、この遺構も縄文時代後期初頭に属すると考えられる。また、石器でもリッタチドフレイク（第23図5）・打製石斧（第23図9）などが配石遺構の周辺から出土している。

##### 竪穴状遺構

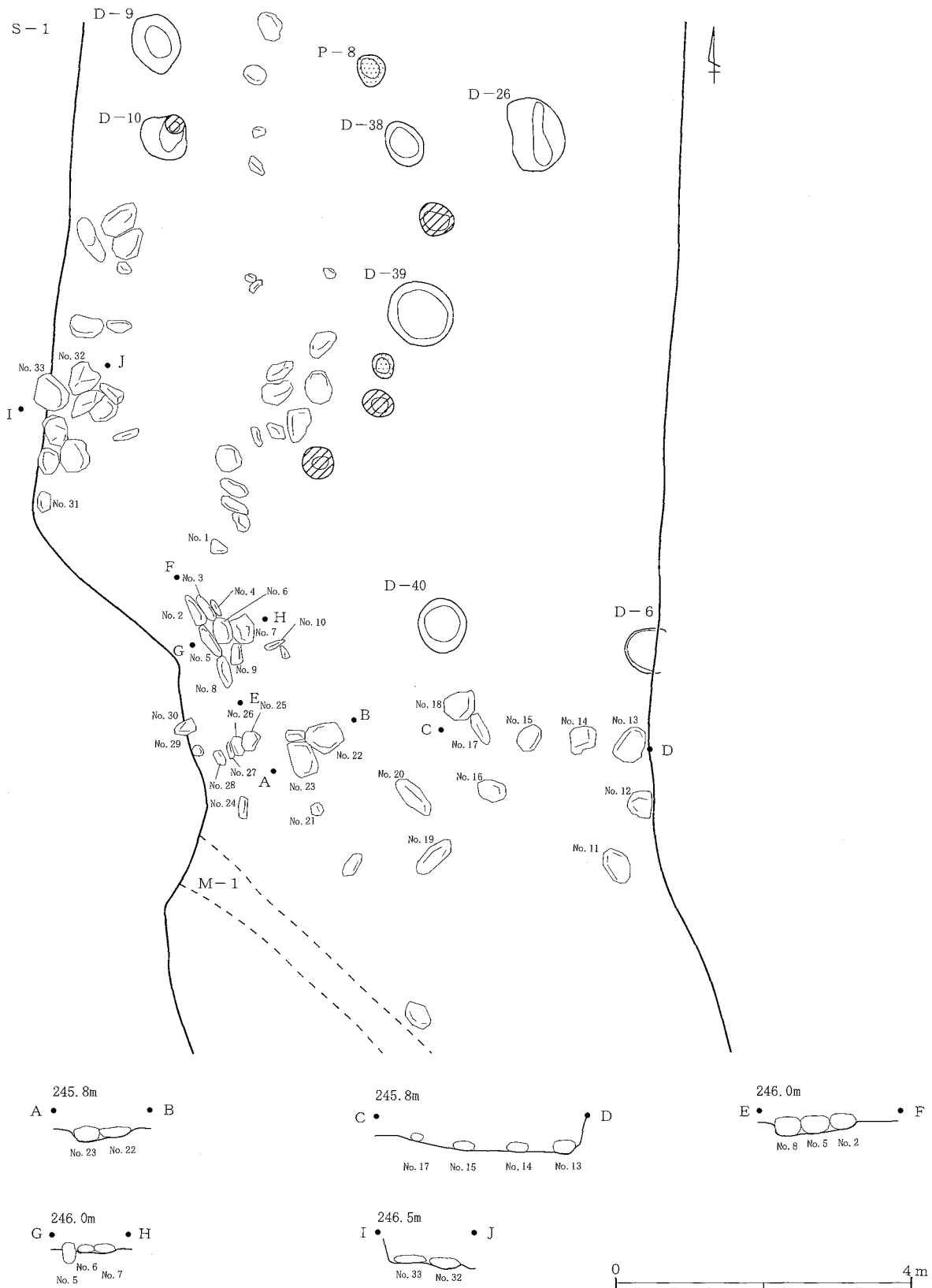
##### T-2号竪穴状遺構（第10図）

南調査区北端に位置する。調査区の関係で全体の調査はできなかったが、半径3mの平面円形と推測される。遺物は称名寺式土器（第18図1～3）が出土しており、遺構は縄文時代後期初頭に属する。また、13区から凹石が出土した（第23図12）。



第7図 堀端遺跡南調査区全体図



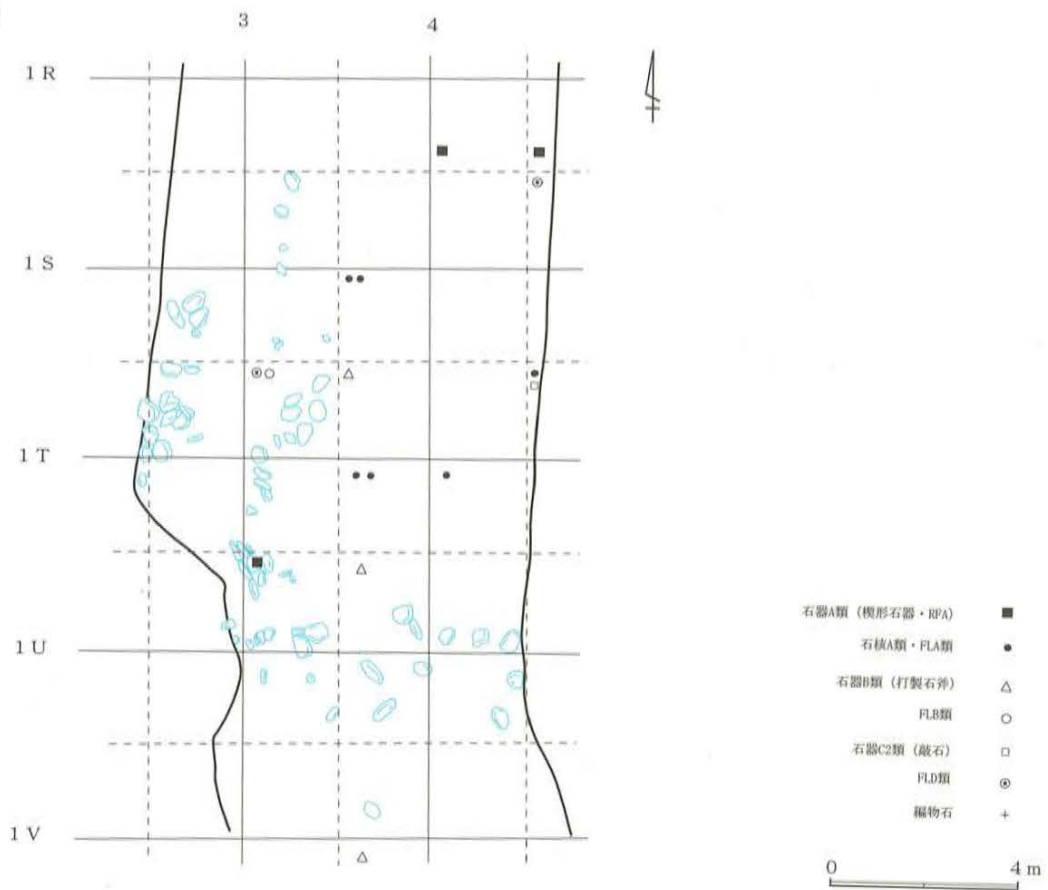


第8图 S-1号配石遺構実測図

縄文土器分布図

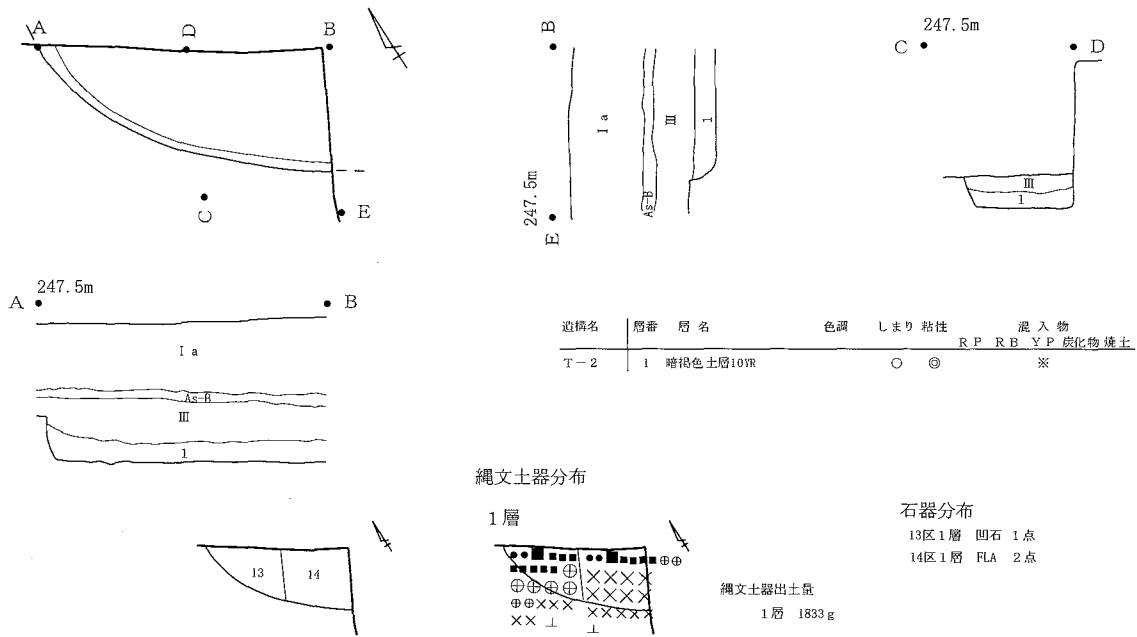


石器分布図

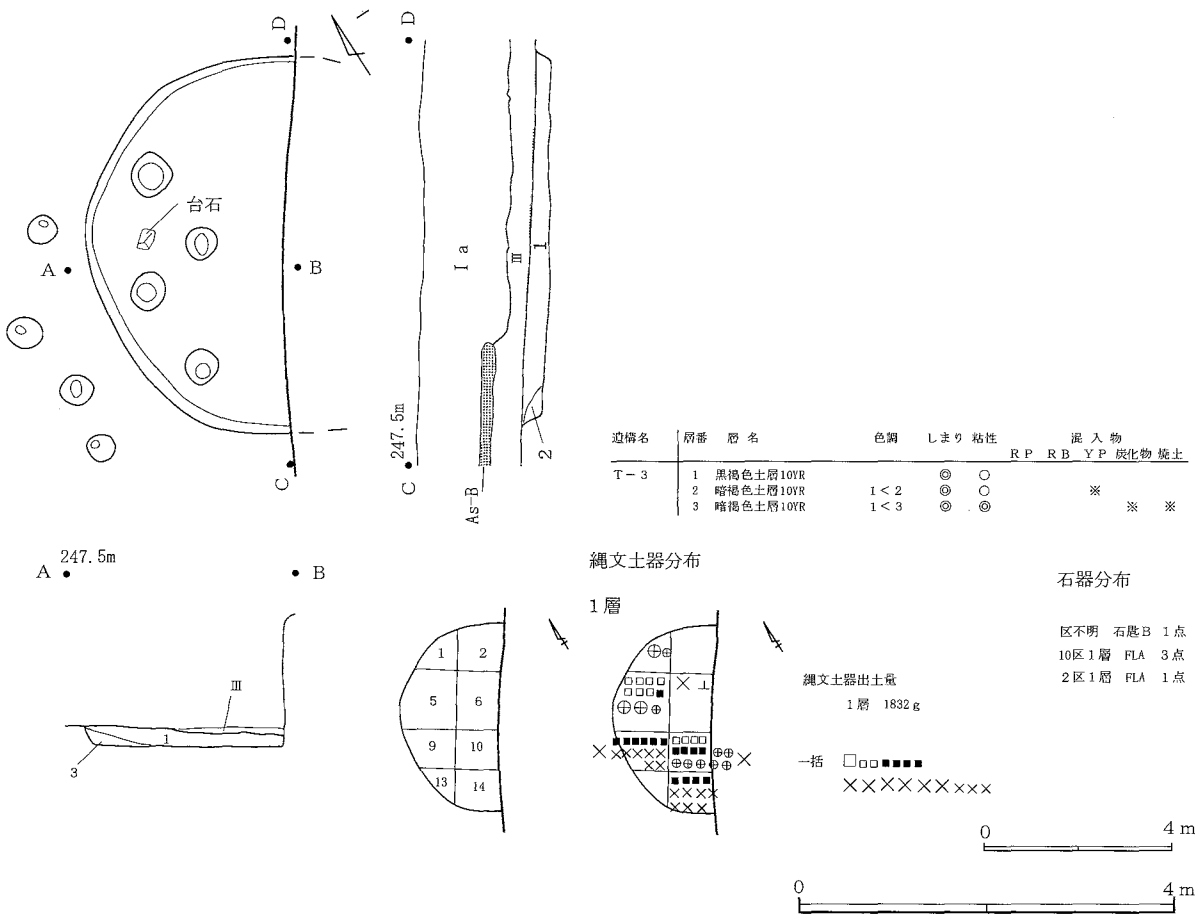


第9図 S-1号配石遺構遺物分布図

T-2号竖穴状遺構

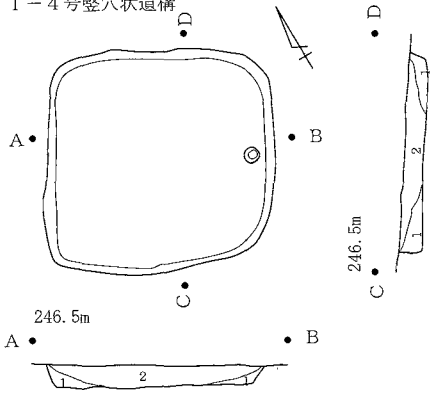


T-3号竖穴状遺構



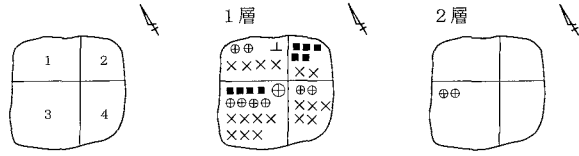
第10図 T-2号竖穴状遺構・T-3号竖穴状遺構実測図

T-4号竖穴状遺構



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	R	B	Y
T-4	1	暗褐色土層10YR	1 > 2	○	◎	※	※	※	※	※
	2	黒褐色土層10YR								

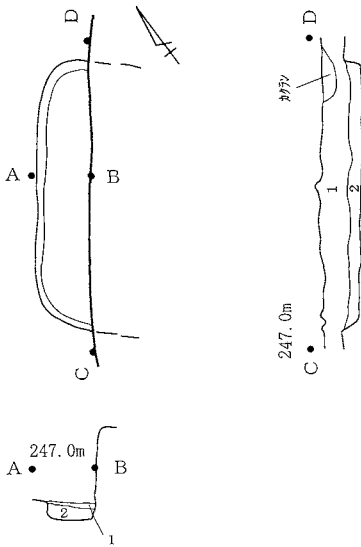
縄文土器分布



縄文土器出土量

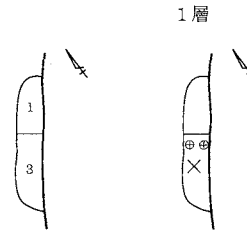
1層 488g

T-5号竖穴状遺構



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	R	B	Y
T-5	1	黒色土層10YR	1 < 2	◎	◎					○
	2	黒褐色土層10YR								

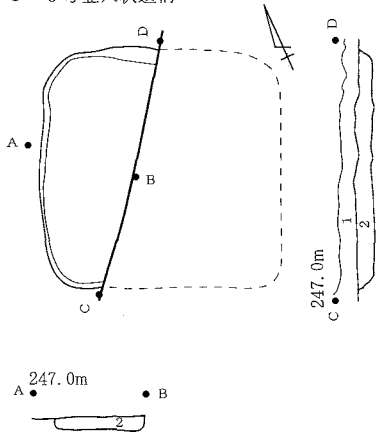
縄文土器分布



縄文土器出土量

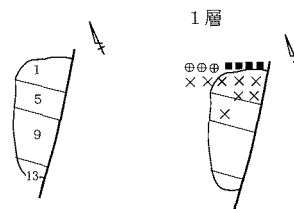
1層 114g

J T-9号竖穴状遺構



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
						R	P	R	B	Y	
J T-9	1	黒色土層10YR	1 < 2	△	○					※	Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR									

縄文土器分布



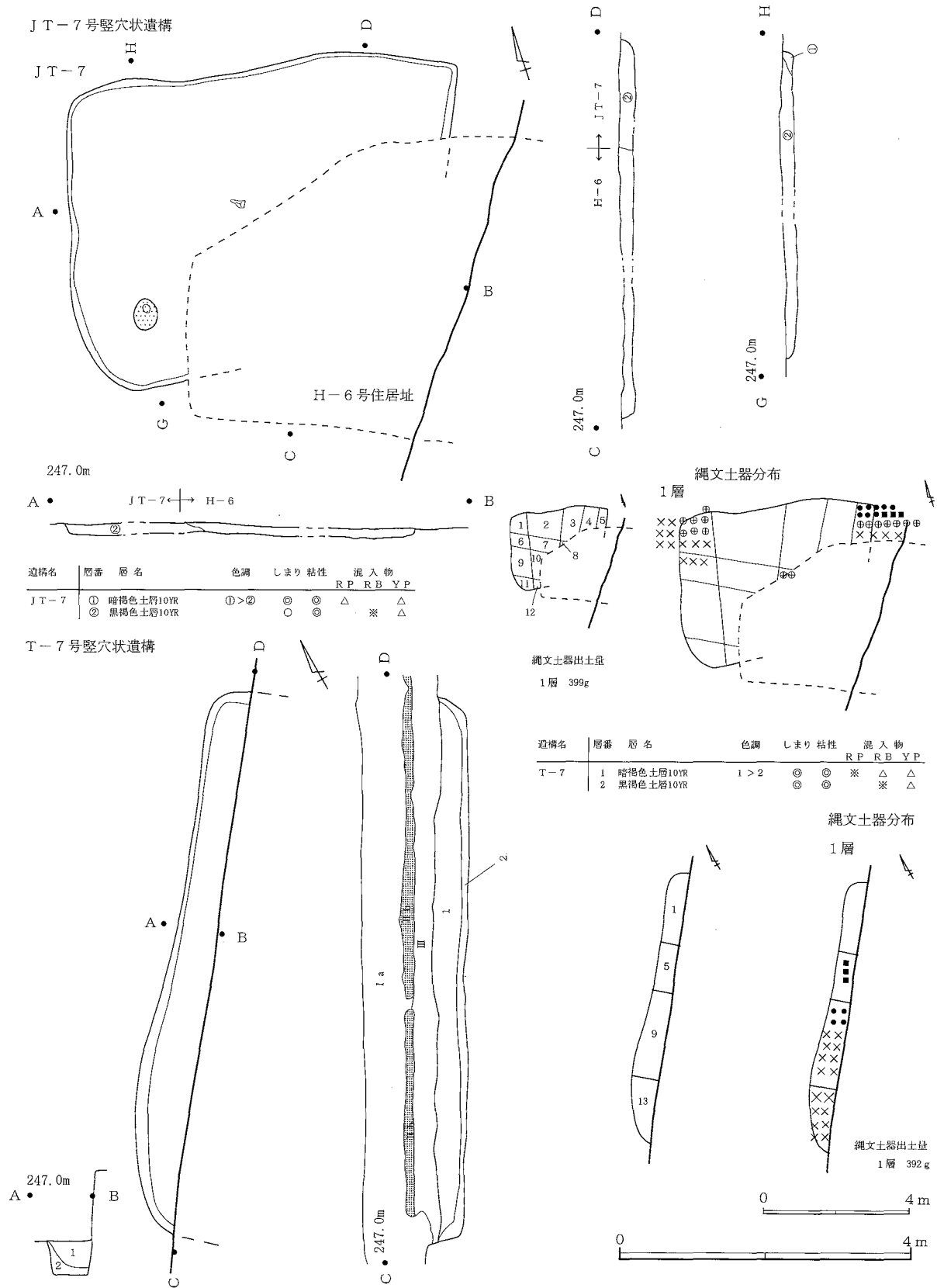
縄文土器出土量

1層 141g

0 4 m

0 4 m

第11図 T-4号竖穴状遺構・T-5号竖穴状遺構・J T-9号竖穴状遺構実測図



第12図 JT-7号竖穴状遺構・T-7号竖穴状遺構実測図

### T-3号竪穴状遺構（第10図）

全体の調査はできなかったが、直径4mの平面円形と推測される。遺物は称名寺式土器（第18図4）、堀之内式土器（第18図5・6）が出土しており、縄文時代後期初頭～前葉に属する。また、石匙（第23図6）や台石が出土した。

### T-4号竪穴状遺構（第11図）

1辺2.6mの平面正方形を呈する。遺物は称名寺式土器（第18図7）が出土しており、縄文時代後期初頭に属する。

### JT-7号遺構（旧H-7、第12図）

長軸5.4m、南北4.2mの平面長方形を呈する。H-6号住居址と重複する。遺物は加曾利E式土器（第18図9）、称名寺式土器（第18図10・11・12）が出土している。

### T-5号竪穴状遺構（第11図）

東側が未調査であるが、南北2.8mを計る。平面長方形を呈すると推測される。遺物は加曾利E式土器（第18図8）が出土し、縄文時代中期後半に属する。

### T-7号竪穴状遺構（第12図）

東側が未調査であるが、南北7.44mを計る。平面正方形を呈すると推測される。遺物は加曾利E式土器（第18図13）、堀之内式土器（第18図14）が出土している。

### JT-9号竪穴状遺構（旧H-9、第11図）

東側が未調査であるが、南北2.6mを計る。平面長方形を呈すると推測される。遺物は称名寺式土器（第18図15）が出土し、縄文時代後期初頭に属する。

## 土坑

南調査区の土坑は40基あるが、このうち、縄文時代の遺物が出土した土坑25基（D-1、D-4、D-5、D-6、D-7、D-8、D-9、D-10、D-11、D-13、D-14、D-15、D-16、D-17、D-19、D-24、D-25、D-26、D-27、D-31、D-34、D-35、D-39、D-40）、縄文時代の遺物が出土した土坑と覆土が似た土坑を集めた。

**D-1号土坑（第13図）** 平面形は隅丸方形、断面形は皿状である。黒浜式土器（第18図16）が出土しており、縄文時代前期前葉に属する。

**D-5号土坑（第13図）** 平面形は隅丸方形、断面形は皿状である。黒浜式土器（第18図17）が出土しており、縄文時代前期前葉に属する。

D-7号土坑（第13図） 平面形は楕円形、断面は碗状である。堀之内式土器（第18図18）が出土しており、縄文時代後期前葉に属する。

D-9号土坑（第13図） 平面形は楕円形、断面は碗状である。堀之内式土器（第18図20・21）が出土しており、縄文時代後期前葉に属する。

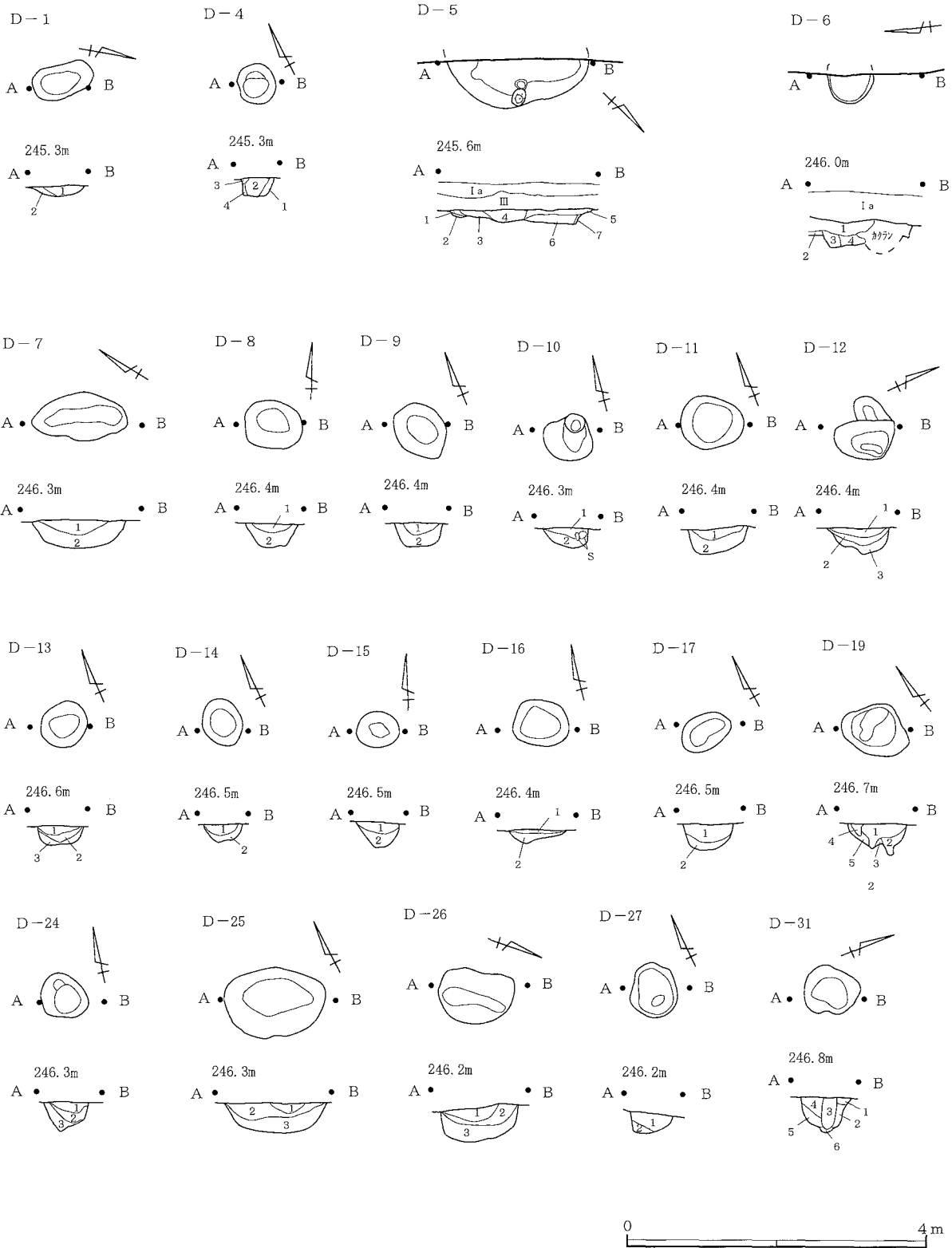
D-15号土坑（第13図） 平面形は楕円形、断面は碗状である。堀之内式土器（第18図22）が出土しており、縄文時代後期前葉に属する。また、石製品（第23図17）が出土した。

D-17号土坑（第13図） 平面形は楕円形、断面は碗状である。加曾利E式土器（第18図23）が出土しており、縄文時代中期後半に属する。

D-26号土坑（第14図） 平面形は楕円形、断面は碗状である。加曾利E式土器（第18図24）が出土しており、縄文時代中期後半に属する。

D-34号土坑（第14図） 調査区の関係で全体の調査はできなかったが、平面形は楕円形と推測され、断面は皿状である。諸磯b式土器（第18図25）と堀之内式土器（第18図26）が出土した。

（深町 真）



第13图 南調査区土坑実測図(1)





## b. 縄文土器（第15図～第20図）

今回の発掘調査により出土した縄文土器は約36,000gである。その大部分は小破片であり、全体の器形を把握できるものは皆無であった。また、後期粗製土器の可能性が考えられる無文土器など、時期の特定が困難な出土遺物も多い。時期が推定できた遺物は約11,300gであり、全体の約31%にあたる。

これらの土器の重量を時期別に示したのが第17図である。前期のものと推定される遺物は一定量確認できた。これらの土器群の大部分は関山Ⅱ式期～黒浜式期のものであり、胎土に植物繊維が多量に混入する。その他に前期の遺物は諸磯b式期のものがわずかに散見される。中期前半の遺物は勝坂・阿玉台式期併行と推定されるものが数点確認されたのみであり、出土量は極めて少量である。中期後半から後期堀之内式期のものは、時期推定可能遺物の72%と本遺跡の主体をなしている。土器形式で言えば加曾利EⅢ式期～堀之内1式期まで、ほぼ間断なく確認されているが、中でも堀之内1式期の出土量が群を抜いている。なお、後期の範疇に含まれると考えられるが、土器形式まで言及することが困難な遺物を「後期時期不明」としている。

次に縄文時代遺物出土位置の傾向について概観する。本遺跡の調査区は南調査区と北調査区に分けられるが、縄文時代遺物の99%以上は南調査区出土である。その中でも遺物が特に集中する部分は、調査区南寄りのS-1号配石遺構付近である。S-1の性格についてここでは言及しないが、第17図の「S-1号配石遺構時期別縄文土器重量」が示すように、堀之内1式土器が圧倒的に多く出土することから、当該期の所産である可能性が高いと考える。また、南調査区北半は全体的に出土遺物量が多い。地形的には、南調査区北端付近に南東方向から浅い谷地が入り込んでおり、縄文遺物を包含する黒色土層の遺存状況が良好である。換言すれば、遺物量が多いのは地形的要因に起因している可能性も考えられる。

最後に第20図9の「三十稲場式」土器について若干言及する。周知のように、三十稲場式土器は分布の中心を新潟県中越地方に持つ後期初頭～前葉の土器群であり、刺突文を多用することを特徴としている。新潟県内においてはほぼ全域に分布している。一方、群馬県内においては吾妻郡などを中心に一定量の出土が確認されている。県内における出土遺跡・遺構・時期を数例挙げる。

- ・長野原一本松遺跡 5-22号住居跡（後期前半）
- ・長野原一本松遺跡 5-48号住居跡（後期初頭～前葉）
- ・長野原一本松遺跡 5-51号住居跡（後期初頭～前葉）
- ・長野原一本松遺跡 4-1号埋設土器（後期初頭～前葉）
- ・横壁中村遺跡 298号土坑（称名寺1式）
- ・上ノ平I遺跡 28号住居跡（称名寺式）

※（ ）内は報告書に記載されている遺構の時期

安中市内で三十稲場式土器が確認されたのは、天神原遺跡三次調査において出土した1号埋設土器に続いて2例目と思われる。天神原遺跡の例は、単独の埋設土器であり、他の遺物との共伴関係はない。前述の吾妻郡における調査例などから、三十稲場式土器は称名寺1式～堀之内1式土器と共伴する機会が多いことが分かっている。本遺跡出土の三十稲場式土器は、南調査区北寄りの1E-11bグリッドから出土している。遺構出土遺物ではないが、本遺跡においては称名寺1式～堀之内1式土器が出土遺物の主体をなすことから、三十稲場式土器と称名寺・堀之内式土器の併行関係を追認する資料と位置づけたい。

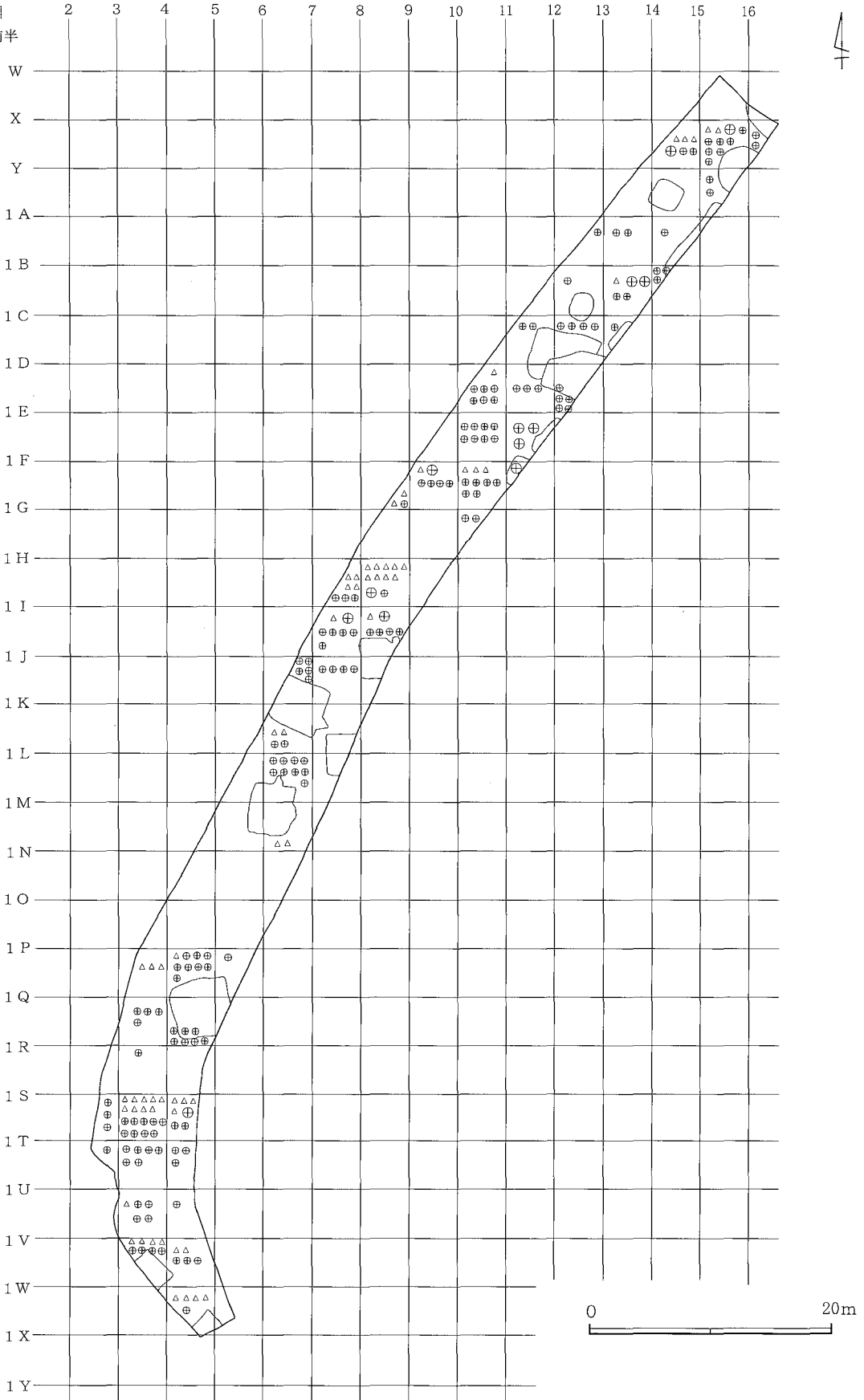
（壁 伸明）

縄文土器分布図

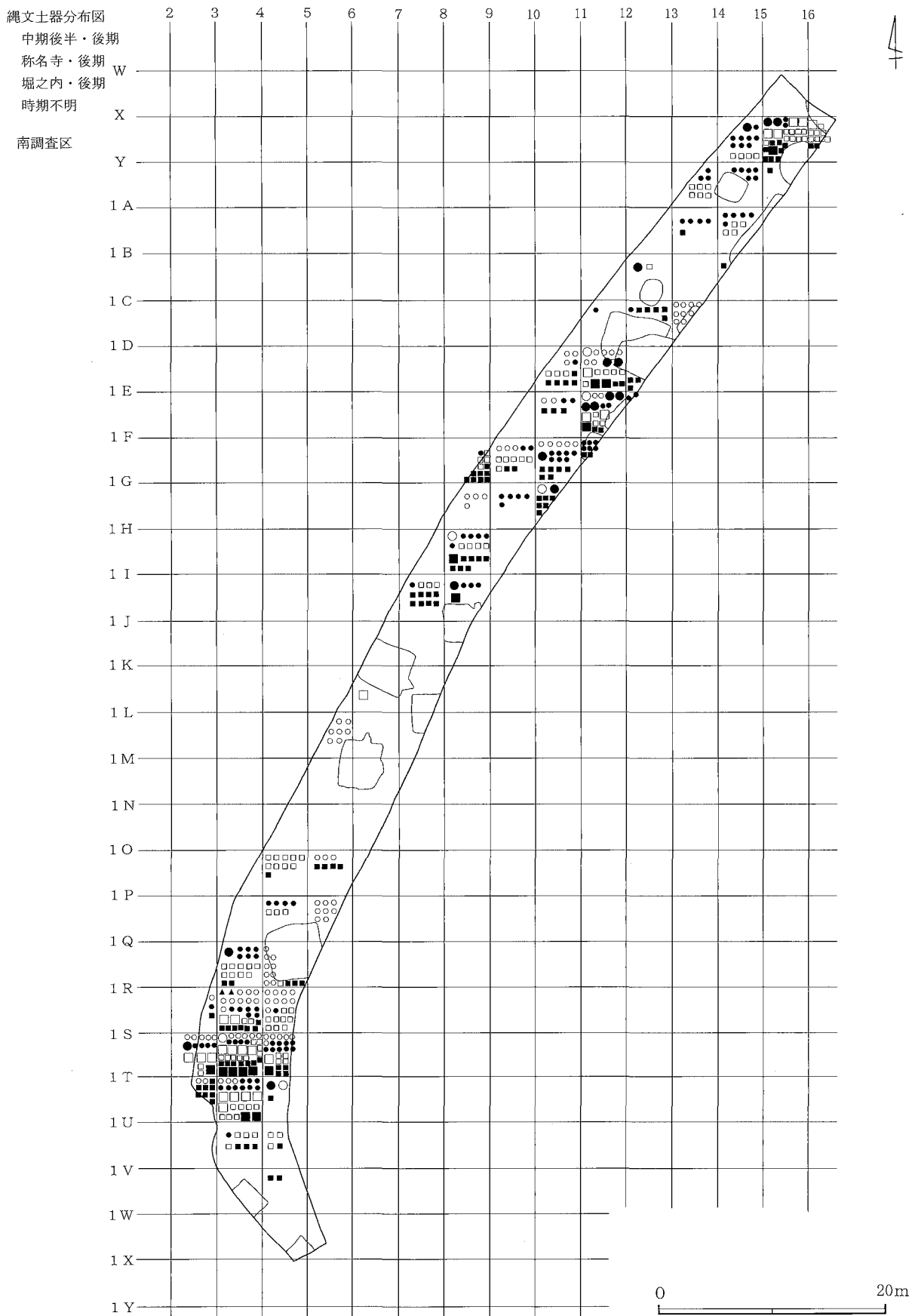
前期・中期前半

・時期不明

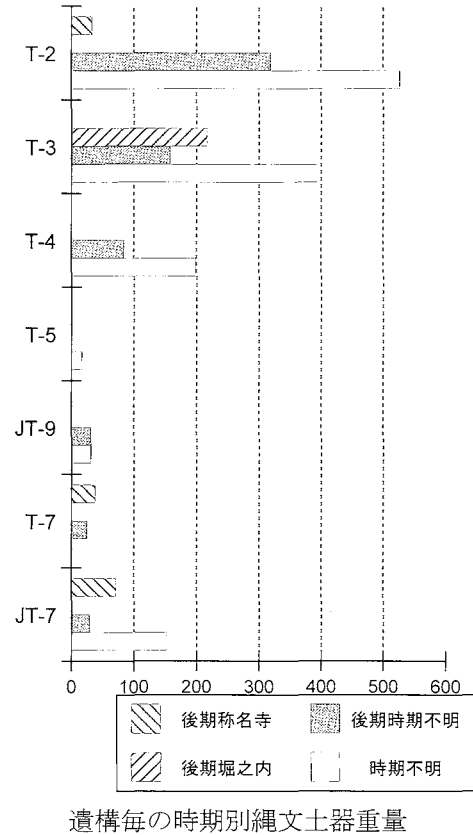
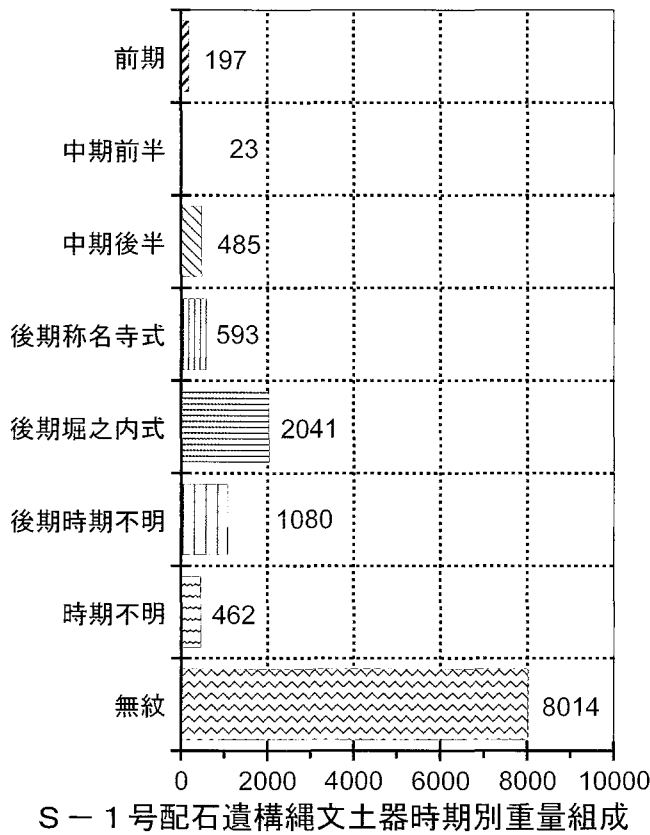
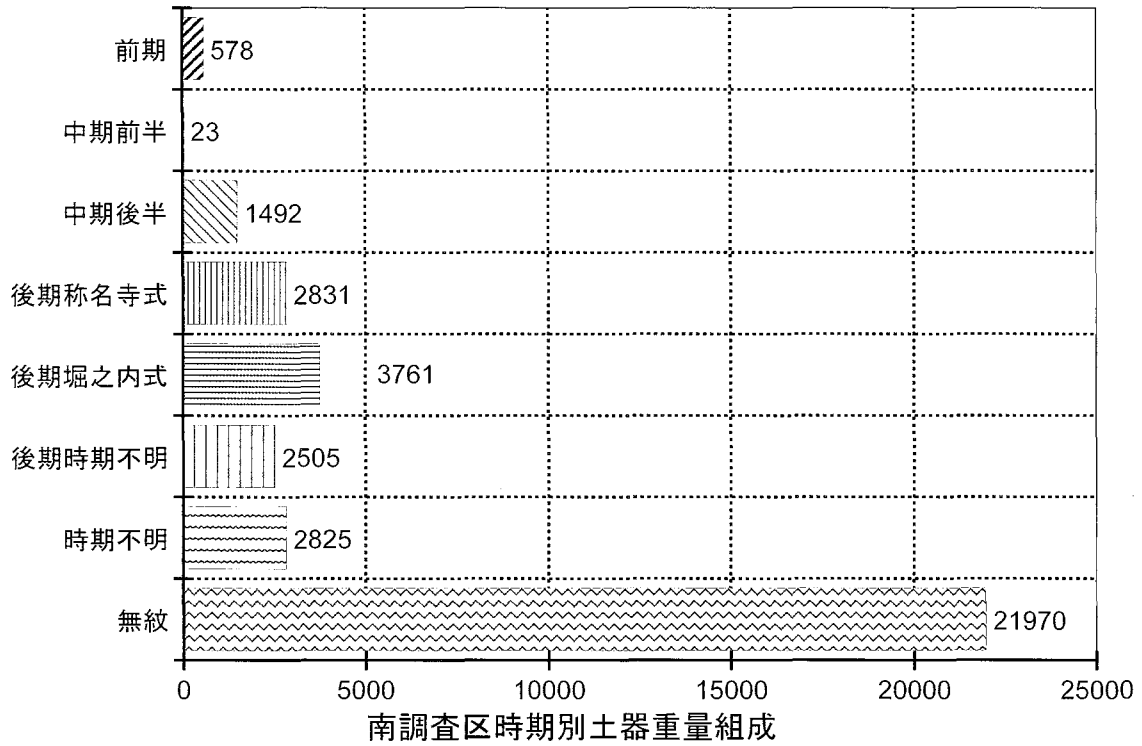
南調査区



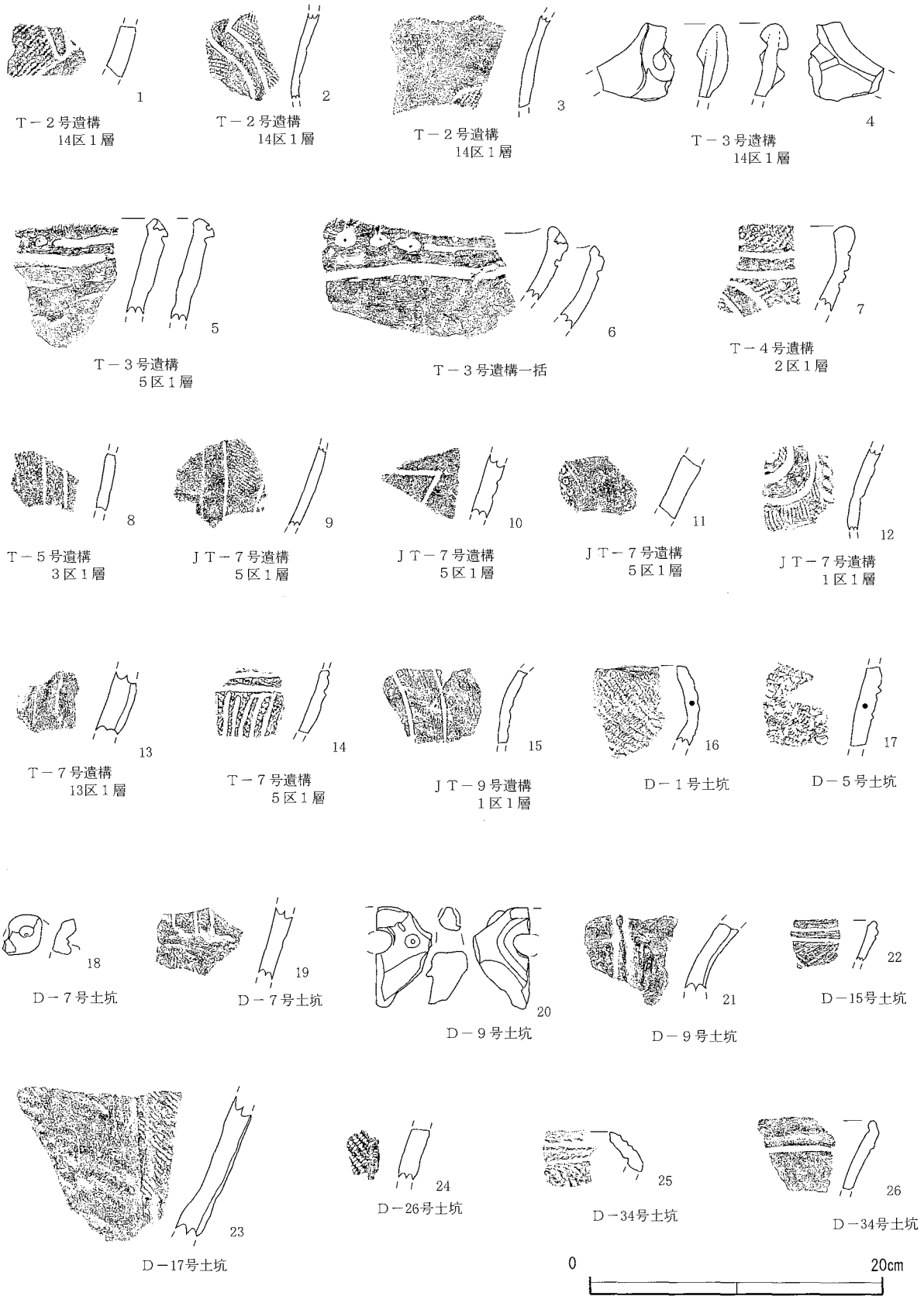
第15図 南調査区縄文土器分布図（1）



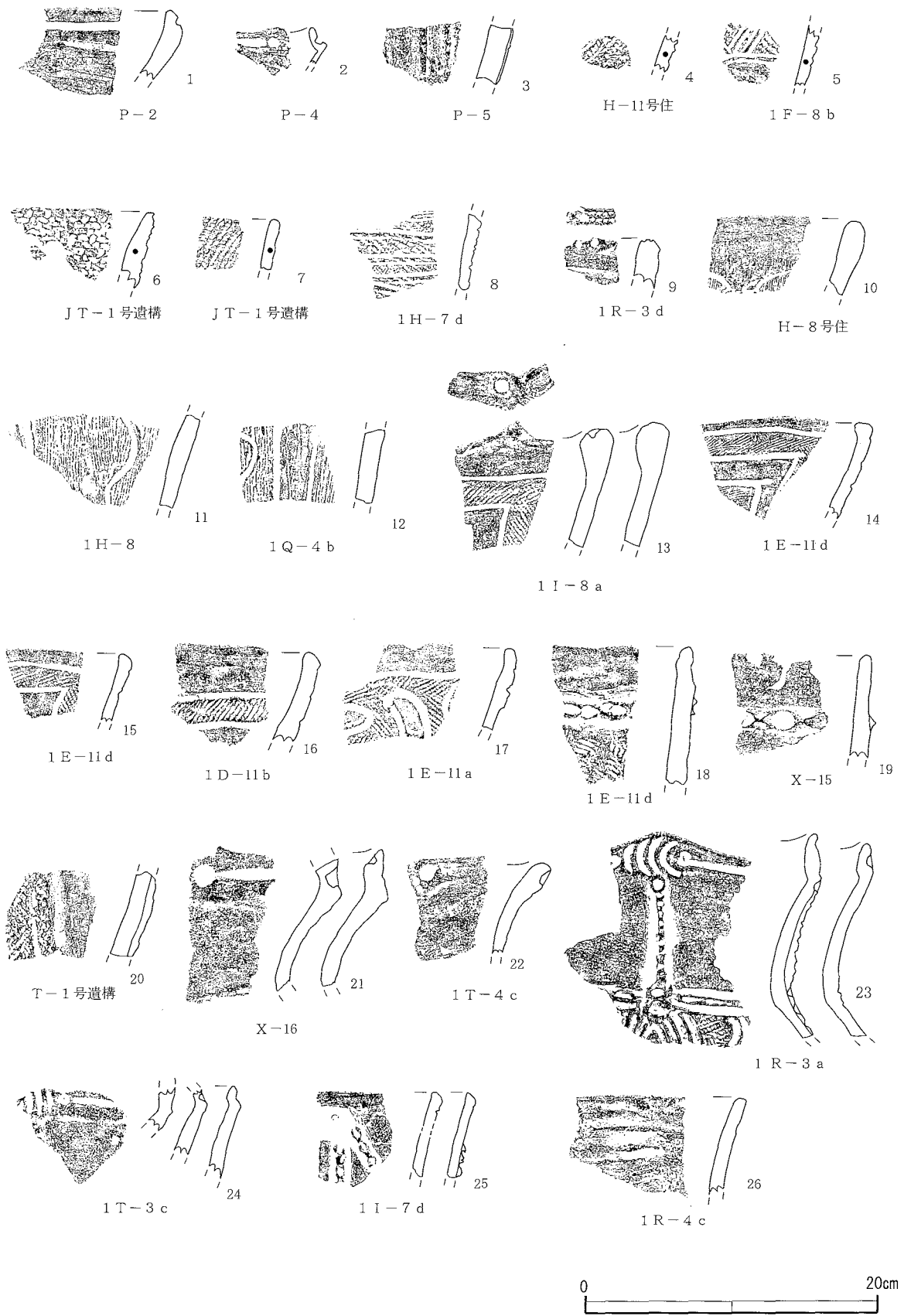
第16図 南調査区縄文土器分布図(2)



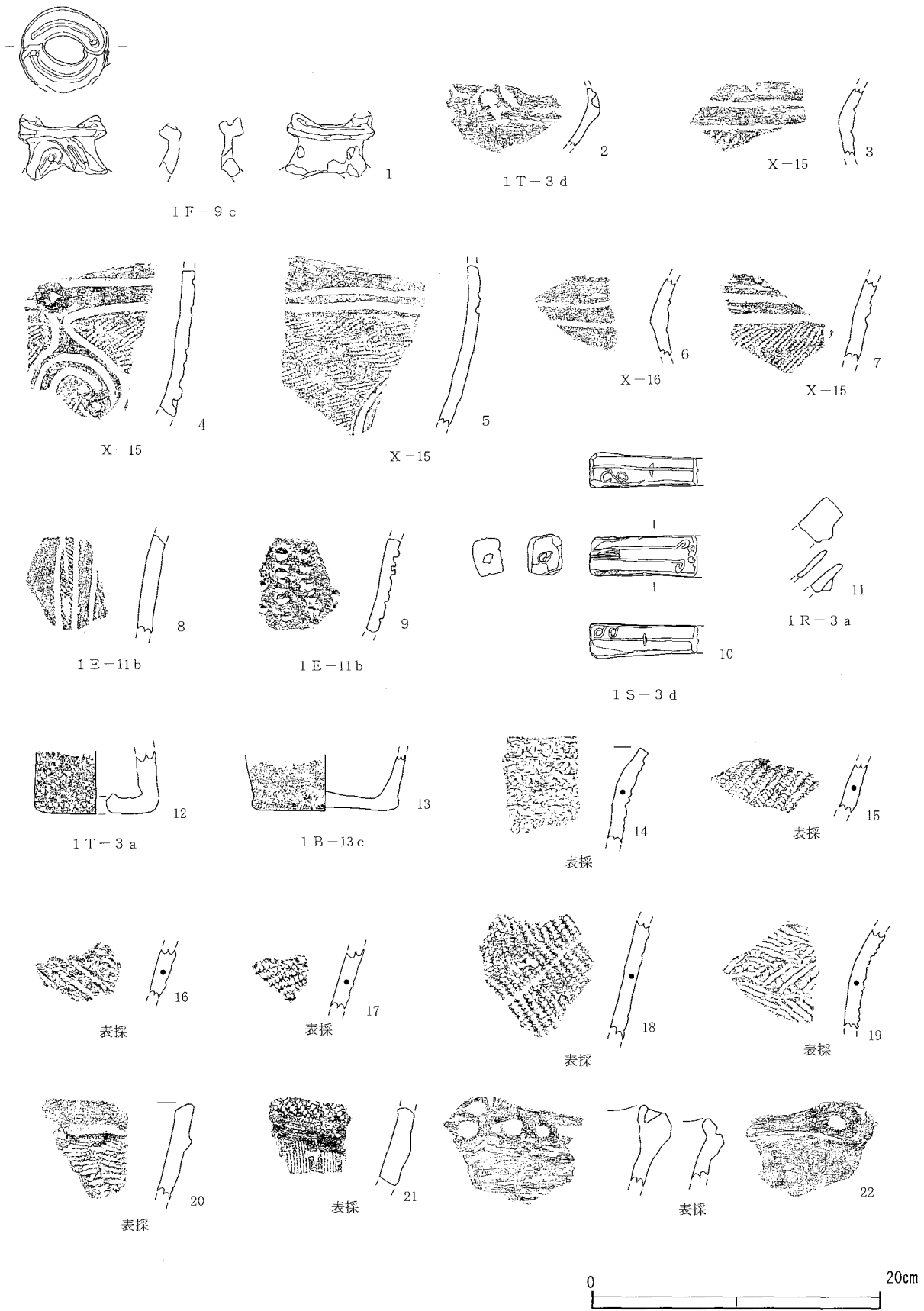
第17図 南調査区縄文土器重量組成



第18図 南調査区縄文土器実測図(1)



第19図 南調査区縄文土器実測図(2)



第20図 南調査区縄文土器実測図(3)



第18区	出土位置	時期	型式	器種	残存部位	器形・文様などの特徴	色調	胎土	計測値 (cm)
1	T-2号遺構 14区1層	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	縄文施文後、沈線による区画。磨り消し。	浅黄橙色	白色鉱物 砂粒		
2	T-2号遺構 14区1層	称名寺	深鉢	胴部破片	縄文施文後、2条の沈線で区画。沈線間磨り消し。	浅黄橙色	細砂粒多量		
3	T-2号遺構 14区1層	堀之内1	深鉢	胴部破片	L R縄文施文。沈線による区画。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒		
4	T-3号遺構 14区1層	称名寺	深鉢	口縁部破片	波状口縁の波頂部。隆帯による区画。	浅黄橙色	細砂粒・砂粒		
5	T-3号遺構 5区1層	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。2条の横位沈線文。波頂部付近に円錐状の抉り。	黒褐色	細砂粒多量		
6	T-3号遺構 一括	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。口唇部内側肥厚。2条の横位沈線文。波頂部付近に円錐状の抉り。	鈍い褐色	細砂粒・砂粒		
7	T-4号遺構 2区1層	称名寺	深鉢	口縁部破片	L R縄文施文後、2条一組の沈線で区画。一部を磨り消し。	鈍い黄橙色	細砂粒多量		
8	T-5号遺構 3区1層	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	縄文(摩滅著しく不明瞭)施文後、縦位沈線で区画。	鈍い橙色	細砂粒		
9	J T-7号遺構 5区1層	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	縄文施文後、縦位沈線で区画。	鈍い橙色	細砂粒多量		
10	J T-7号遺構 5区1層	称名寺	深鉢	胴部破片	屈曲する沈線文。	浅黄橙色	細砂粒多量		
11	J T-7号遺構 5区1層	称名寺	深鉢	胴部破片	竹管状工具、又は半裁竹管状工具による刺突。	鈍い褐色	細砂粒・砂粒		
12	J T-7号遺構 1区1層	称名寺	深鉢	胴部破片	R L縄文施文後、2条の弧状沈線で区画。沈線間磨り消し。刻みのある貼付文垂下。	鈍い橙色	細砂粒		
13	T-7号遺構 13区1層	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	縦位の隆帯で区画。	浅黄橙色	細砂粒多量		
14	T-7号遺構 5区1層	堀之内1	深鉢	胴部破片	縄文(不明瞭)施文後、横位・縦位の沈線文。	鈍い褐色	細砂粒		
15	J T-9号遺構 1区1層	称名寺	深鉢	胴部破片	縦位・斜位の条線文施文後、2条の沈線で区画。一部を磨り消し。	黒褐色	細砂粒		
16	D-1号土坑	黒浜	深鉢	口縁部破片	「く」の字状に内湾する口縁。R L縄文施文。胎土に植物繊維混入。	黄橙色	細砂粒多量		
17	D-5号土坑	黒浜	深鉢	胴部破片	縄文施文。胎土に植物繊維混入。	褐色	細砂粒多量		
18	D-7号土坑	堀之内1	深鉢	口縁部破片	波状口縁の波頂部付近?半裁竹管状工具による円錐状の抉り。	灰白色	白色鉱物 黒色鉱物		
19	D-7号土坑	堀之内1	深鉢	胴部破片	縦位の浅い沈線文。	灰白色	細砂粒・砂粒		
20	D-9号土坑	堀之内1	深鉢	口縁部破片	波状口縁の波頂部。外面隆帯による区画、円錐状の抉り。口唇部・内面に沈線文。	浅黄橙色	白色鉱物 粒子多量		
21	D-9号土坑	堀之内1	深鉢	胴部破片	外反する胴部。縦位の隆帯で区画。	灰白色	細砂粒・砂粒		
22	D-15号土坑	堀之内1	深鉢	口縁部破片	L R縄文施文後、口唇部に2条の横位沈線文。胴部に斜位又は弧状の沈線文。	鈍い褐色	石英		
23	D-17号土坑	称名寺	深鉢	胴部破片	縦位隆帯で区画。一部に無節L縄文施文。	浅黄橙色	細砂粒・砂粒		
24	D-26号土坑	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	L R縄文施文後、浅い沈線文。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒		
25	D-34号土坑	諸磯b	深鉢	口縁部破片	「く」の字状に内湾する口縁。粘土紐を貼付し刻みを施す。	浅黄橙色	細砂粒多量		
26	D-34号土坑	堀之内1	深鉢	口縁部破片	口唇部内面が肥厚。1条の横位沈線文。	褐灰色	細砂粒多量		

第6表 南調査区縄文土器観察表(1)

第19区	出土位置	時期	型式	器種	残存部位	器形・文様などの特徴	色調	胎土	計測値 (cm)
1	P-2	堀之内1	深鉢	口縁部破片	「く」の字状に内湾する口縁。1条の深い沈線文。	鈍い黄橙色	細砂粒多量		
2	P-4	堀之内1	深鉢	口縁部破片	「く」の字状に内湾する緩い波状口縁。波頂部に円形孔(?)と円錐状の抉り。1条の横位沈線文。	鈍い黄橙色	細砂粒		
3	P-5	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	隆帯で縦位に区画。摩滅著しく不明瞭。	灰白色	細砂粒・砂粒		
4	H-11号住	関山Ⅱ	深鉢	胴部破片	異条斜縄文(正反の合)。胎土に植物繊維混入。	鈍い橙色	細砂粒		
5	I F-8 b	関山Ⅱ	深鉢	胴部破片	L R縄文施文後、半裁竹管状工具により横位・斜位の区画を施す。胎土に植物繊維混入。	赤褐色	細砂粒多量		
6	J T-1号遺構	関山Ⅱ	深鉢	口縁部破片	やや外反する平口縁。組紐文。胎土に植物繊維混入。	明赤褐色	細砂粒多量		
7	J T-1号遺構	黒浜	深鉢	胴部破片	R L縄文施文。	灰白色	細砂粒多量		
8	I H-7 d	諸磯b	深鉢	胴部破片	R L縄文施文後、半裁竹管状工具により横位沈線文。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒		
9	I R-3 d	勝坂	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。口唇部に刻みと半裁竹管状工具押し引きによる沈線文。	明赤褐色	細砂粒・砂粒		
10	H-8号住	加曾利EⅢ	深鉢	口縁部破片	条線文施文後、弧状沈線で区画。	灰白色	細砂粒・砂粒		
11	I H-8	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	条線文施文後、浅い沈線で区画。蛇行懸垂文。	鈍い黄橙色	細砂粒		
12	I Q-4 b	加曾利EⅢ	深鉢	胴部破片	条線文施文後、浅い沈線で区画し一部磨り消し。蛇行懸垂文。	浅黄橙色	細砂粒		

13	1 I - 8 a	称名寺	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。縄文施文後、沈線で区画。一部磨り消し。波頂部に円錐状の抉り。	浅黄橙色	細砂粒多量	
14	1 E - 11 d	称名寺	深鉢	口縁部破片	縄文施文後、沈線で区画。一部磨り消し。	鈍い褐色	細砂粒多量	
15	1 E - 11 d	称名寺	深鉢	口縁部破片	縄文施文後、沈線で区画。一部磨り消し。	橙色	細砂粒	
16	1 D - 11 b	称名寺	深鉢	口縁部破片	やや内湾する口縁。無節L縄文施文後、2条の浅い横位沈線文で区画。一部磨り消し。	鈍い黄橙色	細砂粒多量	
17	1 E - 11 a	称名寺	深鉢	口縁部破片	L R縄文施文後、沈線で区画。一部磨り消し。	褐灰色	細砂粒多量	
18	1 E - 11 d	称名寺	深鉢	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁。口縁部下に鎖状隆帯貼付。隆帯下位に縄文(L R?)施文。	浅黄橙色	細砂粒多量	
19	X - 15	称名寺	深鉢	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁。口縁部下に比較的大型の楕円形刻みを施す横位貼付文。	鈍い黄橙色	砂粒	
20	T - 1号遺構	称名寺	深鉢	胴部破片	縦位に粘土紐で区画し、一方にL R縄文施文。	灰黄褐色	細砂粒多量	
21	X - 16	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。1条の横位沈線文。波頂部付近内外に円錐状の抉り。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒	
22	1 T - 4 c	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁?波頂部に浅い円錐状の抉り。	鈍い褐色	細砂粒多量	
23	1 R - 3 a 1号トレンチ	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。口縁部に沈線・円錐状の抉り。波頂部より刻みを施す貼付文垂下。胴部L R縄文施文後、横位・弧状沈線による区画。8の字状貼付文。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒	
24	1 T - 3 c	堀之内1	深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。横位・縦位(又は弧状?)沈線文。円錐状の抉り。	鈍い黄橙色	細砂粒多量	
25	1 I - 7 d	堀之内1	深鉢	口縁部破片	縦位・斜位の鎖状隆帯。口唇部内側1条の浅い横位沈線文。	鈍い黄橙色	細砂粒多量	
26	1 R - 4 c	堀之内1	深鉢	口縁部破片	半裁竹管状工具、又は棒状工具による横位の浅い凹線。	浅黄橙色	細砂粒多量	

第7表 南調査区縄文土器観察表(2)

第20図	出土位置	時期	型式	器種	残存部位	器形・文様などの特徴	色調	胎土	計測値 (cm)
1	1 F - 9 c	堀之内1		深鉢	口縁部破片	把手部。沈線による区画。円錐状の抉り。2ヶ所の穿孔。	浅黄橙色	細砂粒・砂粒	
2	1 T - 3 d	堀之内1		深鉢	胴部破片	緩やかな波状口縁の波頂部直下?横位・斜位の沈線文。円錐状の抉り。	灰白色	細砂粒	
3	X - 15	堀之内1		深鉢	胴部破片	口縁部付近?L R縄文施文。2条の横位沈線文。	褐灰色	細砂粒	
4	X - 15	堀之内1		深鉢	胴部破片	L R縄文施文後、横位・弧状沈線で区画。一部を磨り消し。中央に抉りを有する円形貼付文。	灰黄褐色	細砂粒	
5	X - 15	堀之内1		深鉢	胴部破片	L R縄文施文後、横位・弧状沈線で区画。一部を磨り消し。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒	
6	X - 16	堀之内1		深鉢	胴部破片	口縁部付近?縄文(不明瞭)施文。2条の横位沈線文。3と同一個体?	浅黄橙色	細砂粒	
7	X - 15	堀之内1		深鉢	胴部破片	口縁部付近?L R縄文施文。2条の浅い横位沈線文。	灰白色	細砂粒	
8	1 E - 11 b	堀之内1		深鉢	胴部破片	L R縄文施文後、縦位・斜位沈線で区画。一部を磨り消し。	浅黄橙色	細砂粒多量	
9	1 E - 11 b	三十稲場		深鉢	胴部破片	半裁竹管状工具による刺突文。	浅黄橙色	細砂粒多量	
10	1 S - 3 d	堀之内1		土製品	不明	3面に直線・曲線の沈線による区画。縦位に断面不整形の孔貫通(半裁竹管を芯にした?)。	鈍い黄橙色	細砂粒	
11	1 R - 3 a	後期		注口土器	注口部	下位に突起部あり。	浅黄橙色	黒色鉱物粒子	
12	1 T - 3 a	時期不明		深鉢	胴部~底部	胴部棒状工具により横位・斜位の連続刺突文。底部中央に穿孔(焼成前)。	灰黄褐色	細砂粒	底径(8.3)
13	1 B - 13 c	時期不明		深鉢	胴部~底部	無文。	浅黄橙色	細砂粒	底径(10.3)
14	表採	関山II		深鉢	口縁部破片	やや外反する平口縁。ループ文。胎土に植物繊維混入。	鈍い黄橙色	細砂粒	
15	表採	関山II		深鉢	胴部破片	L R縄文施文。胎土に植物繊維混入。	明赤褐色	細砂粒	
16	表採	黒浜		深鉢	胴部破片	縄文(摩滅により不明瞭)施文。胎土に植物繊維混入。	赤褐色	細砂粒	
17	表採	黒浜		深鉢	胴部破片	縄文(摩滅により不明瞭)施文。胎土に植物繊維混入。	鈍い褐色	砂粒	
18	表採	黒浜		深鉢	胴部破片	R L縄文施文。胎土に植物繊維混入。	明赤褐色	細砂粒・砂粒	
19	表採	黒浜		深鉢	胴部破片	無節縄文施文。	橙色	細砂粒	
20	表採	加曾利E III		深鉢	口縁部破片	口縁部に横位隆帯。隆帯より下位に無節L縄文施文。	浅黄橙色	細砂粒・砂粒	
21	表採	加曾利E III		深鉢	胴部破片	隆帯による区画。条線文、R L縄文施文。	鈍い黄橙色	細砂粒・砂粒	
22	表採	堀之内1		深鉢	口縁部破片	緩やかな波状口縁。口唇部内側肥厚。口唇部に1条の沈線。波頂部に円錐状の抉り。	褐灰色	細砂粒多量	

第8表 南調査区縄文土器観察表(3)

### c. 石器

縄文時代の石器は、配石遺構及び調査区包含層から124点出土した。本遺跡では、前期中葉から後期前半までにわたる遺物が出土しているが、遺構の時期から判断して概ね中期後半から後期前半を主体としているものと思われる。報告では、石器群の帰属時期を特定できないため、石器全体の組成傾向を示すことにした。

#### 石器組成 (第22図)

主な器種は、楔形石器、スクレイパー、石匙、R・F、打製石斧、凹石、磨石、球石、敲石、石皿、磨製石斧である。全体的に利器として使用される狭義の「石器」が少ない傾向が認められた。

A類石器：石核を含む剥片類が多いことから、石器製作がやや活発である。しかし、製作された石器及び搬入された石器は極端に少なく、主要器種である石鏃は出土しなかった。

B類石器：打製石斧を主体とするが、スクレイパーは極端に少ない。また、剥片類も少なく、石器製作は低調である。

C1類石器：凹石及び磨石類（球石含む）がやや多く出土した。石皿は破片のみが出土した。

C2類石器：敲石のみが出土した。砥石、台石の出土はみられなかった。

D類石器：結晶片岩の破片が出土した。

E類石器：磨製石斧が1点出土した。

F類石器：磨石状のものが1点出土した。

#### 石材組成 (第22図)

石器の石材は、黒曜石、チャート、黒色安山岩、鉄石英、頁岩、安山岩、結晶片岩、緑色岩類が認められた。点数においては、黒曜石が多いが、重量では大型石器あるいはC類などに利用される礫石器の石材である安山岩が多い。全体的に石材消費量は、安山岩を除いては極端に少ない傾向が認められた。

#### 石器各説 (第23図)

**楔形石器** 3点出土した。両極剥離をもつ剥片を「楔形石器」としたが、利器ではなく石鏃素材あるいは調整段階の剥片の可能性もある(1・2)。3は、打製石斧の破片を転用しており、欠損部には微細剥離痕が観察される。

**スクレイパーA** 1点出土した。4は、不定形剥片の縁辺に微細剥離痕が観察されるⅢ形態である。黒曜石製である。

**リタッチド・フレイク(R・F)** 1点出土した。5は剥片の一端に微細剥離痕が観察される。赤色の鉄石英製である。

**石匙B類** 1点出土した。6は、I b形態で頁岩製である。形態的特徴から前期に帰属できる。

**スクレイパーB** 1点出土した。7は、不定形剥片の縁辺に微細剥離痕が観察されるⅢ形態である。安山岩製である。

**打製石斧** 9点出土した。2点のみ完形で、7点は欠損品（頁岩製2点、安山岩製5点）である。8はⅡ形態、9はⅢ形態で、被熱による剥落が認められる。抉入部周辺には、装着による摩滅痕が観察される。形態的特徴から後期初頭以降と推定される。

**磨石** 5点出土した。図示しなかったが、Ⅱ形態を主体としている。石材は安山岩が多く、頁岩が1点である。頁岩製のは砥石の可能性が高い。また、5点のうち3点は、出土状況から編物石の可能性もある。

**球石** 3点出土した。10は、球状の自然礫をそのまま使用して、表面の一部に磨り痕が観察される。

**凹石** 10点出土した。Ⅰb形態3点（11）、Ⅱa形態2点（12）、Ⅱb形態5点（13）である。欠損したものは3点である。石材は全て安山岩製である。

**石皿** 破片が2点出土した。図示しなかったが、2点とも安山岩製である。形態は不明である。

**敲石** 2点出土した。礫面に敲打痕及び剥離痕が観察されるもので、Ⅰ形態（安山岩製）とⅡ形態（頁岩製）が認められた。14は、球状で全面に敲打痕が残る。13は、全面が剥離痕に覆われたもので縁辺部には細かな潰れ状の敲打痕が残る。

**磨製石斧** 1点出土した。16は、Ⅱb形態である。敲打による調整後、表裏面及び側面を研磨している。基部は欠損している。緑色岩類製である。

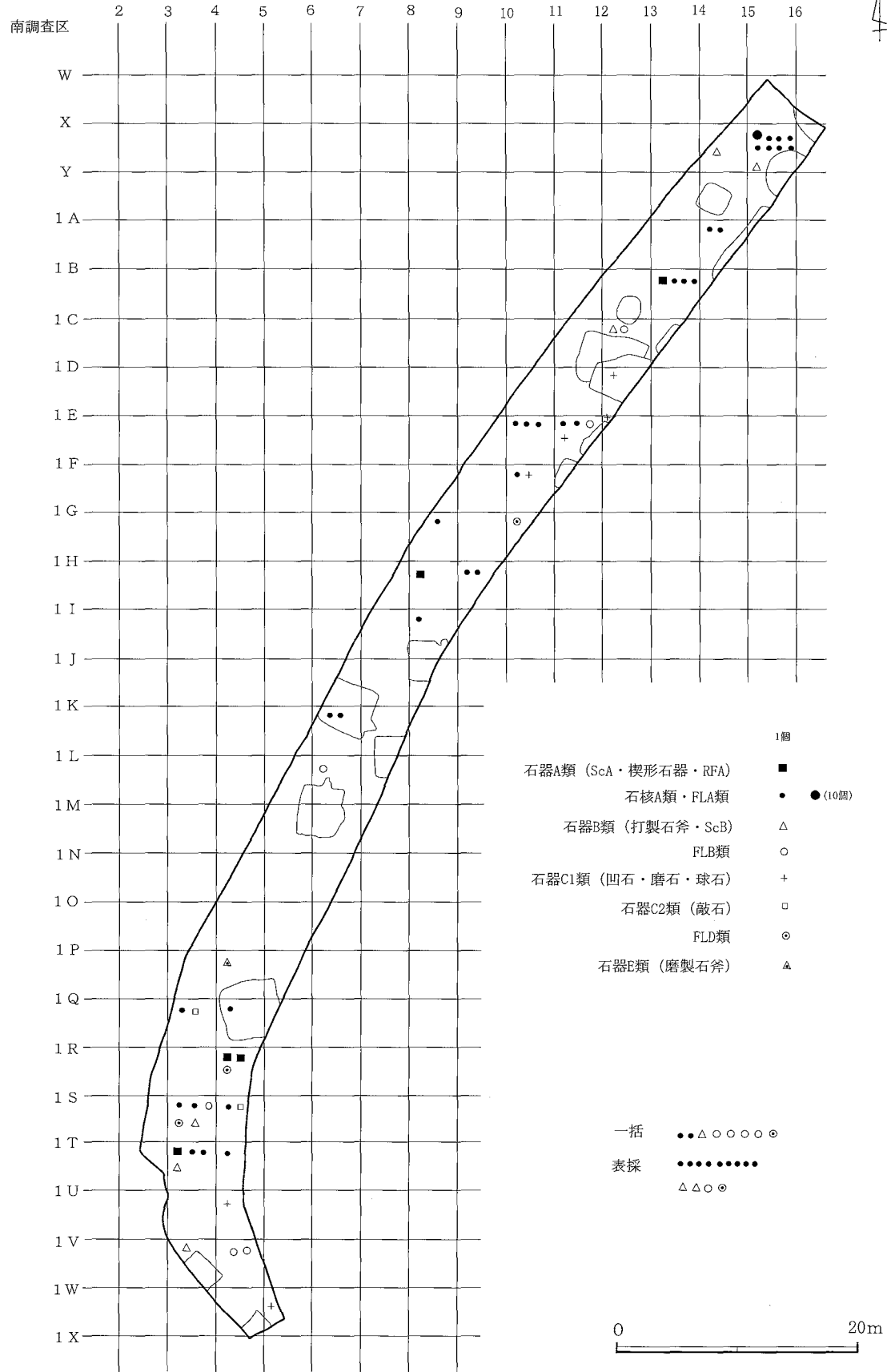
**石製品** 1点出土した。17は、側面の一部に平坦に磨られた痕と礫面には磨り面が観察される。磨石の可能性もある。頁岩製である。

## 小結

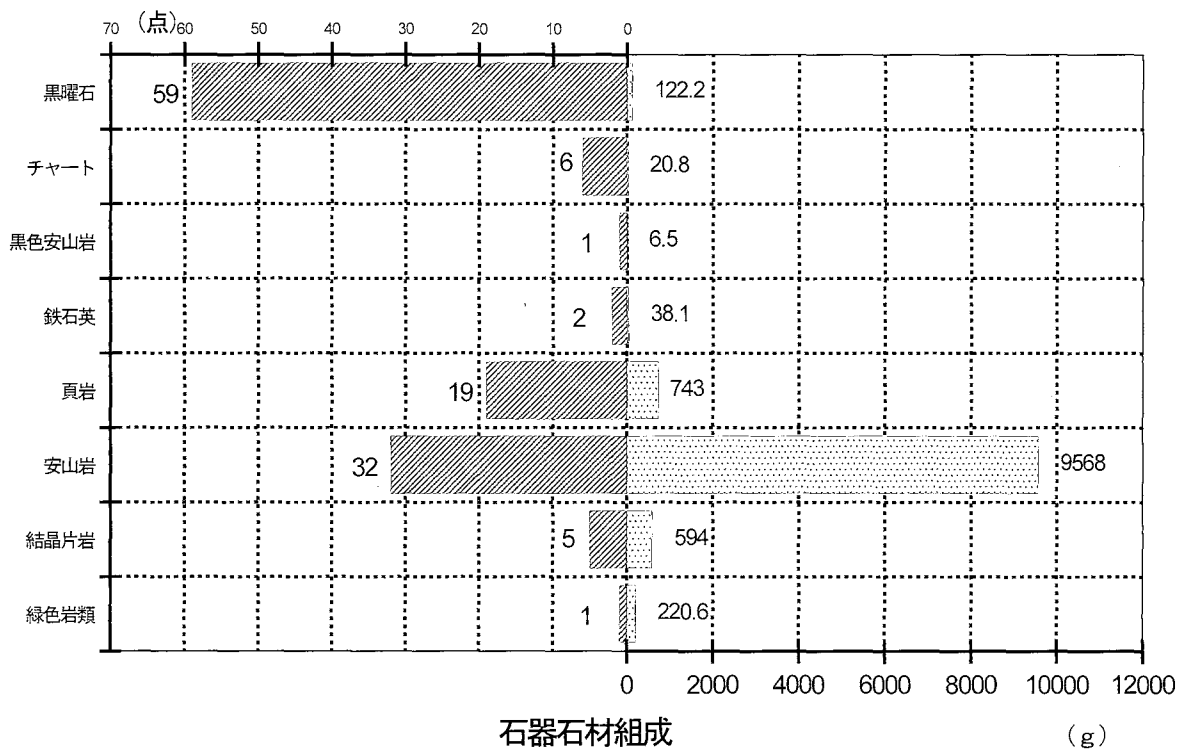
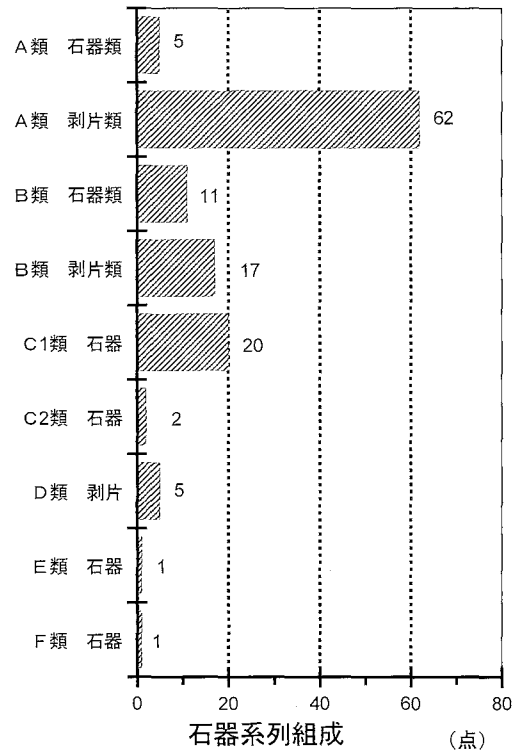
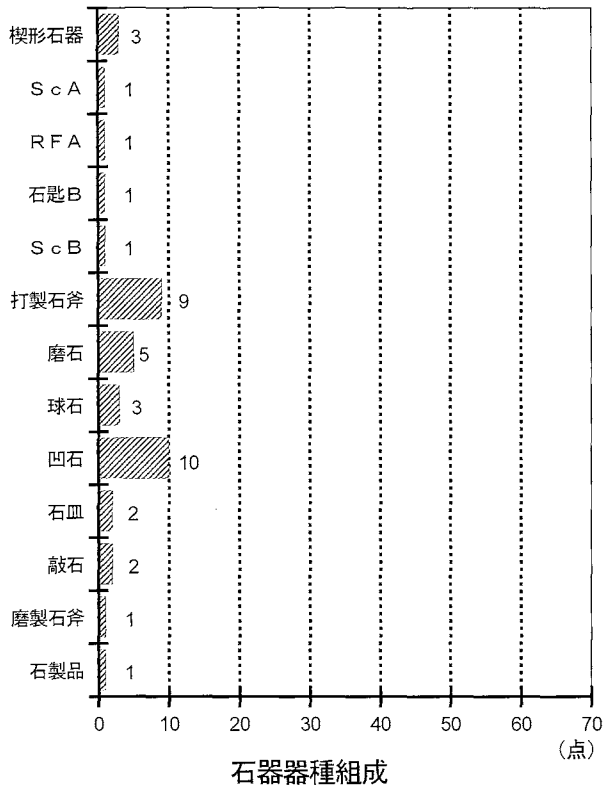
本遺跡では、縄文時代中期から後期にかけての遺構が検出され、土器も多数出土しているが、石器では、確実に遺構に伴うものは少ないため、石器群の様相を把握することは難しい。しかし、全体の傾向から判断して、石器出土数が遺跡の規模から判断して極端に少ないこと、器種組成が乏しく、道具が少ないこと、石器分布が散漫で特に集中する場所が見られないことなどの理由から、時間幅がある石器群であったとしても、石器製作、使用が低調であった遺跡であった可能性が考えられる。隣接する中村遺跡では、狭い範囲で小礫や中期を主体とする土器が大量に出土しており、石器自体は極端に少ない傾向が認められた。このような状況は、堀端遺跡周辺での生業活動を反映しているものであり、地域差が存在した可能性を示唆しているものと言えよう。

（井上慎也）

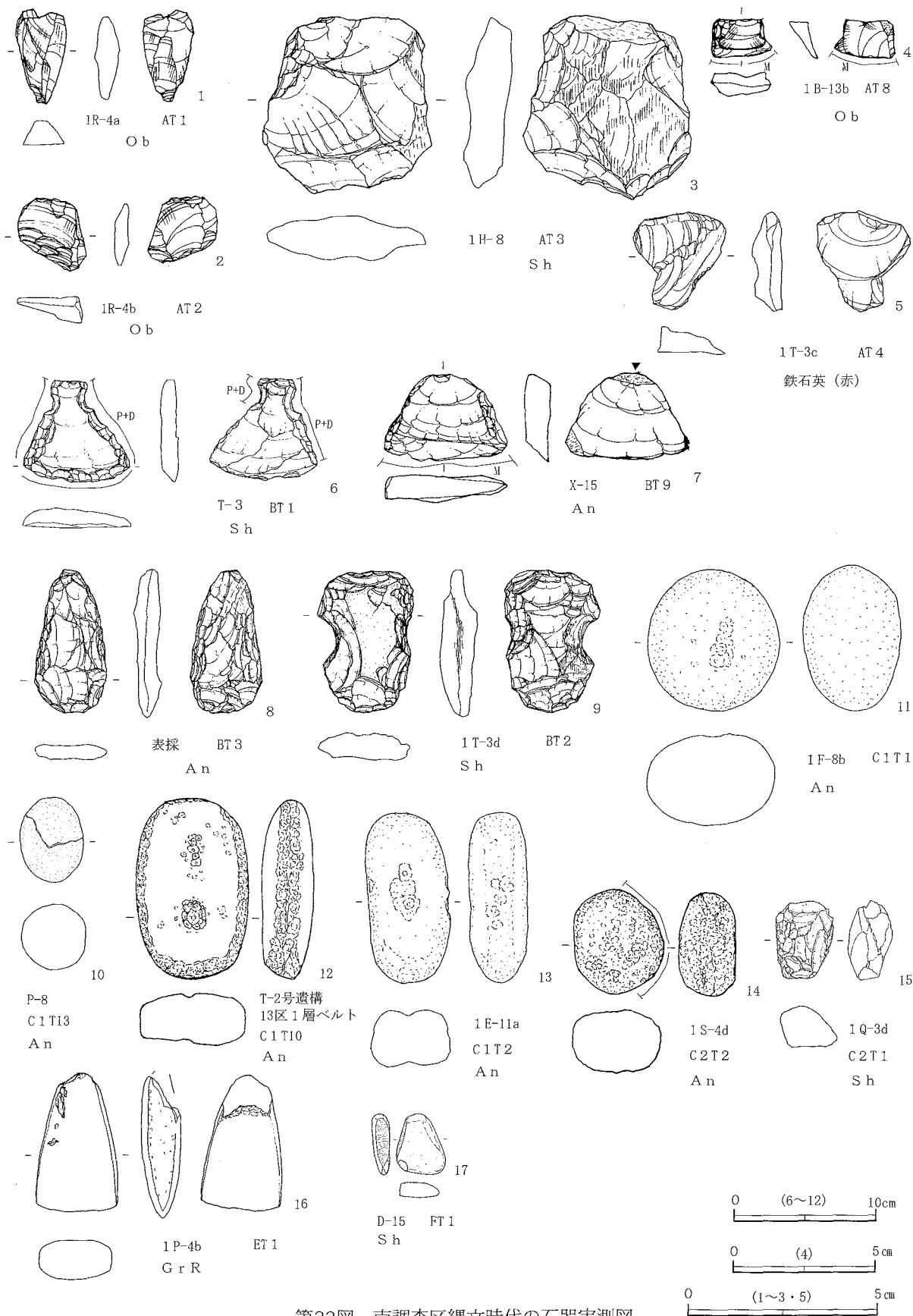
グリッド石器分布図



第21図 南調査区縄文時代石器分布図



第22図 南調査区縄文時代石器組成



第23図 南調査区縄文時代の石器実測図

番号	出土位置	器種	形態	石材	欠損	被熱	長さ	幅	厚さ	重量	備考
	1S-4d	FLA		Ch			23.94	22.76	3.67	2.1	
	X-15	FLA		Ch			18.10	9.86	2.59	0.5	
	X-15	FLA		Ch			21.18	18.98	4.37	1.8	
	1A-14c	FLA		Ob			15.62	13.51	6.67	0.8	
	1A-14c	FLA		Ob			13.53	11.63	7.01	0.8	
	1B-13b	FLA		Ob			15.49	12.03	7.02	0.9	
	1B-13c	FLA		Ob			19.29	1.59	7.11	1.8	
	1B-13c	FLA		Ob			18.76	17.41	4.52	1.2	
	1E-10a	FLA		Ob			28.56	15.59	7.85	2.3	
	1E-10a	FLA		Ob			24.07	15.26	5.36	1.5	
	1E-11a	FLA		Ob			22.01	17.84	6.95	2.5	
	1E-11b	FLA		Ob			27.15	18.67	4.11	1.5	調整有りP
	1F-10c	FLA		Ob			16.10	11.81	3.99	0.6	
	1G-8b	FLA		Ob			25.00	13.79	4.89	1.2	
	1H-9c	FLA		Ob			25.54	20.92	6.95	2.6	
	1H-9c	FLA		Ob			18.46	21.20	11.18	3.0	
	1I-8a	FLA		Ob			16.89	10.28	2.15	0.2	
	1K-6c	FLA		Ob			16.78	9.03	3.10	0.2	
	1K-6c	FLA		Ob			26.92	15.74	12.89	4.0	原礫面あり
	1Q-4c	FLA		Ob			27.71	12.33	2.81	0.8	
	1S-3b	FLA		Ob			17.73	12.77	6.51	1.0	
	1S-3b	FLA		Ob			20.26	15.03	4.50	1.0	
	1T-3b	FLA		Ob			19.48	16.34	6.93	1.5	
	1T-3B	FLA		Ob			19.92	21.18	9.43	3.9	
	1T-4a	FLA		Ob			22.05	15.27	4.80	1.3	
	X-15	FLA		Ob			8.93	7.69	1.92	0.1	
	X-15	FLA		Ob			14.02	12.92	3.50	0.4	
	X-15	FLA		Ob			8.87	7.36	2.93	0.2	
	X-15	FLA		Ob			14.62	9.51	1.39	0.2	
	X-15	FLA		Ob			13.44	8.59	2.72	0.2	
	X-15	FLA		Ob			9.90	9.45	1.82	0.1	
	X-15	FLA		Ob			10.65	8.59	2.03	0.1	
	X-15	FLA		Ob			12.12	10.60	1.20	0.1	
	X-15	FLA		Ob			14.33	6.51	2.59	0.1	
	X-15	FLA		Ob			16.66	11.77	12.96	1.7	
	X-15	FLA		Ob			12.93	7.53	3.00	0.1	
	X-15	FLA		Ob			12.58	7.87	2.01	0.1	
	X-15	FLA		Ob			16.18	7.54	3.25	0.3	
	X-15	FLA		Ob			23.42	15.05	6.60	2.3	
	1C-12	FLB		An			75.81	40.63	11.34	28.4	
	1L-6d (籠)	FLB		An			84.43	60.61	18.22	86.6	
	1S-3c	FLB		An			61.15	56.76	18.36	80.3	
	1W-5周辺	FLB		An			30.20	52.34	10.92	10.6	
	1E-11b	FLB		Sh			67.10	55.39	16.69	42.5	
	1W-5周辺	FLB		Sh			50.32	71.04	19.83	61.6	
	F-20	FLB		Sh			29.01	48.72	7.23	9.7	
	1G-10a	FLD		Sc			107.58	82.42	27.55	253.3	
	1R-4b	FLD		Sc			61.64	26.71	5.33	11.4	
	1S-3c	FLD		Sc			110.23	45.69	27.76	225.6	
AT004	1T-3c	RFA		Ja			35.40	33.18	9.28	9.8	赤、第23図5
AT008	1B-13b	ScA	3	Ob			21.25	17.20	7.63	2.1	第23図4
BT009	X-15	ScB	3	An			62.08	86.78	17.32	105.8	第23図7
C1T002	1E-11a	凹石	3b	An			114.88	54.49	40.14	353.1	第23図13
C1T001	1F-8b	凹石	3c	An			93.12	85.10	63.01	635.7	第23図11
C1T006	1F-9c	凹石	2a	An			116.35	69.90	52.43	659.1	
BT011	1C-12	打製石斧		An	Y		84.66	50.13	16.11	84.7	
BT008	1S-3d	打製石斧		An	Y		48.10	55.46	16.23	48.8	
BT005	1V-3b	打製石斧		An	Y		40.28	51.15	15.64	43.1	
BT002	1T-3d	打製石斧	3	Sh		○	98.86	67.05	24.05	155.7	第23図9
BT004	X-14c	打製石斧		Sh	Y		37.06	48.78	9.20	18.7	
C2T002	1S-4d	敲石	1	An			74.06	65.24	43.17	287.7	第23図14
C2T001	1Q-3d	敲石	2	Sh			53.84	41.10	27.17	74.7	第23図15

第9表 南調査区石器観察表(1)



番号	出土位置	器種	形態	石材	欠損	被熱	長さ	幅	厚さ	重量	備考
AT003	1H-8	楔		Sh			46.31	44.42	11.39	26.0	第23図3
AT001	1R-4a	楔		Ob			23.58	13.69	7.04	1.7	両極、第23図1
AT002	1R-4b	楔		Ob			21.31	16.78	5.91	1.5	第23図2
C1T014	1F-11a	球石		An			65.44	53.17	48.76	183.5	
C1T017	1Q-4c	球石		An			49.19	40.31	42.68	108.7	
AT007	1E-10a	石核A		Ob			21.71	18.17	10.47	4.3	
AT005	1Q-3c	石核A		Ob			30.01	25.77	18.83	8.2	原礫面あり
AT006	X-15	石核A		Ob			21.23	22.00	15.77	6.8	残核
ET001	1P-4b	磨製石斧		GrR	Y		94.77	57.28	27.16	220.6	第23図16
C1T011	1D-12c	磨石	2	An			105.44	56.92	37.06	323.4	
C1T012	1E-10c	磨石	2	An			76.87	59.40	35.49	228.1	
C1T018	1Q-4b	磨石		An	Y		52.96	30.80	50.01	115.0	
	H-1号遺構1区1層	FLA		Ch			20.26	16.52	1.60	0.6	
	H-3号住6区2層	FLB		Sh			32.66	25.45	12.37	9.6	
	H-4号9区1層	FLA		Ob			18.70	17.89	3.88	0.7	
C1T004	H-6号住	凹石	2b	An			139.40	75.34	47.05	743.0	
	H-6号住12区	FLB		Sh			35.48	29.99	5.26	5.5	
BT010	H-8号住5区1層	打製石斧		An	Y		77.07	43.98	20.93	74.2	
C1T005	H-10号住13区床直	磨石	2	An			105.65	71.90	55.19	436.7	
	H-11号住 石6?	FLA		Ch			39.67	23.55	11.91	13.2	赤
	H-11号住 石6	FLB		Sh			53.64	51.04	15.60	47.5	
	H-11号住 石6	FLB		Sh			42.63	28.93	12.09	12.2	
	H-11号住 石6	FLB		Sh			41.71	24.65	8.51	8.4	
C1T019	P-10	石皿		An	Y		175.00	111.60	64.60	1254.6	
C1T013	P-8	球石		An			55.55	42.97	46.31	121.6	第23図10
BT001	T-3号遺構	石匙B	1a片	Sh			35.80	38.19	5.56	7.7	第23図6
C1T010	T-2号遺構13区1層ベルト	凹石	2a	An			127.11	79.64	36.66	479.5	第23図12
	T-2号遺構14区1層	FLA		Ob			15.45	10.72	2.80	0.5	
	T-2号遺構14区1層	FLA		Ob			18.02	15.91	11.43	4.0	残核状
	T-3号遺構10区1層	FLA		Ob			20.18	11.10	6.92	1.2	
	T-3号遺構10区1層	FLA		Ob			19.55	8.29	2.11	0.2	
	T-3号遺構10区1層	FLA		Ob			19.32	10.29	9.40	2.0	
	T-3号遺構2区1層	FLA		Ch			25.33	20.95	6.38	2.6	
	T-6号遺構14区2層ベルト	FLB		Sh			27.38	12.69	4.86	1.7	
FT001	D-15号土坑	石製品		Sh			43.75	36.01	12.02	26.9	第23図17
C1T007	D-40号土坑	石皿		An	Y		145.42	67.55	42.62	478.1	
C1T008	D-40号土坑	凹石	2b	An	Y		72.61	39.73	36.96	76.4	
	D-9号土坑	FLB		Sh			58.44	30.35	15.01	22.3	
	一括	FLA		Ob			26.39	16.47	8.29	2.3	T13-17
	一括	FLA		BAn			29.18	37.20	5.67	6.5	1トレンチ南側石付近
	一括	FLB		Sh			82.04	57.08	18.41	79.1	
	一括	FLB		Sh			72.11	52.15	16.40	64.3	
	一括	FLD		Sc			42.71	43.36	9.13	28.3	
C1T003	一括	凹石	2b	An			85.53	73.50	44.93	342.5	
C1T009	一括	凹石	1b	An	Y		91.72	72.43	45.50	497.1	1X-15d
C1T015	一括	凹石	2b	An			94.07	76.87	54.47	430.1	
BT006	一括	打製石斧		Sh	Y		46.69	65.80	21.99	64.0	
BT003	表採	打製石斧	2	An			99.25	51.19	18.72	94.3	第23図8
BT007	表採	打製石斧		An	Y		47.13	59.10	13.68	41.7	
C1T016	表採	凹石	1b	An	Y	あり	120.08	123.27	55.12	945.6	
	表採	FLA		Ob			24.25	8.26	5.94	1.1	
	表採	FLA		Ob			19.04	11.67	8.99	1.9	
	表採	FLA		Ob			18.63	14.18	11.62	3.0	
	表採	FLA		Ob			24.48	18.77	15.91	7.5	
	表採	FLA		Ob			29.66	15.30	12.12	4.1	
	表採	FLA		Ob			14.47	8.65	10.54	1.6	
	表採	FLA		Ob			14.82	7.10	5.80	0.4	
	表採	FLA		Ob			14.74	10.03	2.89	0.3	
	表採	FLA		Ob			13.27	6.92	2.46	0.2	
	表採	FLB		Sh			83.95	34.73	10.57	30.9	
	表採	FLD		Sc			68.34	29.51	24.78	75.4	

第10表 南調査区石器観察表(2)

## (2) 奈良・平安時代の遺構と遺物

### a. 遺構

#### 住居址

##### H-4号住居址 (第24図)

調査区の関係で半分しか調査できなかったが、南北3.4mを計る。これを短軸とする平面長方形と推測される。竈や柱穴・土坑は確認できなかった。遺物は主に須恵器が出土した。また、2区貼床からは編物石が17点出土した。

##### H-5号住居址 (第25図)

調査区の関係で一部調査できなかったが、南北3.4mを計る。これを短軸とする平面長方形と推定される。北壁に竈が設置されていた。竈はロームを含む土で構築されており、石は使用していない。柱穴・土坑は検出できなかった。遺物は竈のある2区を中心に出土した。

##### H-8号住居址 (第24図)

調査区の関係で全体を調査できなかったが、南北3.4mを計る。これを短軸とする平面長方形と推測される。竈や土坑は確認できなかった。遺物は須恵器が出土した。

##### HT-6号住居址 (旧T-6、第26図)

東南部が未調査であるが、一辺4.88mの平面正方形であると推定される。東壁に竈が構築されていた。竈は天井に石を使用するが、壁はロームを含む土で構築されていた。また、壁際にそって周溝が巡る。柱穴が6本あったが、中央の2本は掘り込みが浅く、南北の4本は深い。土坑は確認できなかった。北端をM-2号溝が通過するが、M-2号溝の底はHT-6号住居址の床面より高い。遺物は土師器が主体である。14区から「×」という線刻がある坏(第33図6)、16区から放射状線刻のある坏(第33図5)が出土した。

##### H-3号住居址 (第27図)

平面正方形で、1辺4mを計る。柱穴や土坑は確認できなかった。竈は東壁に設置されていた。竈は石を使用して構築されていた。遺物は竈および2層の8区・15区・16区から主に土師器が出土した。

##### H-2号住居址 (第28図)

平面長方形で、南北4m、東西3.4mを計る。柱穴はなかった。竈は東壁および北壁に構築されていた。東竈は農道によって上部が削平されていたが、ロームを含む土で造られていた。東竈ば右脇には、D-2号土坑があった。また、北竈もロームを含む土で造られており、右脇

にはD-1号土坑があった。遺物は主に2箇所の竈から出土した。

#### H-6号住居址 (第29図)

東側が未調査であるが、南北4mを計る。これを短軸とする平面長方形であると推測される。柱穴や竈は確認できなかった。調査区の東壁際に土坑が2基あったが、このうち、D-2号土坑は貯蔵穴であるので、竈はD-2号土坑の左奥、すなわち住居の東壁に設置されていると推測される。遺物は主に4区・8区・12区・15区で出土した。この住居址から底部の内外面に「石」という文字のある墨書土器(いずれも須恵器)が6点出土した(第36図)。

#### 溝

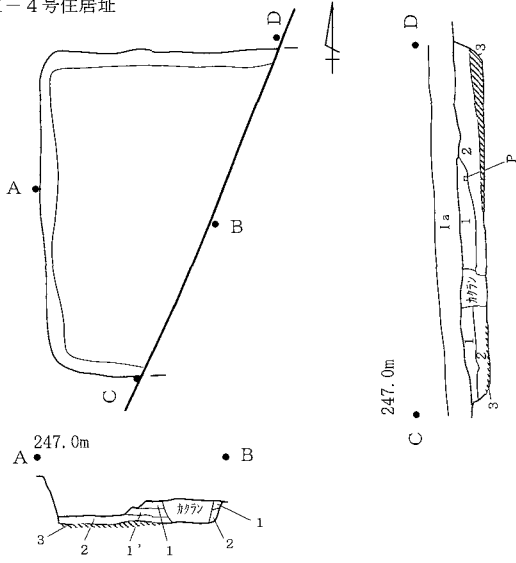
##### M-1号溝 (第30図)

最大幅72cm、最小幅32cmを計る。南調査区の南端部を横断している(長さ13m)が、東西にさらに続いていると推定される。西側が深く、東側が浅くなっている。M-1号溝はJT-1号遺構の北側を壊しているため、これより新しい。M-1号溝の調査区西壁の土層からAs-Bの降下よりは古いことがわかる。また、底にはいくつかのピットがあった。実測可能な遺物は出土しなかった。

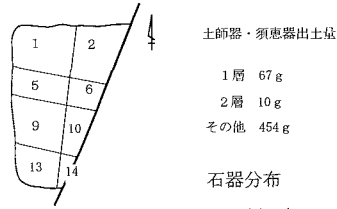
##### M-2号溝 (第31図)

最大幅88cm、最小幅48cmを計る。調査区を横断する(長さ9.4m)が、東西にさらに続いていると推定される。M-2号溝はHT-6号住居址の北端を横断するので、HT-6号住居址よりは新しい。また、土層の観察により、その構築はAs-Bの降下よりは古いことがわかる。なお、M-1号溝とは逆に、東より西が低くなっている。実測可能な遺物は出土しなかった。

H-4号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						R	P	焼土	
H-4	1	黒褐色土層10YR		◎	○	※	△	※	
	1'	黒褐色土層10YR	1<1'	◎	○	※	△	※	
	2	黒褐色土層10YR	1<2	○	○	△	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	2<3	○	○	△	※	※	貼床



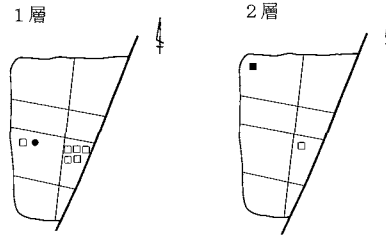
土師器・須恵器出土量

1層 67g  
2層 10g  
その他 454g

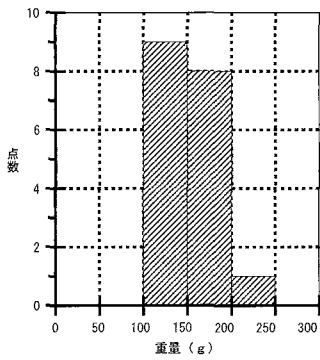
石器分布

2区貼床 ++++++

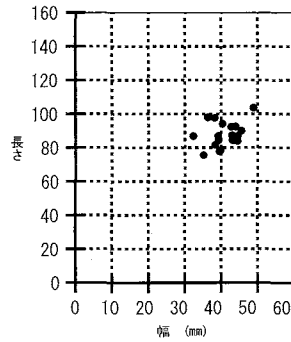
土師器・須恵器 土器分布



編物石重量度数グラフ

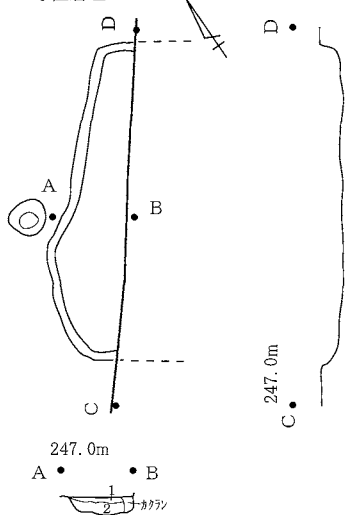


(mm) 編物石長幅グラフ



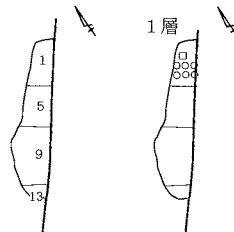
安山岩 18点

H-8号住居址



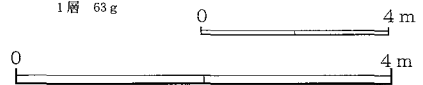
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			焼土
						R	P	焼土	
H-8	1	黒褐色土層10YR		○	△			※	
	2	暗褐色土層10YR	1<2	◎	◎			△	※

土師器・須恵器 土器分布



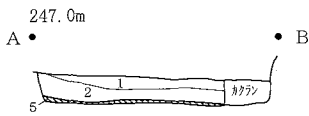
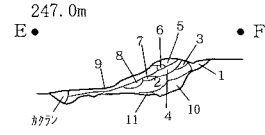
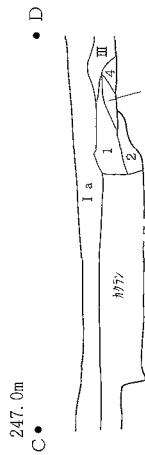
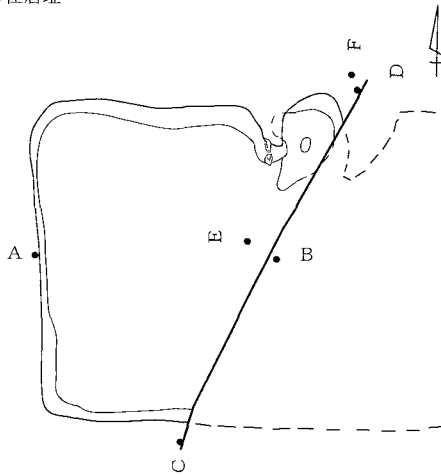
須恵器出土量

1層 63g



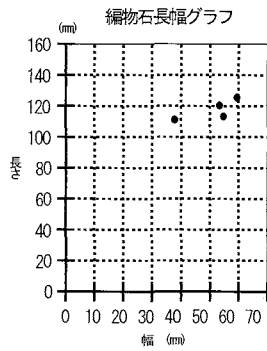
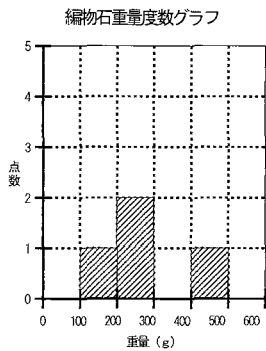
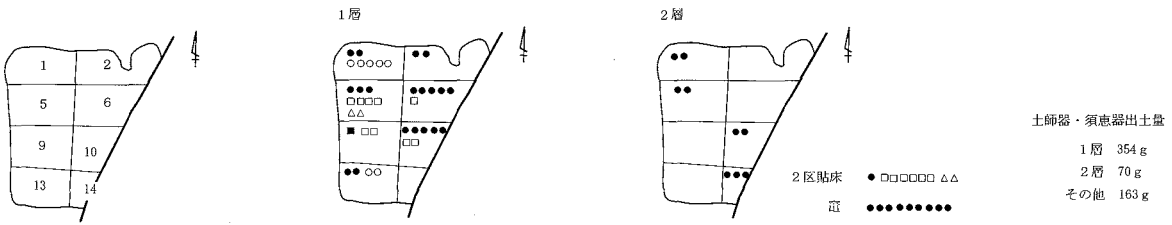
第24図 H-4号住居址・H-8号住居址実測図

H-5号住居址

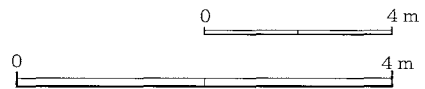


遺構名	層番	層名	色調	しまり粘性		混入物				
				R	P	R	B	Y	P	埴土
H-5	1	黒褐色土層10YR	1 > 2	○	◎			※	※	
	2	黒色土層10YR	2 < 3	◎	◎			※	△	※
	3	暗褐色土層10YR	3 < 4	◎	◎			※	△	※
	4	褐色土層10YR		△	◎	△		※	△	※
電	5	暗褐色土層10YR	2 < 5	○	◎			※		※
	1	黒褐色土層10YR	1 < 2	△	◎			※		※
	2	暗赤褐色土層5YR	2 < 3	◎	◎			※	○	◎
	3	赤褐色土層5YR	3 > 4	◎	△	△				△
	4	暗赤褐色土層5YR	4 < 5	○	◎	△		※	△	※
	5	褐色土層10YR	5 < 6	◎	◎	△		※	△	※
	6	褐色土層10YR	6 > 7	◎	◎	◎		※	※	※
	7	暗褐色土層10YR	7 < 8	△	◎	◎		※	※	△
	8	暗褐色土層10YR	5 > 9	○	◎	◎		※		※
	9	黒褐色土層10YR		○	◎	◎		※		◎
	10	暗赤褐色土層5YR	2 > 10	◎	◎	△				○
11	赤褐色土層5YR	10 < 11	◎	△					◎	

土師器・須恵器 土器分布

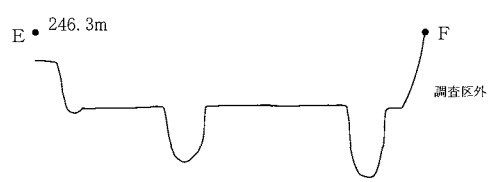
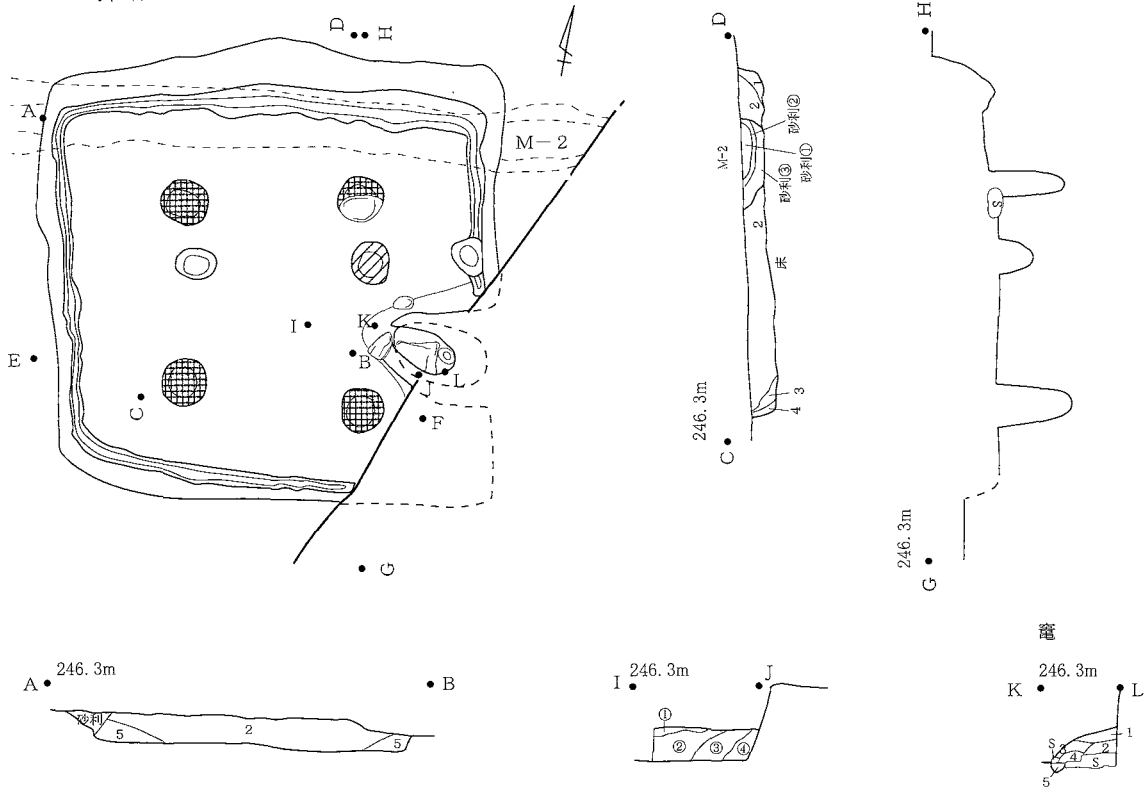


安山岩 4点



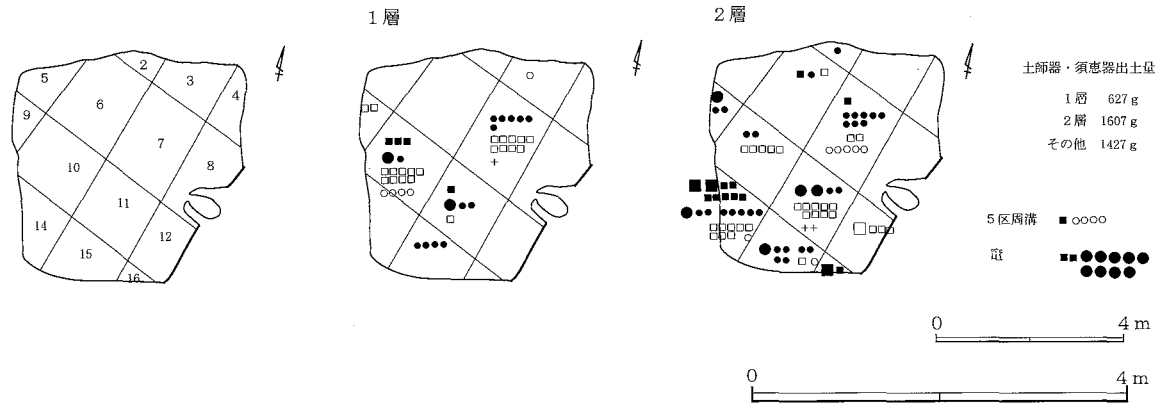
第25図 H-5号住居址実測図

HT-6号住居址



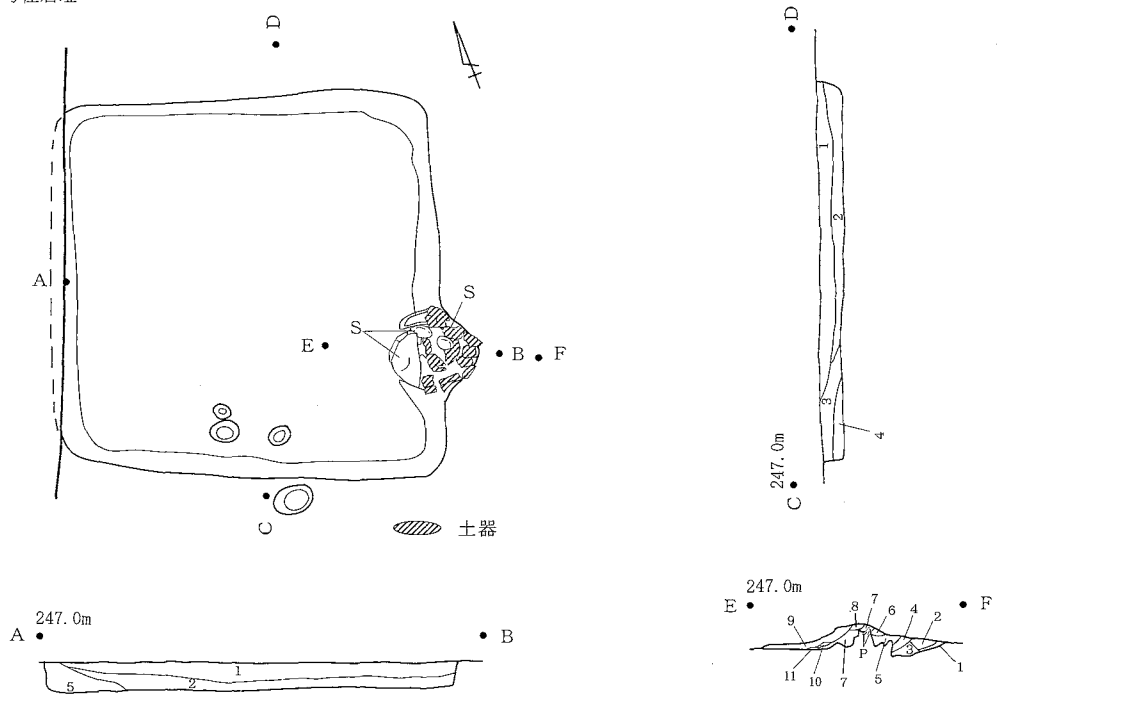
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	B	Y P	崩上
HT-6	1	暗褐色土層10YR	1 > 2	◎	○					※
	2	黒褐色土層10YR	2 < 3	◎	◎					※
	3	黒褐色土層10YR	3 > 4	◎	◎					※
	4	黒色土層10YR		◎	◎					※
	5	暗褐色土層10YR	2 < 5	◎	◎					※
竈	1	褐色土層10YR	1 < 2	◎	◎					※
	2	にぶい黄褐色土層10YR	2 > 3	◎	◎					※
	3	暗褐色土層10YR	3 > 4	◎	◎	△	※	※	△	※
	4	黒褐色土層10YR	4 < 5	◎	◎	△	※	※	△	※
	5	にぶい黄褐色土層10YR		◎	◎				○	※
東西ベルト	①	黒褐色土層10YR	① < ②	◎	◎					※
	②	暗褐色土層10YR	② < ③	◎	◎					※
	③	褐色土層10YR	③ < ④	◎	◎					※
	④	にぶい黄褐色土層10YR		◎	◎					※

土師器・須恵器 土器分布



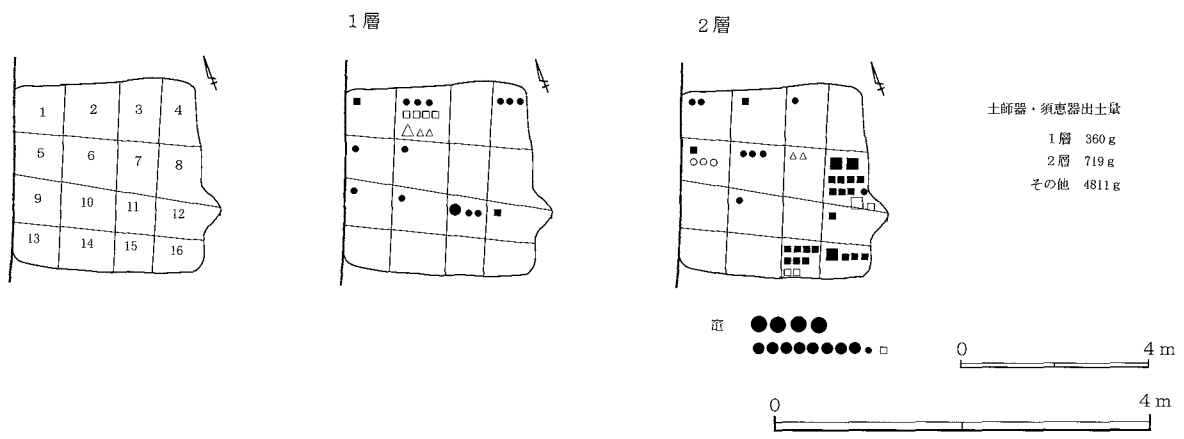
第26図 HT-6号住居址実測図

H-3号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物						
						R	P	RB	YP	炭化物	焼土	
H-3	1	黒色土層10YR	1<2	○	○					※		
	2	黒褐色土層10YR	2<3	◎	◎					※	※	※
	3	黒褐色土層10YR	3<4	◎	◎					※	※	※
	4	暗褐色土層10YR		◎	◎					※	※	※
	5	暗褐色土層10YR		◎	◎					※	※	※
電	1	暗褐色土層10YR	1>2	△	△					※		
	2	暗褐色土層10YR	2<3	◎	◎					※		
	3	暗褐色土層10YR	3>4	◎	◎					※	△	△
	4	黒褐色土層10YR	4<5	◎	◎		△	△		※	△	△
	5	暗赤褐色土層5YR	5>6	◎	◎		△	△		※	◎	◎
	6	暗褐色土層5YR	6>7	◎	◎		△	△		※		
	7	褐灰色土層10YR	7>8	◎	◎		△	△		※		※
	8	暗褐色土層10YR	8>9	◎	◎		△	△		※		※
	9	黒褐色土層10YR	9<10	◎	◎		△	△		※		※
	10	にぶい黄褐色土層10YR	10<11	◎	◎		△					※
	11	黄褐色土層10YR		○	◎							△

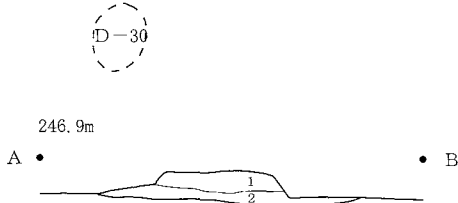
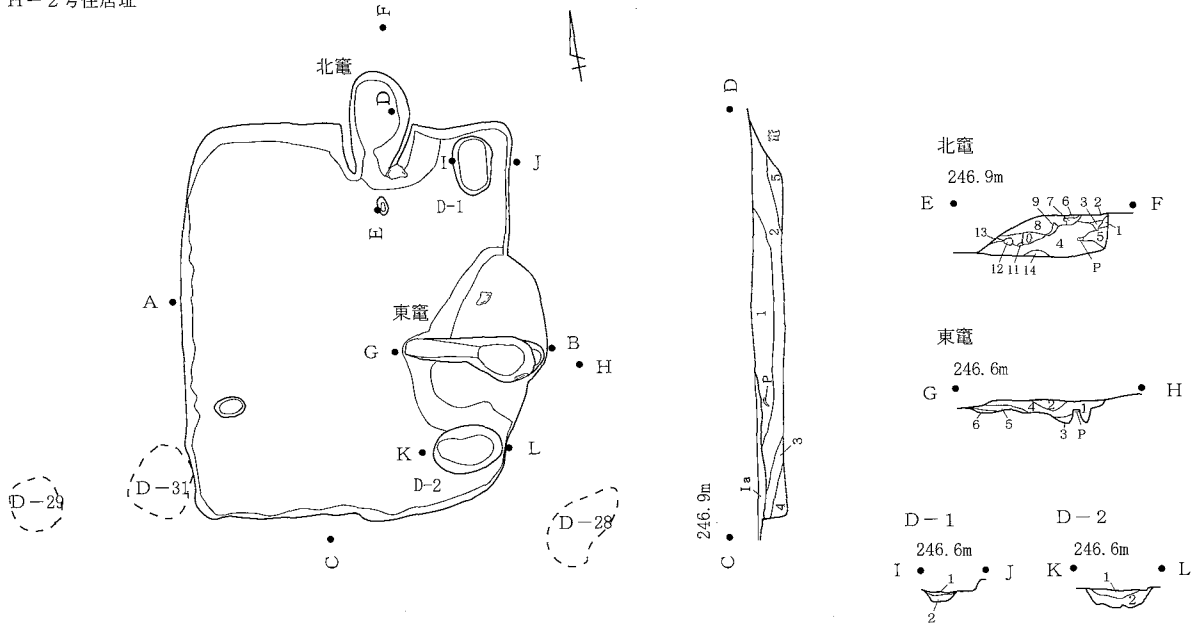
土師器・須恵器 土器分布



土師器・須恵器出土量  
 1層 360g  
 2層 719g  
 その他 4811g

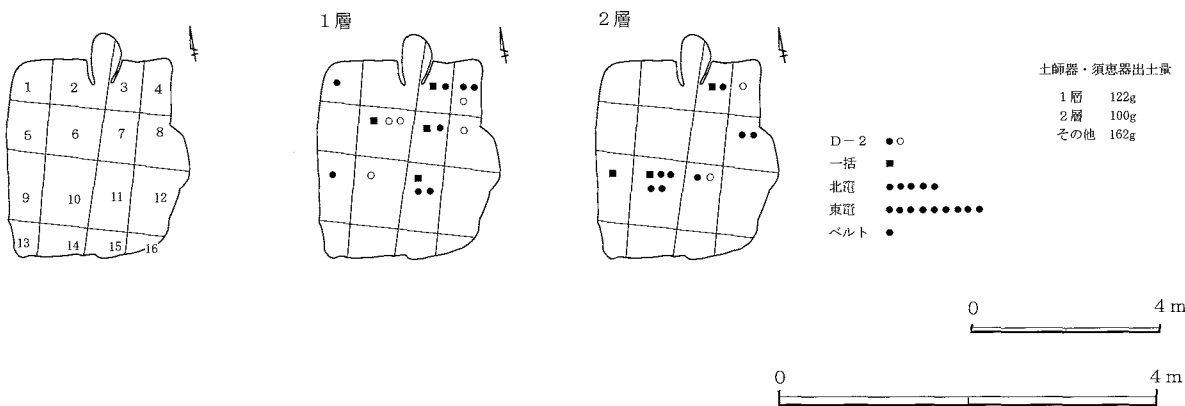
第27図 H-3号住居址実測図

H-2号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	R	B	Y
H-2	1	暗褐色土層10YR	1>2	◎	○	△	※	○	※	※
	2	黒褐色土層10YR	2<3	○	◎	△	※	○	※	※
	3	暗褐色土層10YR	3<4	◎	◎	△	※	△	※	※
	4	オリーブ褐色土層2.5Y	5>2	◎	◎	○	※	△	※	※
北竈	5	黄褐色土層10YR	1<2	◎	◎	△	※	△	※	※
	1	暗褐色土層10YR	1<2	◎	◎	○	※	△	※	※
	2	黄褐色土層10YR	2>3	◎	◎	○	※	△	※	※
	3	暗赤褐色土層5YR	3<4	◎	◎	△	※	△	※	※
	4	赤褐色土層5YR	4>5	◎	◎	△	※	△	※	※
	5	暗褐色土層5YR	3<4	◎	◎	○	※	△	※	※
	6	黄褐色土層10YR	6<7	◎	◎	△	※	△	※	※
	7	暗赤褐色土層5YR	7>8	◎	◎	△	※	△	※	※
	8	黒褐色土層10YR	8<9	◎	◎	△	※	△	※	※
	9	暗赤褐色土層5YR	9<10	◎	◎	○	※	△	※	※
	10	明黄褐色土層10YR	10>11	◎	◎	○	※	△	※	※
	11	黒褐色土層10YR	10>12	◎	◎	○	※	△	※	※
	12	黒褐色土層10YR	10>13	×	×		※	△	※	※
	13	黒褐色土層10YR	10>13	○	◎		※	△	※	※
14	赤褐色土層10YR	14>4			○	※	△	※	※	
東竈	1	暗赤褐色土層5YR	1>2	◎	◎		※	△	※	※
	2	暗褐色土層10YR		◎	△		※	△	※	※
	3	赤褐色土層5YR	1<3	◎	◎		※	△	※	※
	4	黒褐色土層10YR	2>4	◎	◎		※	△	※	※
	5	暗褐色土層10YR	4<5	◎	◎	△	※	△	※	※
	6	褐色土層10YR	5<6	◎	◎	◎	※	△	※	※
D-1	1	黒色土層10YR	1<2	◎	◎		※	△	※	※
	2	暗褐色土層10YR		◎	◎		※	△	※	※
D-2	1	黒褐色土層10YR	1<2	◎	◎		※	△	※	※
	2	暗褐色土層10YR		◎	◎		※	△	※	※

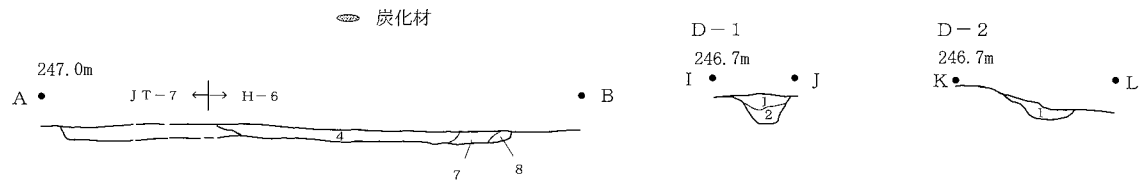
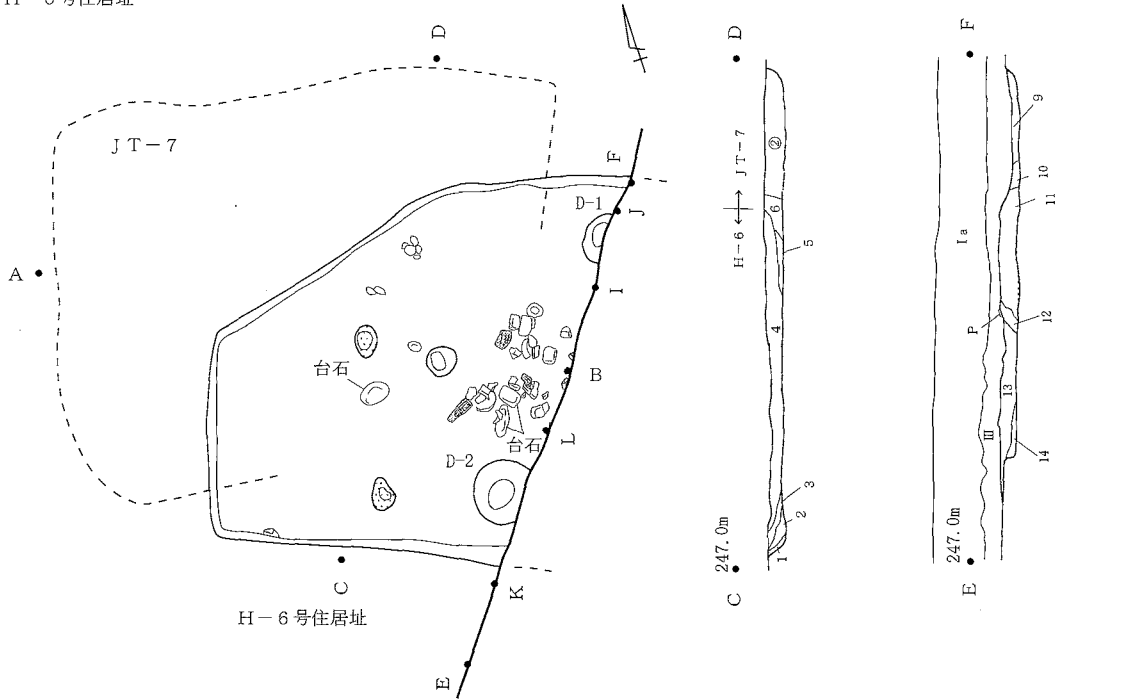
土師器・須恵器 土器分布



第28図 H-2号住居址実測図



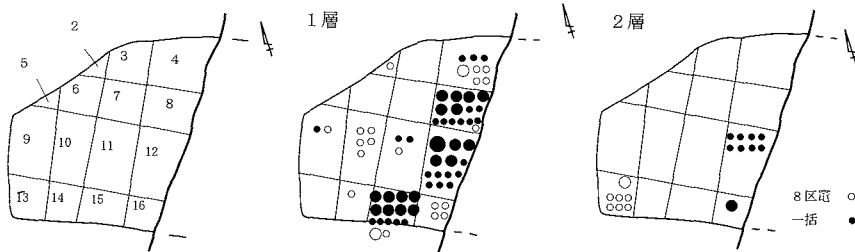
H-6号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり粘性		混入物			
				RP	RB	YP	炭化物	炭化材	焼土
H-6	1	黒褐色土層10YR		○	○				※
	2	暗赤褐色土層5YR	1<2	◎	◎				◎
	3	暗褐色土層10YR	2>3	◎	◎				△
	4	黒色土層10YR	3>4	◎	◎		△	※	◎
	5	暗赤褐色土層5YR	4<5	◎	◎				◎
	6	黒褐色土層10YR	5>6	◎	◎	※	※		※
	7	黒褐色土層10YR	4<7	◎	◎				
	8	暗褐色土層10YR	7<8	◎	◎		※		△
	9	黒色土層10YR	9<10	◎	◎		△	※	△
	10	暗赤褐色土層5YR	10>11	△	△		○		△
	11	暗褐色土層10YR		◎	◎		△		△
	12	暗褐色土層10YR	12>13	◎	◎	※	△		※
	13	黒褐色土層10YR	13<14	◎	◎				※
	14	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	※	※	※
D-1	1	黒色土層10YR		◎	◎			△	△
	2	黒褐色土層10YR	1<2	◎	◎			△	△
D-2	1	暗褐色土層10YR		◎	◎			※	

土師器・須恵器 土器分布

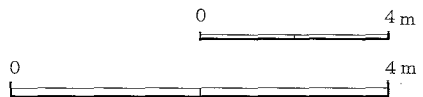
石器分布



- 4区1層 砥石 1点
- 11区2層 台石 1点
- 12区2層 台石 2点

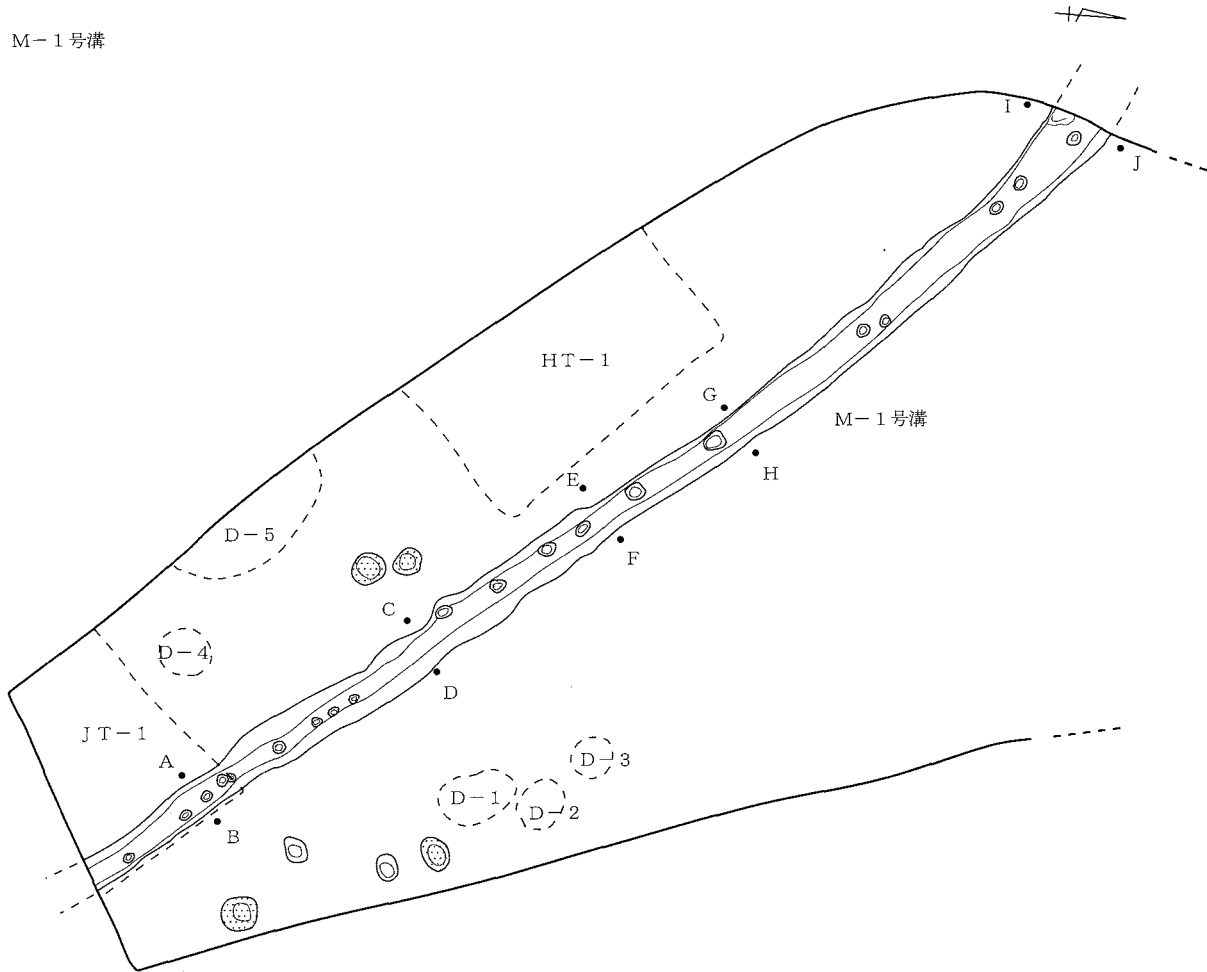
土師器・須恵器出土量

- 1層 3,438g
- 2層 340g
- その他 27g

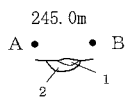


第29図 H-6号住居址実測図

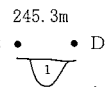
M-1号溝



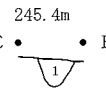
M-1



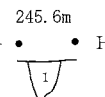
M-1 ベルト1



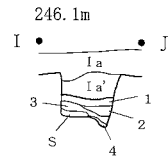
M-1 ベルト2



M-1 ベルト3



M-1 西壁

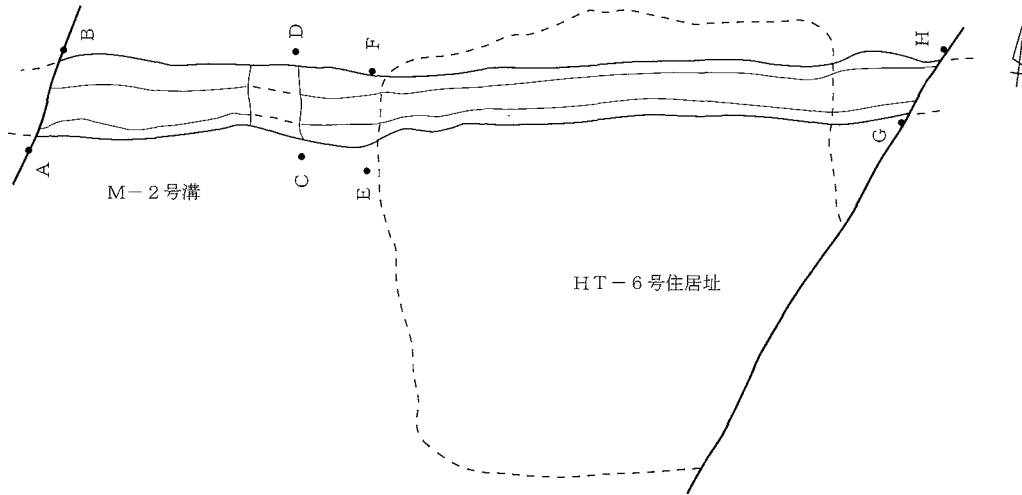


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考	
						R	P	R	B	Y		P
M-1	1	黒褐色土層10YR	1<2	△	◎							※
	2	暗褐色土層10YR		○	○	△						
M-1 西壁	1	褐灰色土層10YR	1>2	◎	△							◎
	2	暗褐色土層10YR		◎	○						○	
	3	褐灰色土層10YR	3<4	◎	△							◎
	4	にぶい黄褐色土層10YR		◎	○	○	○					※
M-1 ベルト1	1	灰褐色軽石層		x	x							◎ B純層
M-1 ベルト2	1	灰褐色軽石層		x	x							◎ B純層
M-1 ベルト3	1	灰褐色軽石層		x	x							◎ B純層

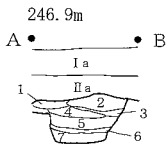


第30図 M-1号溝実測図

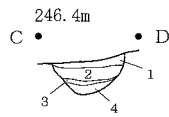
M-2号溝



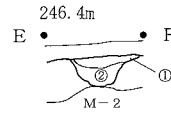
M-2 西壁



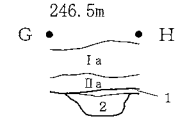
M-2 ベルト



M-2



M-2 東壁



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						R	P	RB	YP	As-B
M-2 西壁	1	暗褐色土層10YR	1<2	◎	×					◎
	2	褐灰色土層10YR	2>3	○	×					△
	3	暗褐色土層10YR		△	◎					○
	4	にぶい黄褐色土層10YR	1<4	△	×					◎
	5	褐灰色土層10YR	4<5	◎	×					◎
	6	黒褐色土層10YR	5>6	○	◎					※
	7	褐灰色土層10YR	6<7	△	×					◎
M-2 ベルト	1	暗褐色土層10YR	1<2	◎	△					◎
	2	褐灰色土層10YR	2>3	◎	×					◎
	3	黒褐色土層10YR	3<4	△	○					◎
	4	褐灰色土層10YR		△	◎					◎
M-2	①	褐灰色土層10YR	①>②	×	×					◎
	②	黒褐色土層10YR	②<③	○	○					◎
M-2 東壁	1	黒褐色土層10YR	1<2	◎	△					◎
	2	褐灰色土層10YR		○	×					◎



第31図 M-2号溝実測図

## b. 遺物

### 土器

南調査区では6軒の住居址及び遺構外から土師器・須恵器が出土した。この中から復元可能な個体を図化した。土師器は坏・甕があり、須恵器は坏・碗・高台付碗・高台坏皿・甑・甕・壺などが出土している。

土師器の甕の表面調整は削り整形であるが、須恵器の甕の表面調整は轆轤整形後に削り調整をしている。このうち、胴部が削り調整で「く」の字状口縁の長胴甕を甕A、胴部が削り整形で「コ」の字状口縁のものを甕B、胴部が削り整形でやや崩れた「コ」の字状口縁のものを甕C、胴部が削り整形で「く」の字状口縁のものを甕D、胴部が削り整形で口縁部が轆轤整形のものを甕Eとする。

また、土師器の坏は、丸底で口縁が短く内傾するものを坏a、丸底で口縁が内湾するものを坏b、器高が浅く丸底で内湾する体部に至るものを坏c、丸底気味の底部で内湾する口縁をもつものを坏d、平底気味の底部に口縁部が先端部で内湾し全体としては外傾する体部なものを坏eとする。

さらに、須恵器の坏は、やや上げ底気味で口縁がやや外反するものを坏A、平底で体部がやや丸みを帯びるものを坏B、器高が浅く上げ底気味で体部が外反するものを坏C、平底で体部が丸みを帯びるものを坏D、平底で体部が丸みを帯び口縁が外反するものを坏E、やや上げ底気味で口縁が外反するものを坏F、上げ底で体部が直線的に外傾するものを坏G、底部を絞り平底で体部が丸みを帯び口縁が外反するものを坏Hとする。須恵器の高台付碗は、体部が丸みを帯び口縁部が外反し断面三角形の高台を付す碗A、体部が丸みを帯び口縁が外反し断面台形の高台を付す碗B、体部が直線的に開き断面台形の高台を付す碗C、体部が直線的に開き器高の浅い断面台形の高台を付す碗Dとする。須恵器の高台付皿は、体部がふくらみを持って外反する皿A、体部が扁平で口縁部が水平に開く皿Bとする。

#### H-4号住居址出土の土器（第33図1、2）

須恵器坏Aと須恵器盤を図化した。第33図1は須恵器の坏Aで、底部は回転糸切り後未調整である。2は須恵器の盤で、口縁部及び台部下半を欠損している。内面は轆轤撫で調整を施し、外面は轆轤削り調整を施す。

#### H-5号住居址出土の土器（第33図3、4）

須恵器の坏Cを2点図化した。第33図3は須恵器坏Cで、底部は篋切りである。4も須恵器坏Cで、底部は篋切りである。

#### HT-6号住居址出土の土器（第33図5～11）

土師器坏b、坏c、坏a、須恵器坏C、土師器甕Aが出土した。第33図5は土師器坏bで、底部内面に放射状の線刻がある。6は土師器坏aで、底部内面に「×」という線刻がある。7は土師器坏bである。8は土師器坏cである。9は須恵器坏Cで、底部は回転篋切りである。10は須恵器坏Cで、底部は篋切りである。11は土師器甕Aで、竈の中に置かれた状態で出土した。

#### H-2号住居址出土の土器（第33図12~14）

須恵器坏D、坏B、坏Aが出土した。12は須恵器坏Dである。13は須恵器坏Bである。14は須恵器坏Aで、底部は回転糸切り未調整である。

#### H-3号住居址出土の土器（第34図・第35図）

土師器坏d、土師器坏e、須恵器坏B、坏A、坏C、坏E、碗D、須恵器蓋、土師器甕B、甕C、甕Dを図化した。第34図1は土師器坏dである。2は土師器eである。3と4は酸化焰焼成の内面黒色土器である。3は須恵器坏Dで、底部は篋切りである。4は須恵器坏Bで、底部は篋切りである。5は須恵器坏Bで、底部は回転糸切り後未調整で、酸化焰焼成である。6は須恵器坏Bで、底部は回転篋切りである。7は須恵器坏Bで、底部は回転篋切りである。8は須恵器坏Bで、底部は回転篋切りである。9は須恵器坏Bで、底部は回転糸切り後未調整である。10は須恵器坏Cで、底部は回転糸切り後未調整である。11は須恵器坏Eで、底部は回転糸切り後未調整である。12は須恵器坏Bで、底部は回転糸切り後未調整である。13は須恵器坏Aで、底部は回転篋切りである。14は須恵器碗Dで、底部は回転糸切りの後に高台を接合している。15は須恵器の蓋で、水平な天井部から緩やかに湾曲する体部を経て口縁部が垂直に折り返す。内面に墨跡があり、転用硯であると考えられる。16は須恵器の蓋で、体部は緩やかに湾曲し口唇部を下方に折り返す。摘部・天井部を欠損している。第35図1は土師器甕Bである。2は土師器甕Cである。3~6は土師器甕Dである。いずれも竈から出土している（ただし、1は一部8区・11区から接合した）。

#### H-6号住居址出土の土器（第36図・第37図）

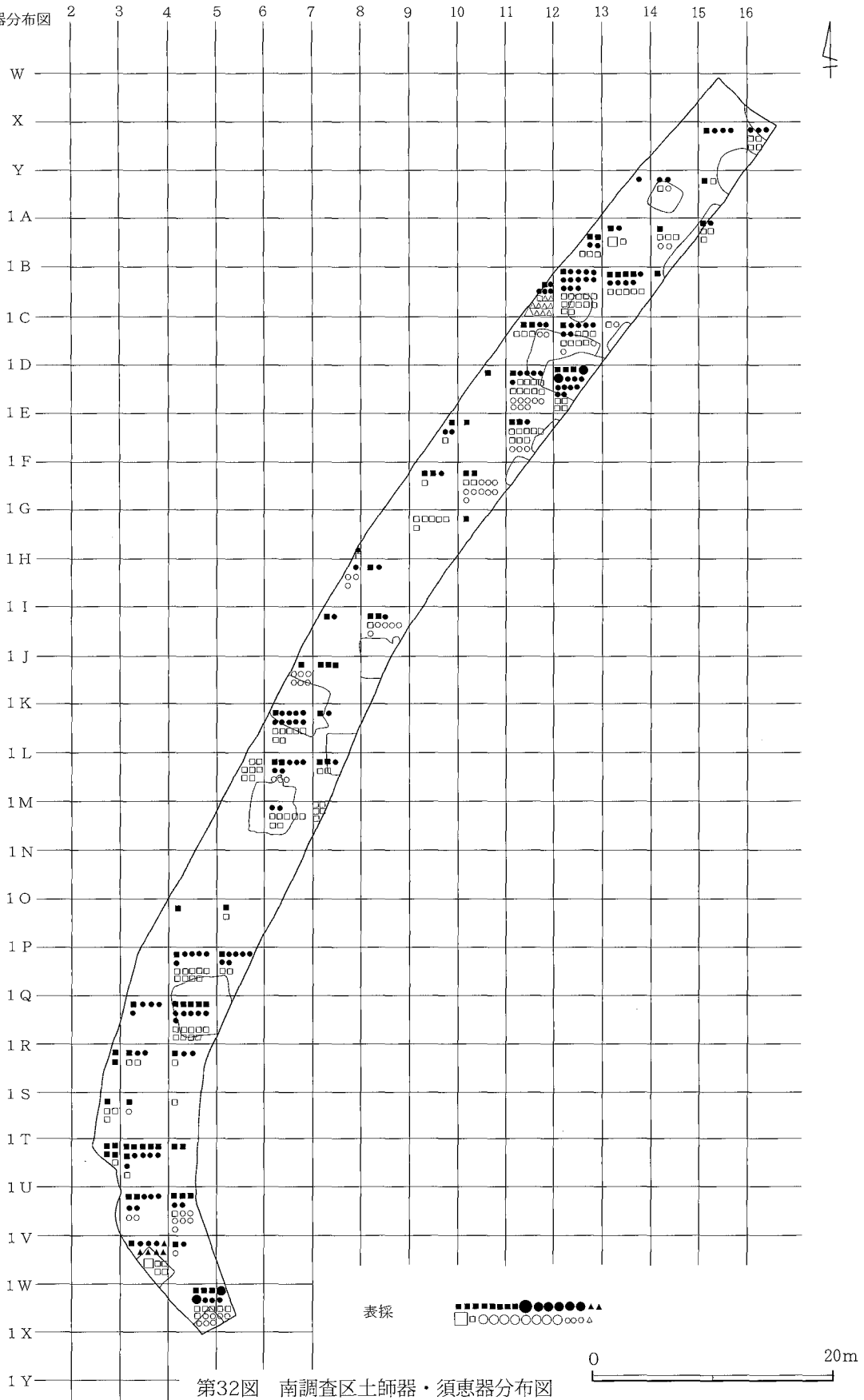
須恵器坏F、坏G、坏B、坏A、須恵器碗A、須恵器皿A、土師器甕B、土師器甕C、須恵器甕Eを図化した。

第36図には墨書土器を集めた。第36図1は須恵器坏Gで、底部は回転糸切り後未調整である。底部内外面に「石」と墨書する。2は須恵器坏Bで、底部は回転糸切り後未調整である。底部内外面に「石」という墨書がある。3は須恵器坏Gで、底部は回転糸切り後未調整である。底部の内外面に「石」という墨書がある。4は須恵器坏Gで、底部は回転糸切り後未調整である。底部の内外面に「石」という墨書がある。5は須恵器坏Bの底部破片で底部は回転糸切り後未調整である。底部の内外面に「石」という墨書がある。6は須恵器碗Aで、底部は回転糸切り後に高台を接合している。底部の内外面に「石」という墨書がある。

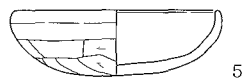
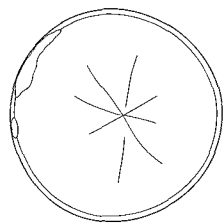
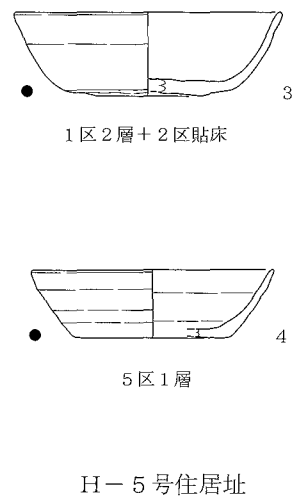
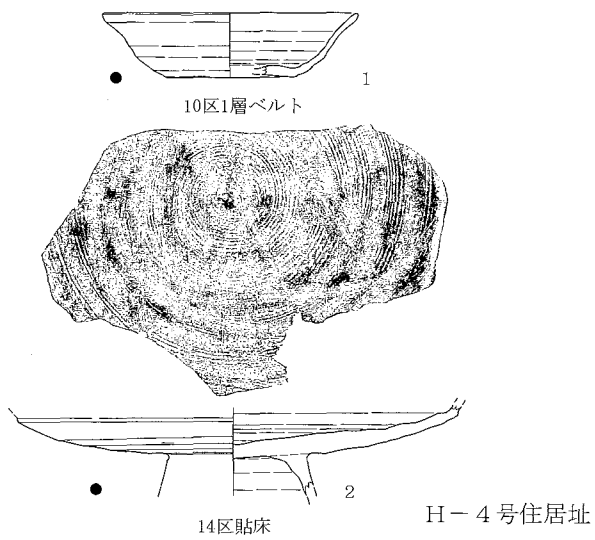
第37図1は須恵器坏Aで、底部は回転糸切り未調整である。2は須恵器坏Fで、底部は回転篋切りである。3は須恵器碗の底部で、底部は回転糸切りの後に高台を接合している。4は須恵器皿Aで、底部は回転糸切りの後に高台を接合している。5は須恵器壺の底部破片で、外面には自然釉がかかっている。高台は削り出している。6、7は須恵器甕Eで、口縁部は轆轤撫で調整を施す。8は土師器甕Bである。9は土師器甕Cである。

土師器・須恵器分布図

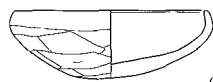
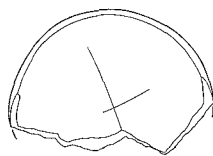
南調査区



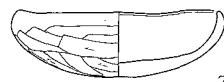
第32図 南調査区土師器・須恵器分布図



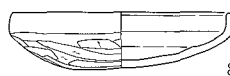
16区2層



14区2層



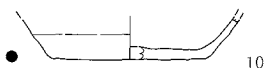
14区2層



14区2層



16区2層

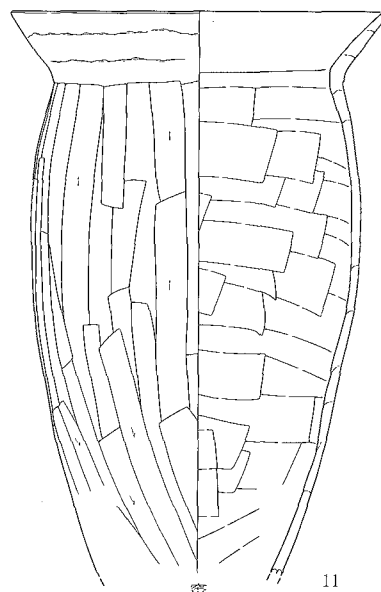


11区2層



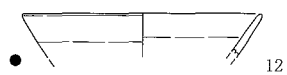
12区2層

HT-6号住居址



電 11

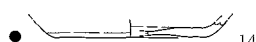
0 1:4 10cm



4区1層 12



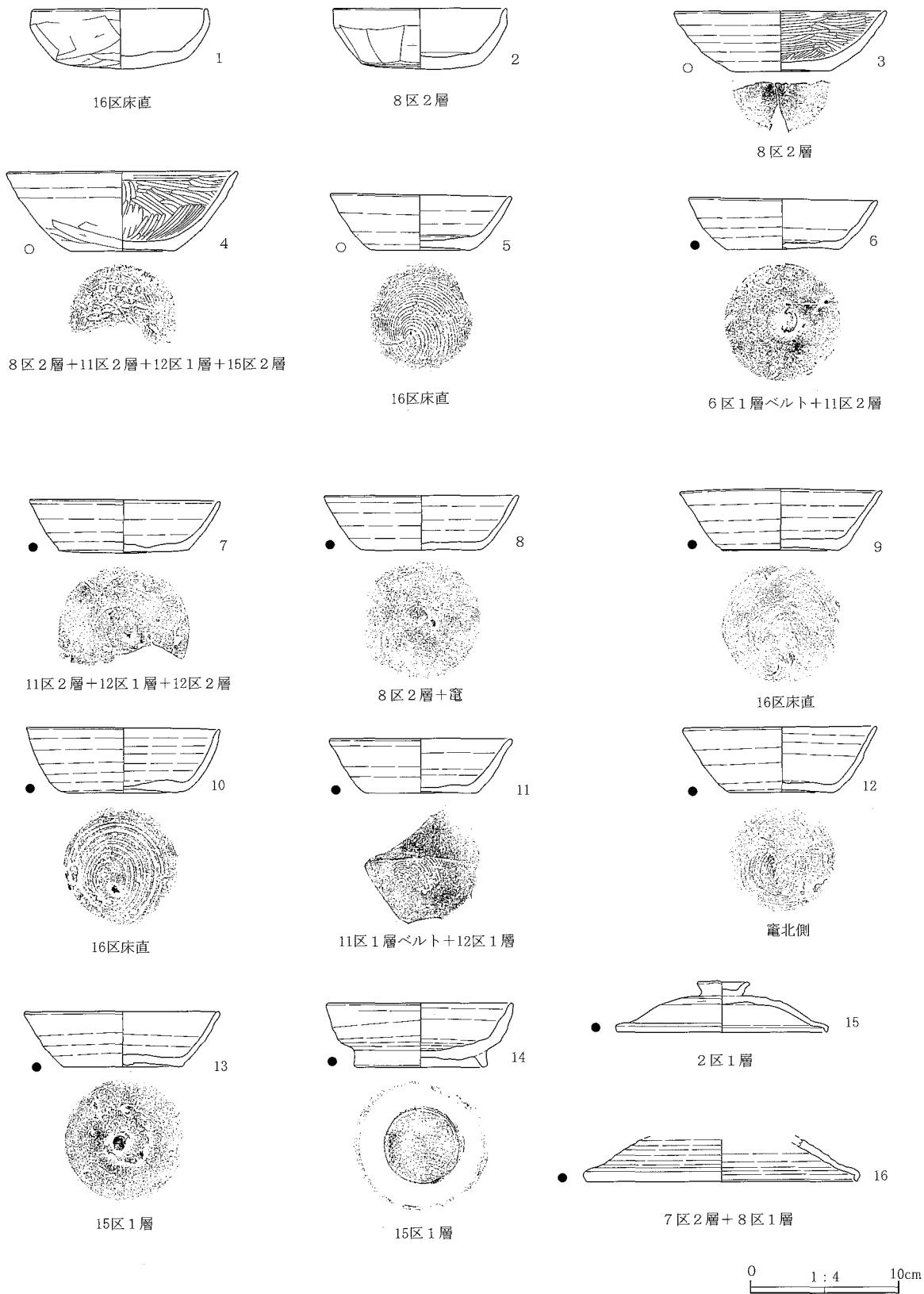
4区1層 13



6区1層 14

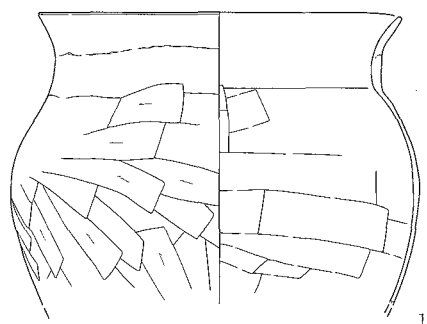
H-2号住居址

第33图 H-4号・H-5号・HT-6号・H-2号住居址出土土器实测图

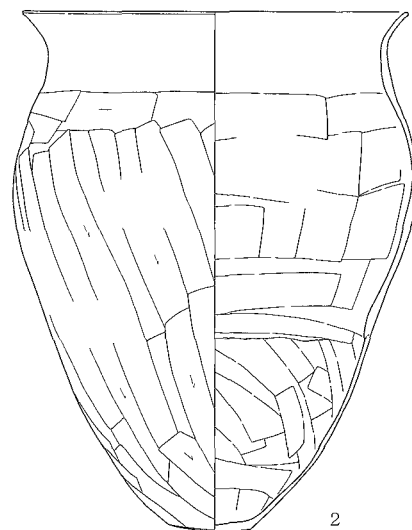


第34図 H-3号住居址出土土器実測図(1)

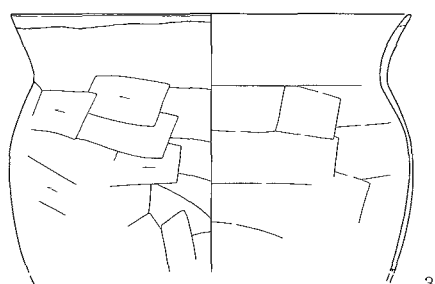




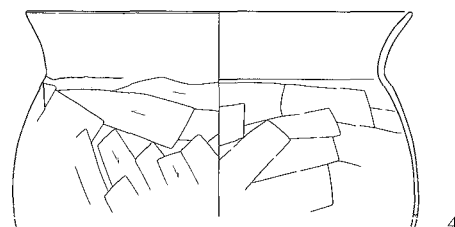
8区2層+11区1層ベルト+竈



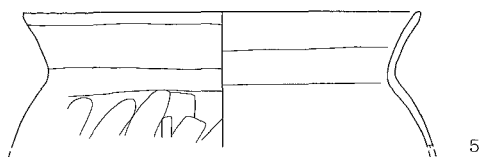
竈



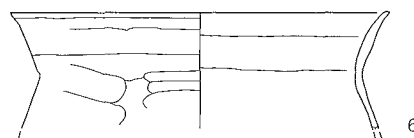
竈



竈



竈



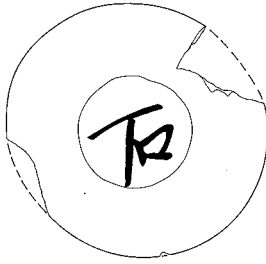
竈

0 1:4 10cm

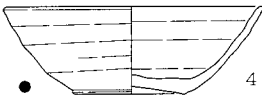
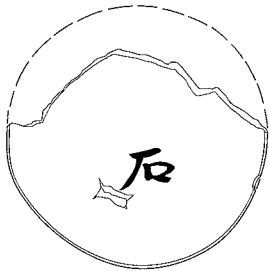
第35図 H-3号住居址出土土器実測図(2)



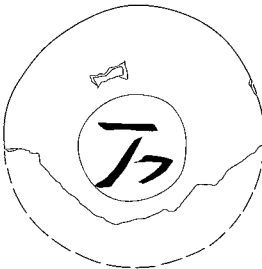
● 1



2区1層+7区1層



● 4



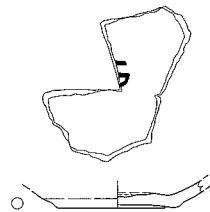
13区1層



● 2



9区1層+10区1層

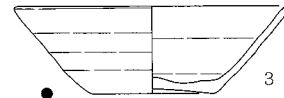
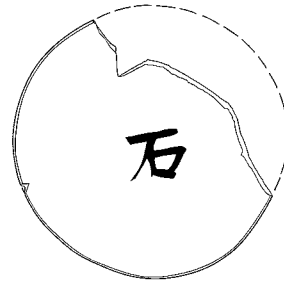


○ 5

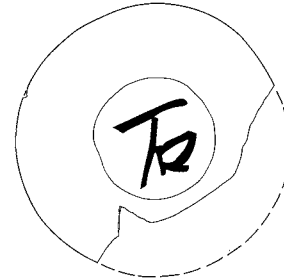


11区1層+12区1層ベルト

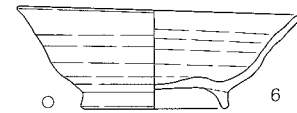
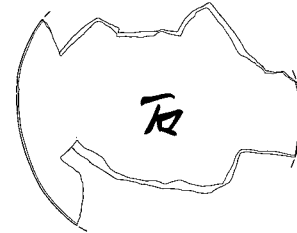
0 1:4 10cm



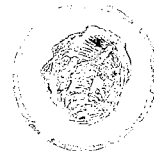
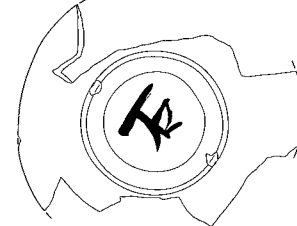
● 3



11区1層+12区1層ベルト+12区床直+16区1層

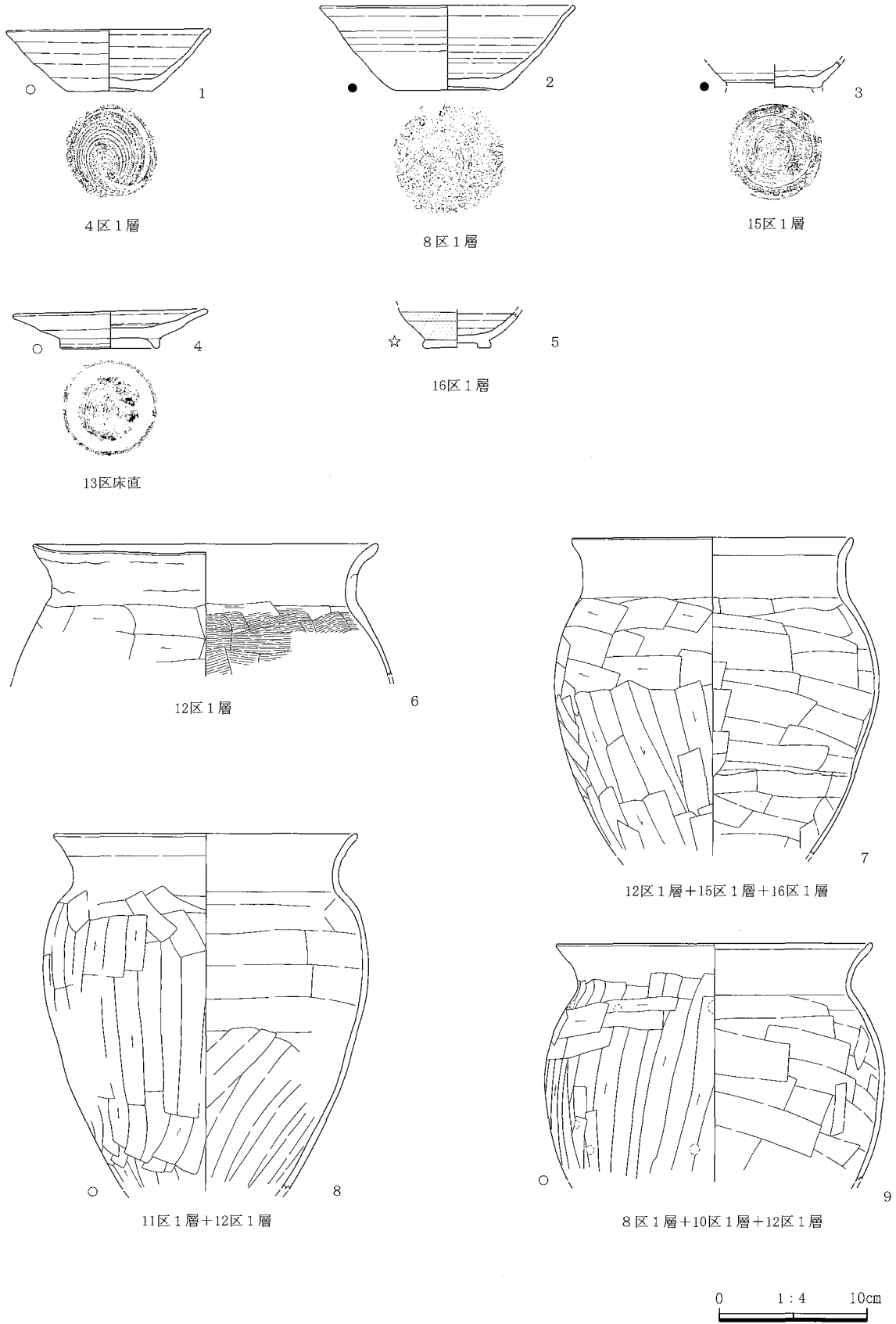


○ 6



6区1層+9区1層+7区床直

第36図 H-6号住居址出土土器実測図(1)



第37图 H-6号住居址出土土器实测图(2)

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
第33図	1	H-4	10区1層 ベルト	須恵器 坏	口径 (13.4) 底径 (7.0) 器高 3.4	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黑色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	8世紀前半
	2	H-4	14区貼床	須恵器 高台付盤	口径 - 底径 - 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黑色粒 ④体部~上部1/2	外面 轆轤整形、体部回転篋削り、台部轆 轤整形。内面 轆轤整形、底部力キ目後部 分的に篋撫で。	8世紀前半
	3	H-5	1区2層+ 2区貼床	須恵器 坏	口径 (14.0) 底径 (8.8) 器高 4.4	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黑色粒 ④1/5	外面 轆轤整形、底部回転篋切り。内面 轆轤整形。	8世紀末~ 9世紀
	4	H-5	5区1層	須恵器 坏	口径 (12.7) 底径 (8.0) 器高 3.6	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黑色粒 ④1/5	外面 轆轤整形、底部回転篋切り後撫で。 内面 轆轤整形。	8世紀末~ 9世紀
	5	HT-6	16区2層	土師器 坏	口径 10.7 底径 - 器高 3.5	①普通 ②橙色 ③白色粒・ 褐色粒・角閃石・石英 ④口 縁部一部欠損	外面 口縁部横撫で、体部上位撫で、体部 ~底部篋削り。内面 口縁部横撫で、体部 ~底部撫で、底部に焼成後の線刻。	9世紀前半
	6	HT-6	14区2層	土師器 坏	口径 (10.1) 底径 - 器高 3.6	①普通 ②明赤褐色 ③白色 粒・角閃石・石英 ④3/5	外面 口縁部横撫で、体部上位撫で、体部 ~底部篋削り。内面 口縁部横撫で、体部 ~底部撫で、底部に焼成後の線刻。	9世紀前半
	7	HT-6	14区2層	土師器 坏	口径 10.6 底径 - 器高 3.5	①普通 ②橙色 ③白色粒・ 角閃石・石英 ④口縁部一部 欠損	外面 口縁部横撫で、体部~底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、体部~底部篋撫で。	9世紀前半
	8	HT-6	14区2層	土師器 坏	口径 11.4 底径 - 器高 2.5	①普通 ②鈍い赤褐色 ③白 色粒・角閃石・石英 ④7/8	外面 口縁部横撫で、体部下位撫で、体部 ~底部篋削り。内面 口縁部横撫で、体部 ~底部篋撫で。	9世紀前半
	9	HT-6	12区2層	須恵器 坏	口径 12.8 底径 8.3 器高 3.8	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 礫 ④口縁部2/5欠損	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り後撫で。 内面 轆轤整形。	9世紀前半
	10	HT-6	11区2層	須恵器 坏	口径 - 底径 (8.0) 器高 -	①還元 ②黄灰色 ③白色 粒・黑色粒 ④体部下位~底 部1/4	外面 轆轤整形、底部回転篋切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
11	HT-6	竈	土師器 甕	口径 19.8 底径 - 器高 -	①普通 ②橙色 ③白色粒・ 角閃石・雲母 ④口縁部~胴 部下位残存	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀前半	
12	H-2	4区1層	須恵器 坏	口径 (12.6) 底径 - 器高 -	①還元 ②黄灰色 ③黑色粒 ④口縁部~体部1/8	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀後半	
13	H-2	4区1層	須恵器 坏	口径 (13.0) 底径 - 器高 -	①還元 ②黄灰色 ③白色 粒・黑色粒 ④口縁部~体部 下位1/8	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀後半	
14	H-2	6区1層	須恵器 坏	口径 - 底径 (8.0) 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黑色粒 ④体部下位~底部 1/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半	
第34図	1	H-3	16区床直	土師器 坏	口径 11.5 底径 8.4 器高 4.0	①普通 ②橙色 ③白色粒・ 黑色粒 ④3/4	外面 口縁部横撫で、体部~底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、体部~底部篋撫で。	9世紀前半
	2	H-3	8区2層	土師器 坏	口径 (11.5) 底径 7.9 器高 4.1	①普通 ②鈍い黄褐色 ③白 色粒・褐色粒 ④1/2	外面 口縁部横撫で、体部~底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、体部~底部篋撫で。	9世紀前半
	3	H-3	8区2層	須恵器 坏	口径 (14.0) 底径 (6.8) 器高 4.0	①酸化 ②鈍い赤褐色 ③白 色粒・黑色粒 ④4/5	外面 轆轤整形、底部篋磨き。内面 篋磨 き、黑色処理。	9世紀前半
	4	H-3	8区2層+ 11区2層+ 12区1層+ 15区2層	黒色土器 坏	口径 (15.2) 底径 7.0 器高 5.3	①酸化 ②明赤褐色 ③白色 粒・黑色粒・褐色粒 ④1/4	外面 轆轤整形、体部下位篋削り、底部右 回転糸切り。内面 篋磨き、黑色処理。	9世紀前半
	5	H-3	16区床直	須恵器 坏	口径 11.9 底径 6.6 器高 3.8	①酸化気味 ②明赤褐色 ③ 白色粒・褐色粒・雲母・礫 ④3/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半

第11表 南調査区土師器・須恵器観察表(1)

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
	6	H-3	6区1層 ベルト	須恵器 坏	口径 12.4 底径 7.5 器高 3.4	①還元 ②灰白～黄灰色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	7	H-3	11区2層+ 12区1層+ 12区2層	須恵器 坏	口径 12.6 底径 8.7 器高 3.6	①還元 ②灰白～灰色 ③黒色粒 ④3/5	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	8	H-3	8区2層+ 竈	須恵器 坏	口径 (12.8) 底径 8.0 器高 3.6	①還元 ②灰白～灰色 ③黒色粒 ④2/5	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	9	H-3	16区床直	須恵器 坏	口径 13.3 底径 7.8 器高 4.1	①還元 ②灰色 ③黒色粒・白色粒 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	10	H-3	16区床直	須恵器 坏	口径 12.8 底径 7.4 器高 4.4	①還元 ②灰～暗灰色 ③白色粒 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	11	H-3	11区1層 ベルト+ 12区1層	須恵器 坏	口径 (12.0) 底径 (7.2) 器高 3.7	①還元 ②灰白～黄灰色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り後、周辺部篋撫で。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	12	H-3	竈北側	須恵器 坏	口径 12.8 底径 6.9 器高 4.4	①還元 ②外-灰色、内-灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	13	H-3	15区1層	須恵器 坏	口径 12.9 底径 7.9 器高 3.7	①還元 ②灰色 ③黒色粒 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	14	H-3	15区1層	須恵器 高台付碗	口径 12.2 底径 8.4 器高 4.3	①還元 ②黄灰色 ③白色粒・黒色粒 ④4/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	15	H-3	2区1層	須恵器 蓋	口径 (14.0) 摘み 3.2 器高 3.3	①還元 ②灰色 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面 轆轤整形、天井部右回転篋削り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	16	H-3	7区2層+ 8区1層	須恵器 蓋	口径 (18.0) 摘み - 器高 -	①還元 ②灰白～灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～天井部中位1/4	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀前半
第35図	1	H-3	8区2層+ 11区1層 ベルト+竈	土師器 甕	口径 19.0 底径 - 器高 -	①普通 ②明赤褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部中位1/2	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀前半
	2	H-3	竈	土師器 甕	口径 20.3 底径 4.4 器高 27.5	①普通 ②鈍い黄橙～明赤褐色 ③白色粒・角閃石 ④7/8	外面 口縁部横撫で、胴部～底部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部～底部篋撫で。	9世紀前半
	3	H-3	竈	土師器 甕	口径 21.0 底径 - 器高 -	①普通 ②鈍い褐～暗褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部中位1/3	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀前半
	4	H-3	竈	土師器 甕	口径 20.4 底径 - 器高 -	①普通 ②鈍い黄橙～暗褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位1/2	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀前半
	5	H-3	竈	土師器 甕	口径 (21.1) 底径 - 器高 7.2	①やや軟 ②明赤褐色 ③砂粒・細砂粒含む ④口縁部～胴部上位1/3	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で	9世紀前半
	6	H-3	竈	土師器 甕	口径 (20.1) 底径 - 器高 6.2	①やや軟 ②明赤褐色 ③細砂粒多量に含む ④口縁部～胴部上位1/5	外面 口縁部轆轤整形、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で	9世紀前半
第36図	1	H-6	2区1層+ 7区1層	須恵器 坏	口径 13.6 底径 6.0 器高 4.7	①還元 ②灰黄色 ③白色粒・黒色粒 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半
	2	H-6	9区1層+ 10区1層	須恵器 坏	口径 12.7 底径 6.1 器高 4.5	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半

第12表 南調査区土師器・須恵器観察表(2)

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
	3	H-6	11区1層+ 12区1層 ベルト+ 12区床直+ 16区1層	須恵器 坏	口径 14.3 底径 6.4 器高 4.6	①還元 ②灰黄~灰色 ③白色粒・石英 ④2/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半
	4	H-6	13区1層	須恵器 坏	口径 13.5 底径 5.7 器高 4.6	①還元 ②灰白~黒褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半
	5	H-6	11区1層+ 12区1層 ベルト	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.2) 器高 -	①酸化 ②鈍い黄橙色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④体部~底部2/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半
	6	H-6	6区1層+ 9区1層+ 7区床直	須恵器 高台付碗	口径 14.9 底径 7.3 器高 5.4	①酸化気味 ②暗灰~鈍い橙色 ③白色粒 ④3/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書「石」。	9世紀後半
第37図	1	H-6	4区1層	須恵器 坏	口径 13.6 底径 5.7 器高 4.2	①酸化気味 ②鈍い黄橙色 ③白色粒・褐色粒・石英 ④ほぼ完形	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	2	H-6	8区1層	須恵器 碗	口径 (17.0) 底径 7.4 器高 5.7	①還元 ②鈍い黄橙色 ③白色粒 ④2/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	3	H-6	15区1層	須恵器 高台付碗	口径 - 底径 - 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位~底部残存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	4	H-6	13区床直	須恵器 高台付皿	口径 12.9 底径 6.3 器高 2.6	①酸化気味 ②黄橙~黄灰色 ③褐色粒 ④ほぼ完形	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	5	H-6	16区1層	須恵器 高台付壺	口径 - 底径 (4.5) 器高 2.6	①中性縮 ②灰白色 ③水簾、黒色粒子 ④体部下位~底部残存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	6	H-6	12区1層	土師器 甗	口径 (23.1) 底径 - 器高 -	①普通 ②明褐色 ③白色粒 ④口縁部~胴部上位2/3	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀後半
	7	H-6	12区1層+ 15区1層+ 16区1層	土師器 甗	口径 18.8 底径 - 器高 -	①普通 ②明褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部~胴部下位3/4	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀後半
	8	H-6	11区1層+ 12区1層	須恵器 甗	口径 (20.4) 底径 - 器高 -	①酸化気味 ②橙~鈍い黄橙色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④口縁部~胴部下位1/4	外面 轆轤整形、胴部縦位篋削り。内面 轆轤整形、胴部上位横位篋撫で、下位斜縦位篋撫で。	9世紀後半
	9	H-6	8区1層+ 10区1層+ 12区1層	須恵器 甗	口径 (21.2) 底径 - 器高 -	①酸化気味 ②鈍い黄橙色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部~胴部上位1/3	外面 轆轤整形、胴部縦位篋削り。内面 轆轤整形、胴部上位横位篋撫で。	9世紀後半

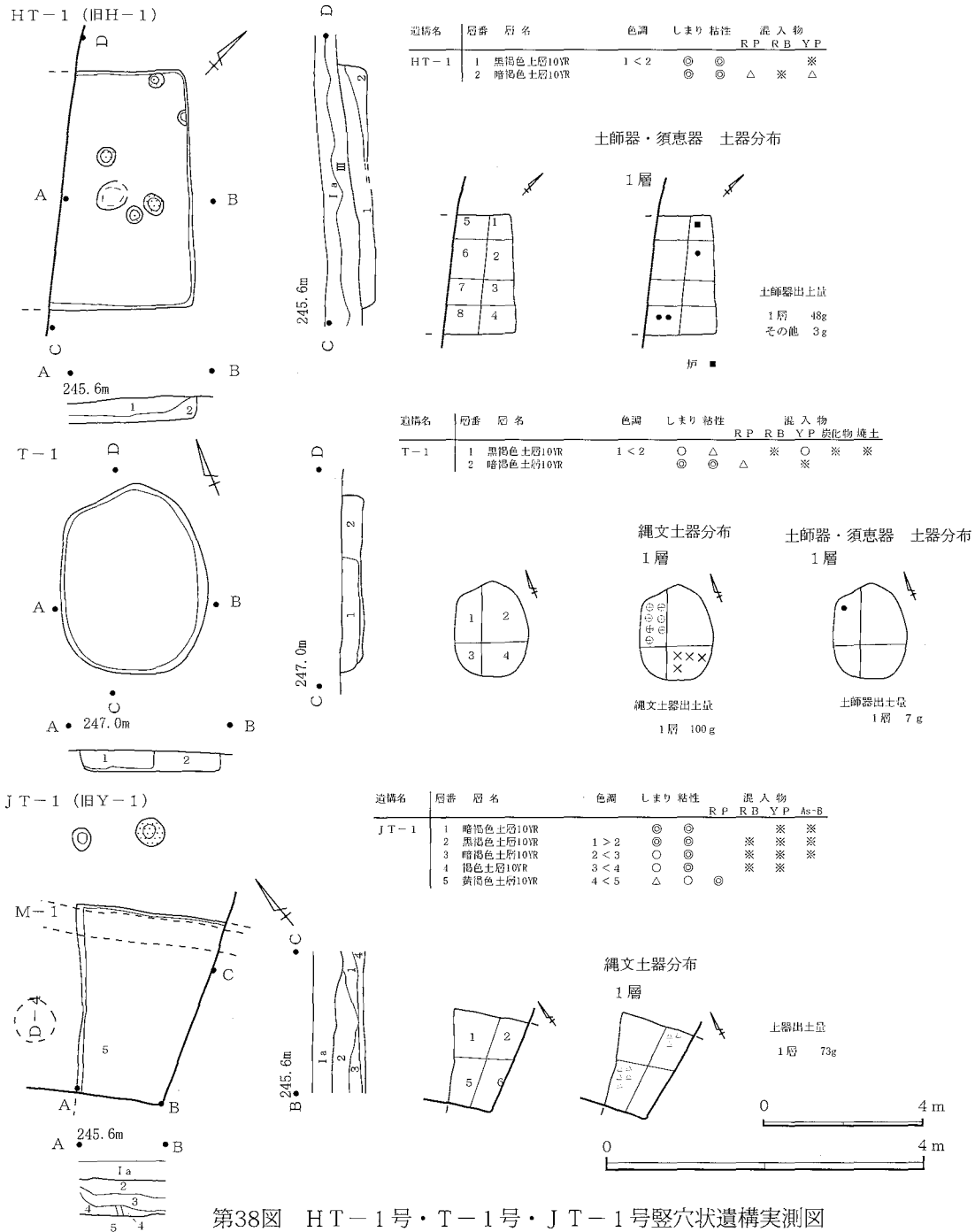
第13表 南調査区土師器・須恵器観察表(3)

### (3) 時期不明の遺構

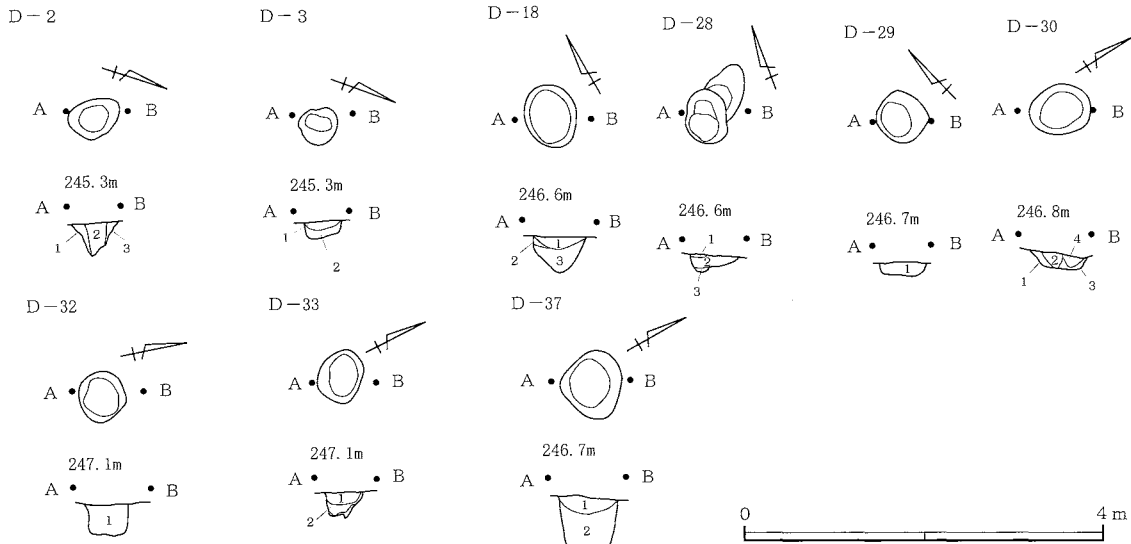
#### a. 遺構

#### HT-1号竪穴状遺構 (第38図)

東西約3m、南北1.8mであるが、南側が未調査である。平面は長方形を呈すると推測される。遺物は土師器が出土したが、実測可能個体はなかった。



第38図 HT-1号・T-1号・JT-1号竪穴状遺構実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性			混入物			備考
					R	P	RP	RB	YP	焼土	
D-2	1	暗褐色土層10YR	1 > 2	○	◎	※				※	
	2	黒褐色土層10YR	2 < 3	◎	◎	※			※	※	
	3	暗褐色土層10YR		○	◎	※					
D-3	1	黒色土層10YR	1 < 2	◎	△				※		
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※			※		
D-18	1	黒褐色土層10YR	1 < 2	△	△	※			※		
	2	黒褐色土層10YR	2 < 3	△	○	※			※		
	3	暗褐色土層10YR		○	◎	△	※		△		
D-28	1	暗褐色土層10YR	1 > 2	○	◎	△			※		
	2	黒褐色土層10YR	2 < 3	○	◎	△	※		※		
D-29	1	暗褐色土層10YR		○	◎	△			※		
	2	暗褐色土層10YR	1 > 2	○	○	△			※		
D-30	1	暗褐色土層10YR	1 > 2	◎	◎	※			※		
	2	黒褐色土層10YR	2 < 3	◎	◎	※			※		
	3	暗褐色土層10YR	3 > 4	◎	◎	△			※		
D-32	1	黒褐色土層10YR		○	◎		※		※		
	2	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	※		※		
D-33	1	黒褐色土層10YR	1 < 2	◎	○				※		
	2	暗褐色土層10YR		◎	◎				※		
D-37	1	黒褐色土層10YR	1 < 2	◎	◎				△		
	2	暗褐色土層10YR		○	◎				△		

第39図 南調査区土坑実測図(3)

**T-1号竪穴状遺構(第38図)**

平面長方形で、南北3m、東西1.88mを計る。覆土に焼土や炭はあったが炉や竈もなく、称名寺式土器(第19図20)に混ざって土師器が出土しているので、時期の決め手に欠ける。

**J T-1号竪穴状遺構(旧Y-1、第38図)**

一部しか調査できなかったが、平面は長方形を呈すると考えられる。北端をM-1号溝によって壊されている。黒浜式土器(第19図6・7)が出土した。

**b. 遺物**

**T-1号竪穴状遺構出土土器** 第19図20は称名寺式期の深鉢形土器の胴部で、縦位に粘土紐で区画し、区画の一方にLR縄文を施紋する。

**J T-1号竪穴状遺構出土土器** 第19図6は関山II式期の深鉢形土器の平口縁で、組紐文を施す。第19図7は黒浜式期の深鉢形土器の胴部で、RL縄文を施紋している。



### 3 北調査区

#### (1) 奈良・平安時代の遺構と遺物

##### a. 遺構

##### 住居址

##### T-8号住居址 (第41図)

東側が未調査であるが、一辺3.8mの平面正方形であると推測される。遺物は須恵器を主体とする。6区と10区・11区が多かった。柱穴・土坑は確認できなかった。

##### H-10号住居址 (第41図)

西側が未調査であるが、南北4.6mを計る。平面正方形であると推測される。柱穴は確認できなかった。竈は東壁と中央に2基あった。東竈は石を使用して構築されていた。竈3はロームを含む土で構築されていた。東竈と竈3の軸はずれているが、竈3は上部が壊されていると推測されるので、竈3を使用していた住居を壊して、東竈を使用する住居を構築したと推測される。7区2層から底部内外面に「奉」と記す墨書土器(第44図9)、16区1層から底部外面に「真」と記す墨書土器(第44図8)が出土した。

##### H-11号住居址 (第42図)

西側が未調査であるが、南北4mを計る。平面隅丸正方形であると推測される。柱穴は確認できなかった。竈は東壁に構築されていた。住居の東南隅と中央に土坑が2基(D-1号土坑・D-2号土坑)存在した。竈とD-1号土坑の間には焼土の堆積した土坑があり、炉と呼称した。遺物は竈を中心にして14区・15区に多い。また、D-1号土坑から底部外面に「十」という墨書のある土器(第45図5)が出土した。

##### 土坑

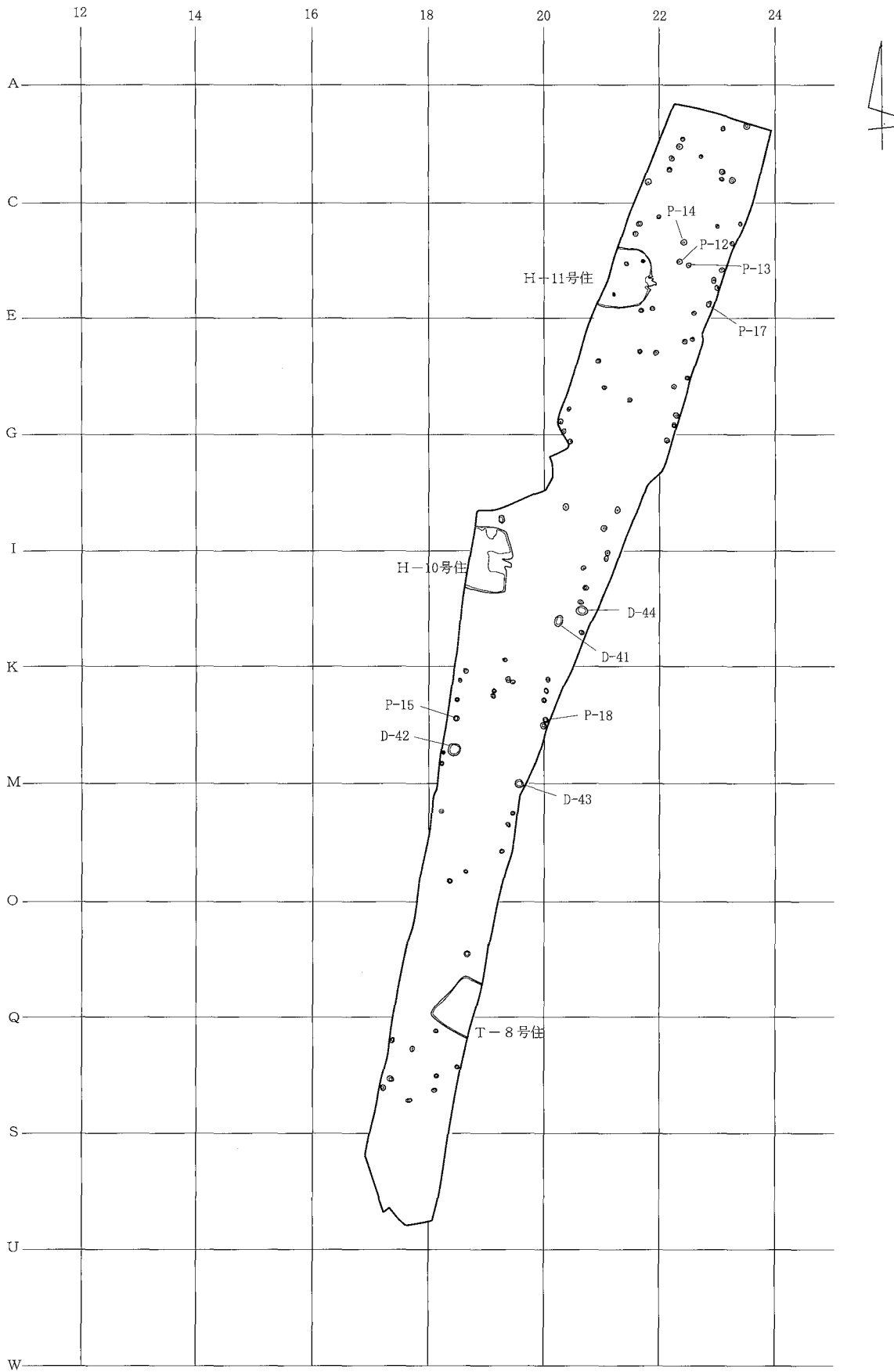
北調査区では4基の土坑を検出した。D-42号土坑以外では遺物が出土しなかったが、覆土から同じような時期の土坑と考えられる。

D-41号土坑(第42図) 平面形は楕円形、断面は坏状を呈する。

D-42号土坑(第42図) 平面形は楕円形、断面はコップ状を呈する。底部外面に「汗」?という墨書のある土器が出土した(第46図1)。墨書土器は底部を上にして逆さまに埋まっていた。他に遺物は出土しなかった。

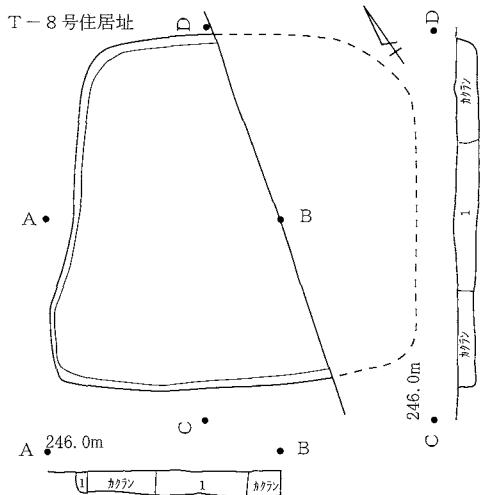
D-43号土坑(第42図) 平面形は楕円形、断面はコップ状を呈する。

D-44号土坑(第42図) 平面形は楕円形、断面は坏状を呈する。



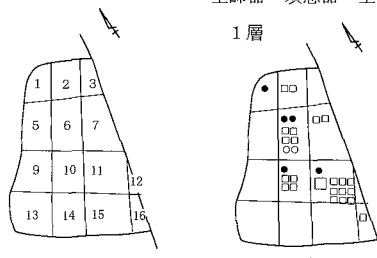
第40図 掘端遺跡北調査区全体図





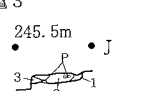
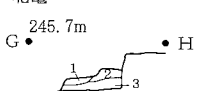
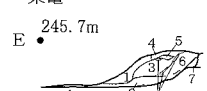
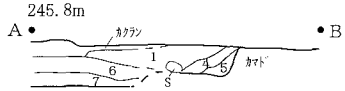
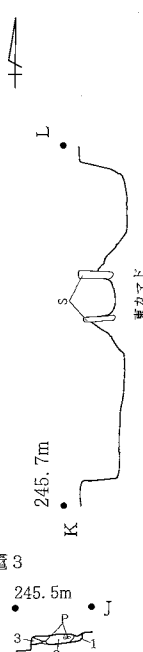
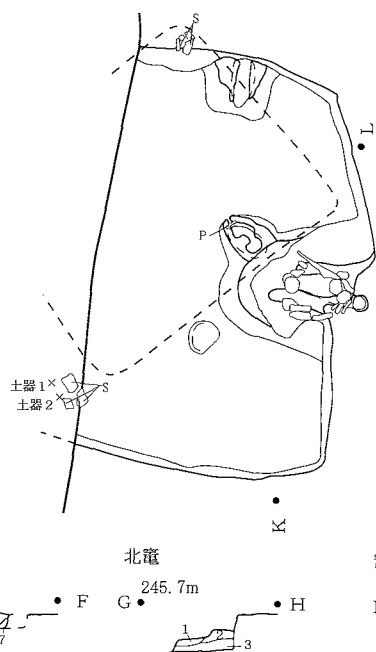
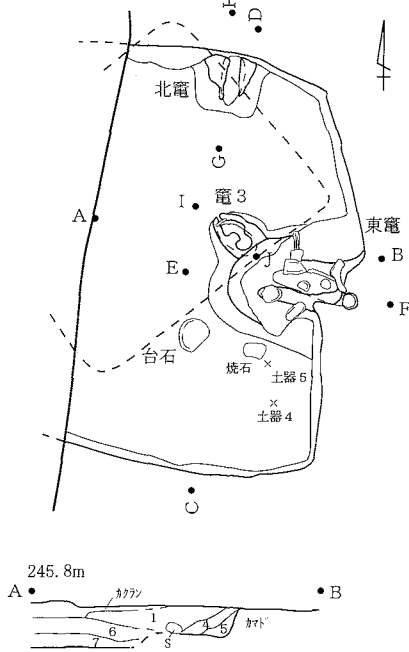
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						RP	RB	YP	焼土
T-8	1	黒褐色土層10YR		○	◎				※ ※

土師器・須恵器 土器分布

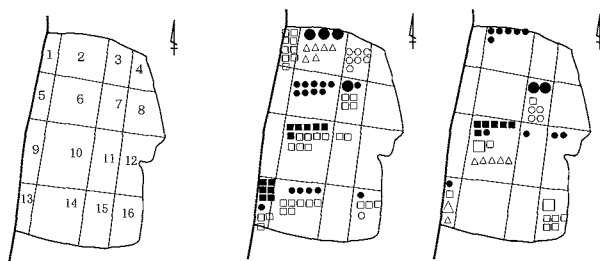


土師器・須恵器出土量  
1層 361g

H-10号住居址



土師器・須恵器 土器分布

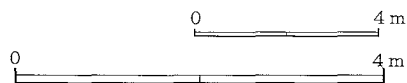


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						RP	RB	YP	焼土
H-10	1	黒褐色土層10YR	1 > 2	◎	○				※ ※
	2	黒色土層10YR	1 < 3	◎	○				※ ※
	3	暗褐色土層10YR	1 < 4	◎	○				※ ※
	4	暗褐色土層10YR	1 < 4	◎	○				※ ※
	5	にぶい黄褐色土層10YR	4 < 5	◎	○	△			※ ※ △
北竈	1	黒褐色土層10YR	1 > 6	◎	○				※ ※
	7	黒色土層10YR	6 > 7	◎	○				※ ※
	1	赤褐色土層5YR	1 > 2	◎	○	△			△ ※
東竈	2	黒色土層10YR	2 < 3	◎	○				△ ※
	3	黒褐色土層10YR	1 < 2	◎	○				△ ※
	1	暗褐色土層10YR	1 < 2	◎	○				△ ※
竈3	2	明褐色土層10YR	2 < 3	◎	○				○ ※
	3	にぶい黄褐色土層10YR	3 > 4	◎	○		○		○ ※
	4	黒褐色土層10YR	4 < 5	◎	○				△ ※
	5	暗赤褐色土層5YR	4 < 5	◎	○				△ ※
	6	褐色土層10YR	4 < 5	◎	○				△ ※
	7	黒褐色土層10YR	4 < 5	◎	○				△ ※
竈3	1	暗赤褐色土層5YR	1 < 2	◎	○			△	※ ※
	2	暗赤褐色土層2.5YR	2 > 3	◎	○				※ ※
	3	黄褐色土層10YR	2 > 3	◎	○	△			※ ※

石器分布  
13区床直 磨石  
10区2層 台石  
6区2層 台石

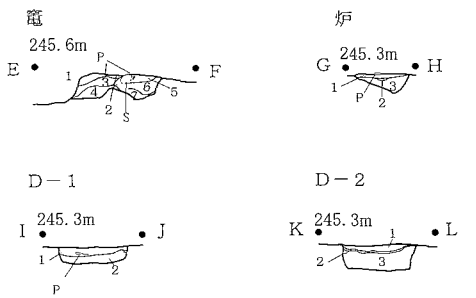
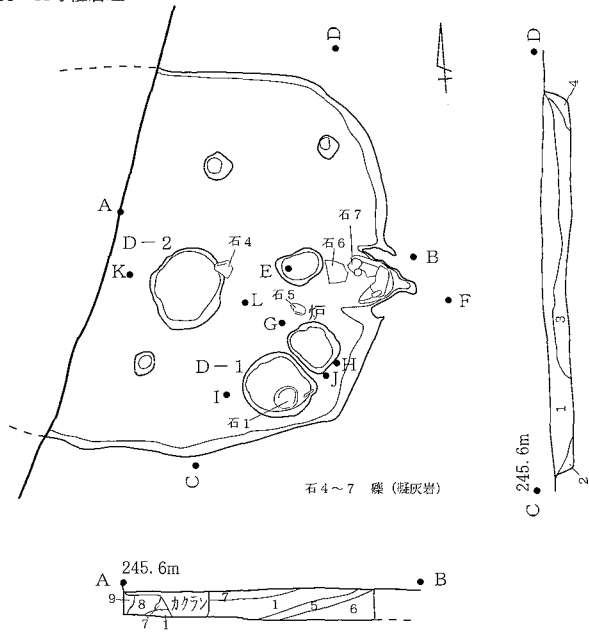
東竈 ●●●●●●●●●●  
北竈 ○○○○○○○○  
竈3 ●●

土師器・須恵器出土量  
1層 1070g  
2層 930g  
その他 1544g



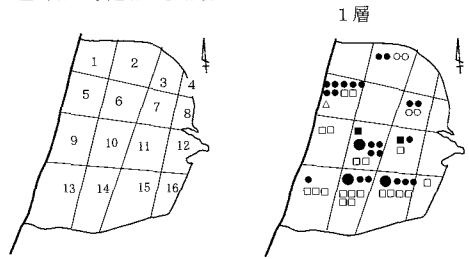
第41図 T-8号住居址・H-10号住居址実測図

H-11号住居址

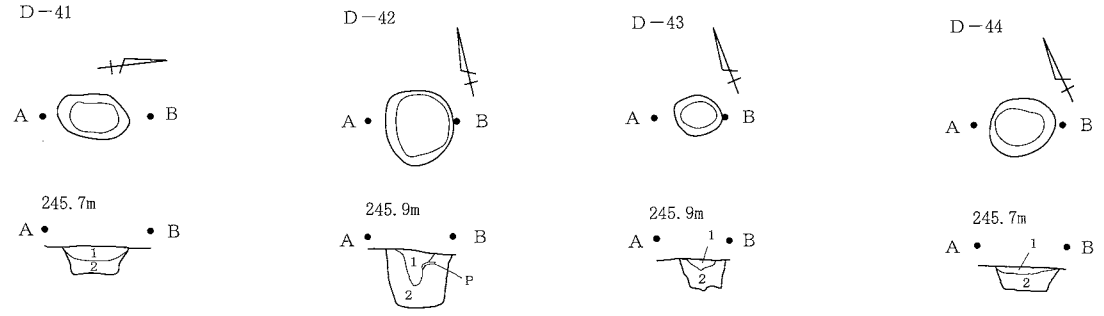


遺構名	層番	層名	色調	しまり		粘性				混入物		
				R	P	R	P	R	B	Y	P	焼土
H-11	1	黒色土層10VR	1<2	○	○						※	
	2	黒褐色土層10VR	1<3	○	◎						※	
	3	黒褐色土層10VR	3<4	○	◎						※	
	4	暗褐色土層10VR		◎	◎						※	
	5	暗赤褐色土層5VR	1<5	○	◎						※	△
	6	暗褐色土層10VR	5>6	△	◎						※	※
	7	黒褐色土層10VR	1<7	◎	◎						※	
	8	暗褐色土層10VR	7<8	◎	◎						※	
	9	黒褐色土層10VR	8>9	△	◎							
炉	1	にぶい黄褐色土層10VR		△	△		○					○
	2	暗褐色土層10VR		△	◎		○					※
	3	黒褐色土層10VR		◎	◎		◎					※
竈	1	暗褐色土層10VR	1>2	△	◎		△		△			△
	2	黒褐色土層10VR	2<3	○	◎							※
	3	黒褐色土層10VR	3<4	△	◎							※
	4	暗褐色土層10VR		△	◎							※
	5	赤褐色土層5VR	5>6	◎	◎							※
	6	暗褐色土層10VR	6<7	◎	◎							※
D-1	1	黒褐色土層10VR	1<2	○	◎							※
	2	暗褐色土層10VR		◎	◎				△			※
D-2	1	黒色土層10VR	1<2	◎	◎					△		△
	2	黄褐色土層10VR	2>3	◎	◎					△		※
	3	オリーブ褐色土層2.5V		◎	◎					◎		※

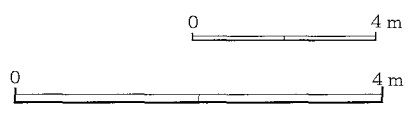
土師器・須恵器 土器分布



北調査区の土坑



遺構名	層番	層名	色調	しまり		粘性				混入物		備考
				R	P	R	P	R	B	Y	P	
D-41	1	黒褐色土層10VR		○	○							※
	2	暗褐色土層10VR	1<2	◎	◎		△					※
D-42	1	黒褐色土層10VR		◎	◎							※
	2	暗褐色土層10VR	1<2	○	◎		○		△			△
D-43	1	黒褐色土層10VR		○	◎							※
	2	暗褐色土層10VR	1<2	◎	◎							※
D-44	1	黒褐色土層10VR		○	◎							※
	2	暗褐色土層10VR	1<2	◎	◎				△			△



第42図 H-11号住居址・北調査区の土坑実測図

## b. 遺物

### 土器

北調査区で出土した平安時代の土器の分類も南調査区で行った分類に従う。

#### T-8号竪穴状遺構出土の土器（第44図1～3）

須恵器坏・坏E・碗を図化した。第44図1は須恵器の底部破片で、底部は回転糸切り後未調整である。2は須恵器坏Eである。3は須恵器高台付碗の底部破片である。

#### H-10号住居址出土の土器（第44図4～13・第45図1～4）

須恵器坏A、坏E、碗B、皿B、コップ形土器、甌、土師器甕Bを図化した。第44図4は須恵器坏Aで、底部は回転糸切り後未調整である。5は須恵器坏Fで、底部は回転糸切り後未調整である。6は須恵器坏Hで、底部は回転糸切り後未調整である。7は須恵器坏Hで、底部は回転糸切り後未調整である。8は須恵器坏Eで、底部は回転篋切りである。底部外面に「真」という墨書がある。9は須恵器高台付碗の底部で、回転糸切りの後に高台を接合している。底部内外面に「奉」という墨書がある。10は須恵器碗Bで、底部は回転糸切りの後に高台を接合している。11は須恵器碗Bで、底部は回転篋切りの後に高台を接合している。12は須恵器皿Bで、底部は回転糸切り後に高台を接合している。13は須恵器コップ形土器で、底部は篋切りである。体部には轆轤調整を施す。第45図1～3は土師器甕Bである。4は須恵器の甌で、表面を轆轤整形している。底部を折り返している。

#### H-11号住居址出土の土器（第45図5～12）

須恵器坏E、坏H、甌、土師器甕Bを図化した。第45図5は須恵器坏Eで、底部は回転糸切り後未調整である。底部外面に「十」という墨書がある。6は須恵器坏Eである。7は須恵器坏Hで、底部は回転糸切り後未調整である。8は須恵器坏Gで、底部は回転篋切りである。9は須恵器碗Aで、底部は回転篋切りの後に高台を付している。10は須恵器碗Cで、底部は回転篋切りである。11は土師器甕Bである。12は須恵器の甌で、内外面を轆轤調整している。第45図4と同一個体の可能性がある。

#### D-42号土坑出土の土器（第46図1）

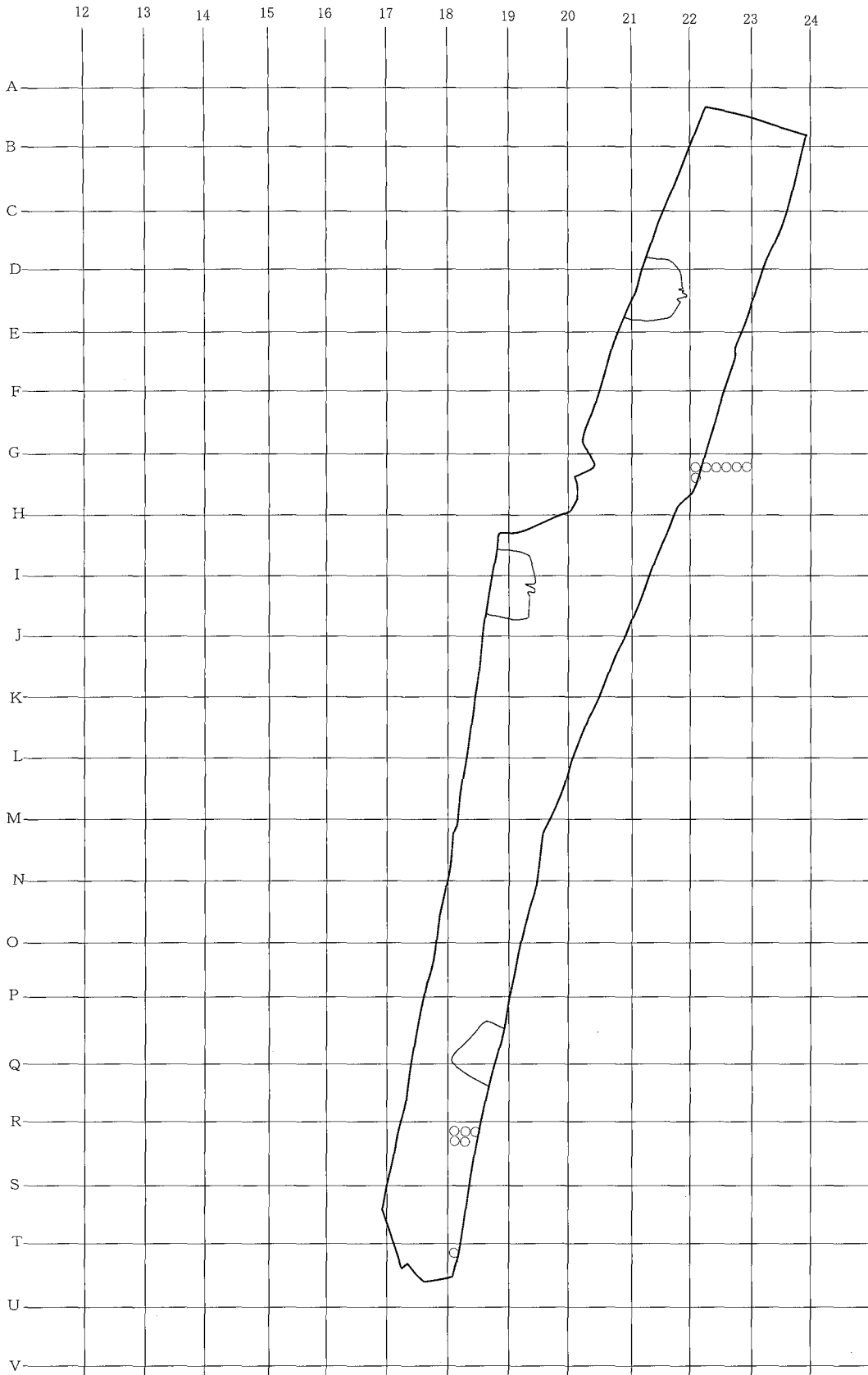
第46図1は須恵器坏Eで、底部は回転糸切り後未調整である。底部外面に「汗」？という墨書がある。

#### グリッド出土の土器（第46図2～4）

グリッド出土の遺物を3点図化した。

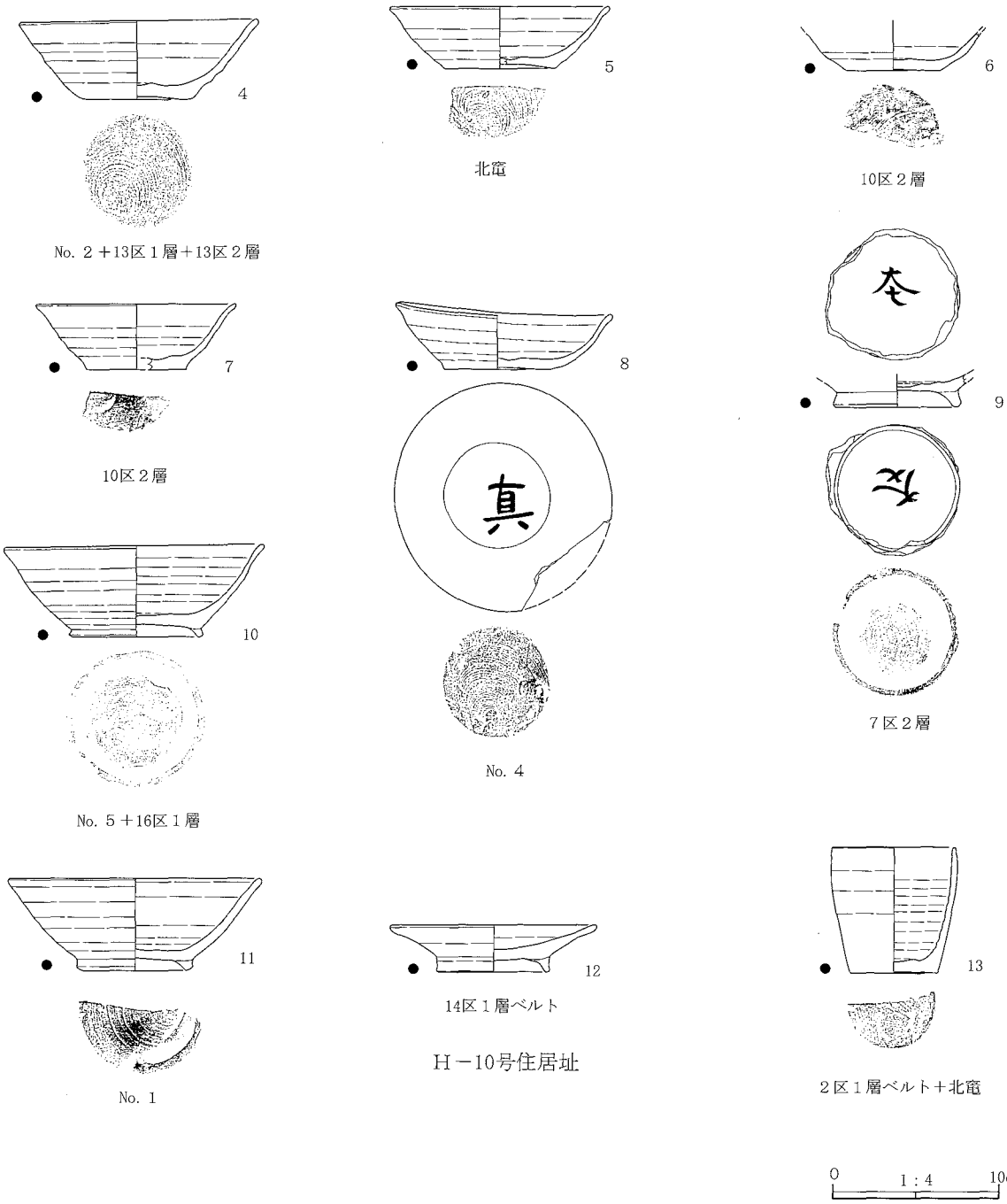
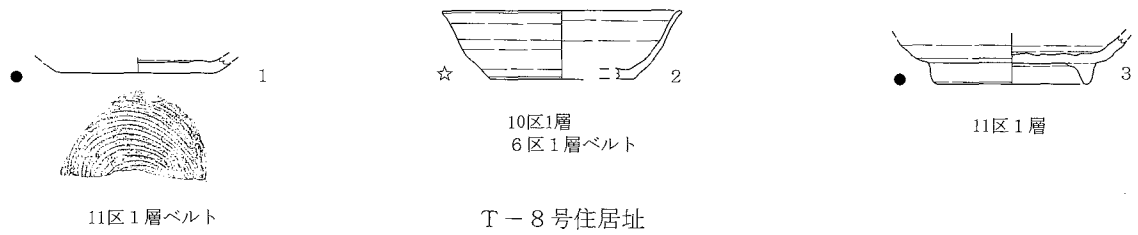
第46図2は須恵器碗Dで、底部は回転篋切り後に高台を付している。第46図3は土師器甕Dである。第46図4は須恵器の甌である。表面を轆轤整形し、底部間際に1条の沈線を施す。底部は折り返している。

土師器・須恵器分布図

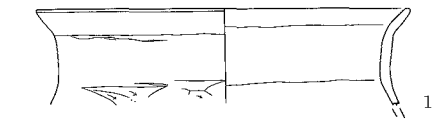


第43図 北調査区土師器・須恵器分布図

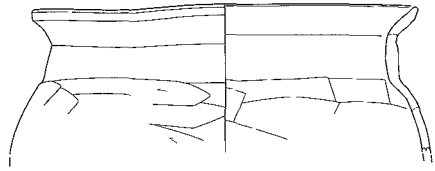




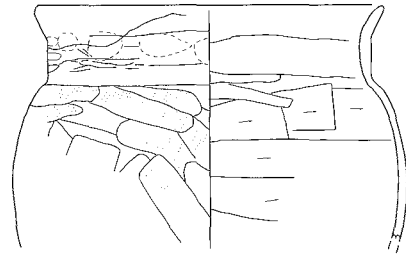
第44図 T-8号住居址・H-10号住居址出土土器実測図



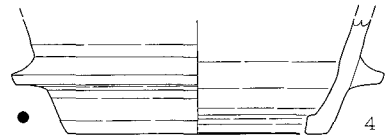
竈3 (No. 6+No. 7)



2区1層ベルト+10区1層ベルト+北竈

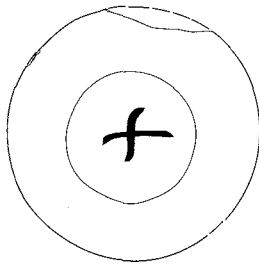
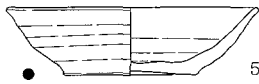


東竈

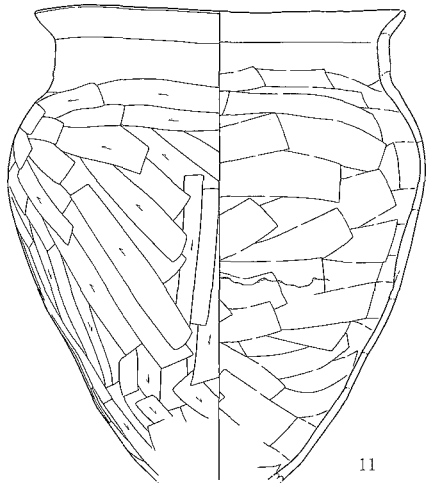


10区2層ベルト+13区2層

H-10号住居址



D-1



D-2+竈他



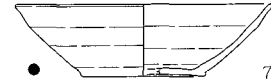
D-1



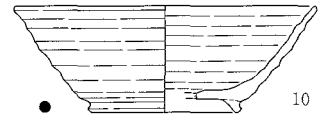
炉



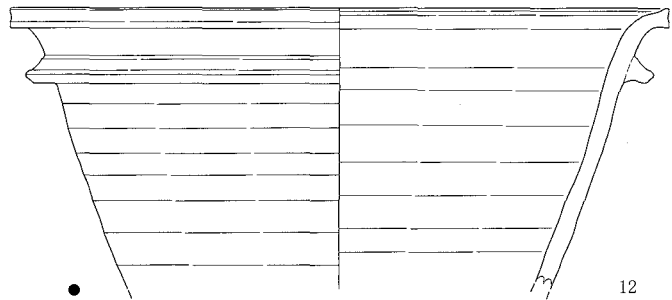
D-1



D-1

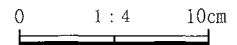


8区1層



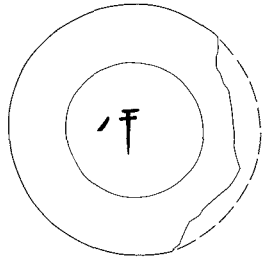
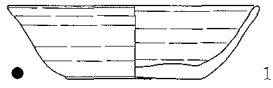
炉+竈No. 15+D-1 No. 4

H-11号住居址



第45図 H-10号住居址・H-11号住居址出土土器実測図

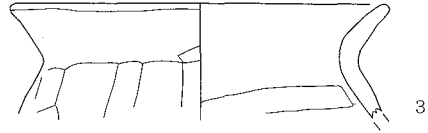




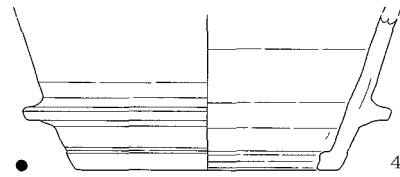
D-42号土坑



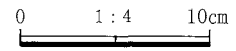
1V-3b



南調査区南東端部表採



G-22



第46図 北調査区土坑及び遺構外出土遺物実測図

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
第44図	1	T-8	11区ベルト 1層	須恵器 坏	口径 - 底径 (8.0) 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④体部下位～底部残 存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	2	T-8	10区1層+ 6区1層 ベルト	須恵器 坏	口径 (12.6) 底径 (7.6) 器高 3.5	①還元 ②灰色 ③白色粒子 ④1/4	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	3	T-8	11区1層	須恵器 高台付碗	口径 - 底径 (8.0) 器高 -	①還元 ②黄灰色 ③白色 粒・褐色粒 ④体部下位～高 台部1/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀前半
	4	H-10	No.2+13区 1層+13区 2層	須恵器 坏	口径 14.1 底径 6.1 器高 4.8	①還元 ②灰黄色 ③黒色粒 ④2/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	5	H-10	北竈	須恵器 坏	口径 (12.6) 底径 (7.6) 器高 3.5	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④1/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	6	H-10	10区2層	須恵器 坏	口径 - 底径 5.5 器高 -	①還元 ②黄灰～灰色 ③白 色粒・褐色粒 ④体部中位～ 底部1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	7	H-10	10区2層	須恵器 坏	口径 (11.8) 底径 (6.0) 器高 3.9	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④1/4	外面 轆轤整形、底部回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	8	H-10	No.4	須恵器 坏	口径 12.8 底径 6.4 器高 4.0	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒・礫 ④7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り、底部 に墨書「真」。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	9	H-10	7区2層	須恵器 高台付碗	口径 - 底径 7.1 器高 -	①還元 ②灰黄褐色 ③白色 粒・石英 ④体部下位～高台 部残存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。内外面底部に墨書。	9世紀後半
	10	H-10	No.5+16区 1層	須恵器 高台付碗	口径 15.3 底径 7.5 器高 5.5	①還元 ②灰黄～灰色 ③白 色粒・黒色粒 ④2/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	11	H-10	No.1	須恵器 高台付碗	口径 (15.0) 底径 (6.1) 器高 5.5	①還元 ②黄灰色 ③白色 粒・黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	12	H-10	14区1層 ベルト	須恵器 高台付皿	口径 (12.2) 底径 (6.3) 器高 2.8	①還元 ②灰黄色 ③白色 粒・黒色粒 ④1/4	外面 轆轤整形、底部回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	13	H-10	2区1層 ベルト+ 北竈	須恵器 コップ形	口径 (7.5) 底径 5.2 器高 7.5	①還元 ②黄灰色 ③白色 粒・黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
第45図	1	H-10	竈3 (No.6 +No.7)	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 器高 5.0	①良好 ②明赤褐色 ③細砂 粒含む ④口縁部～胴部上位 1/3	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で	9世紀後半
	2	H-10	東竈	土師器 甕	口径 (18.6) 底径 - 器高 12.5	①良好 ②明赤褐色 ③細砂 粒多量に含む ④口縁部～胴 部中位	外面 口縁部横撫で指押さえ、胴部篋削り。 内面 口縁部横撫で。	9世紀後半
	3	H-10	2区1層 ベルト+ 北竈	土師器 甕	口径 20.2 底径 - 器高 -	①普通 ②鈍い赤褐色 ③白 色粒・雲母 ④口縁部～胴部 上位4/5	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀後半
	4	H-10	10区2層 ベルト+ 13区2層	須恵器 甕	口径 - 底径 (13.8) 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④胴部下位～底部 1/4	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	5	H-11	D-1 No.1 +D-1 No. 2	須恵器 坏	口径 13.1 底径 6.9 器高 3.6	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④ほぼ完形	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。底部外面に墨書「十」。	9世紀後半
	6	H-11	No.6+D- 1	須恵器 坏	口径 (13.0) 底径 (6.5) 器高 3.5	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半

第14表 北調査区土師器・須恵器観察表(1)

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器種	法量 (cm)	①還元 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
	7	H-11	D-1 + D-1 No.3	須恵器 坏	口径 (13.4) 底径 (6.6) 器高 3.8	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	8	H-11	炉	須恵器 坏	口径 (13.6) 底径 (7.8) 器高 3.1	①酸化 ②灰色 ③白色粒子 ④1/5	外面 轆轤整形。底部回転糸切り、篋削り。 上げ底。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	9	H-11	D-1	須恵器 高台付碗	口径 - 底径 7.3 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④体部下位～高台部 残存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	10	H-11	8区1層	須恵器 高台付碗	口径 (15.8) 底径 (7.6) 器高 5.6	①還元 ②灰白色 ③白色 粒・黒色粒 ④1/5	外面 轆轤整形、底部回転糸切り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	11	H-11	D-2 + D-2 No.10 + D-2 No.9 +竈他	土師器 甕	口径 19.4 底径 - 器高 -	①普通 ②橙～鈍い赤褐色 ③白色粒・雲母 ④口縁部～ 胴部下位1/2	外面 口縁部横撫で、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で、胴部篋撫で。	9世紀後半
	12	H-11	炉+竈No.15 +D-1 No. 4	須恵器 甕	口径 (34.7) 底径 - 器高 -	①還元 ②黄灰色 ③黒色粒 ④口縁部～胴部中位1/7	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀後半
第46図	1	D-42		須恵器 坏	口径 13.1 底径 7.2 器高 3.9	①還元 ②灰白～灰色 ③白 色粒 ④口縁部1/3欠損	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り、底部 に墨書、判読不可。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	2	IV-3b		須恵器 高台付碗	口径 (14.0) 底径 (10.0) 器高 4.0	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④1/2	外面 轆轤整形、底部右回転篋切り後右回 転篋削り。内面 轆轤整形。	9世紀後半
	3	南調査区 南東端部 表採		土師器 甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 6.1	①良好 ②橙色 ③砂粒・細 砂粒含む ④口縁部～胴部上 位1/3	外面 口縁部轆轤整形、胴部篋削り。内面 口縁部横撫で	9世紀後半
	4	G-22		須恵器 甕	口径 - 底径 (13.8) 器高 -	①還元 ②灰色 ③白色粒・ 黒色粒 ④胴部中位～底部破 片	外面 轆轤整形。内面 轆轤整形。	9世紀後半

第15表 北調査区土師器・須恵器観察表(2)

## (2) 中近世の遺構

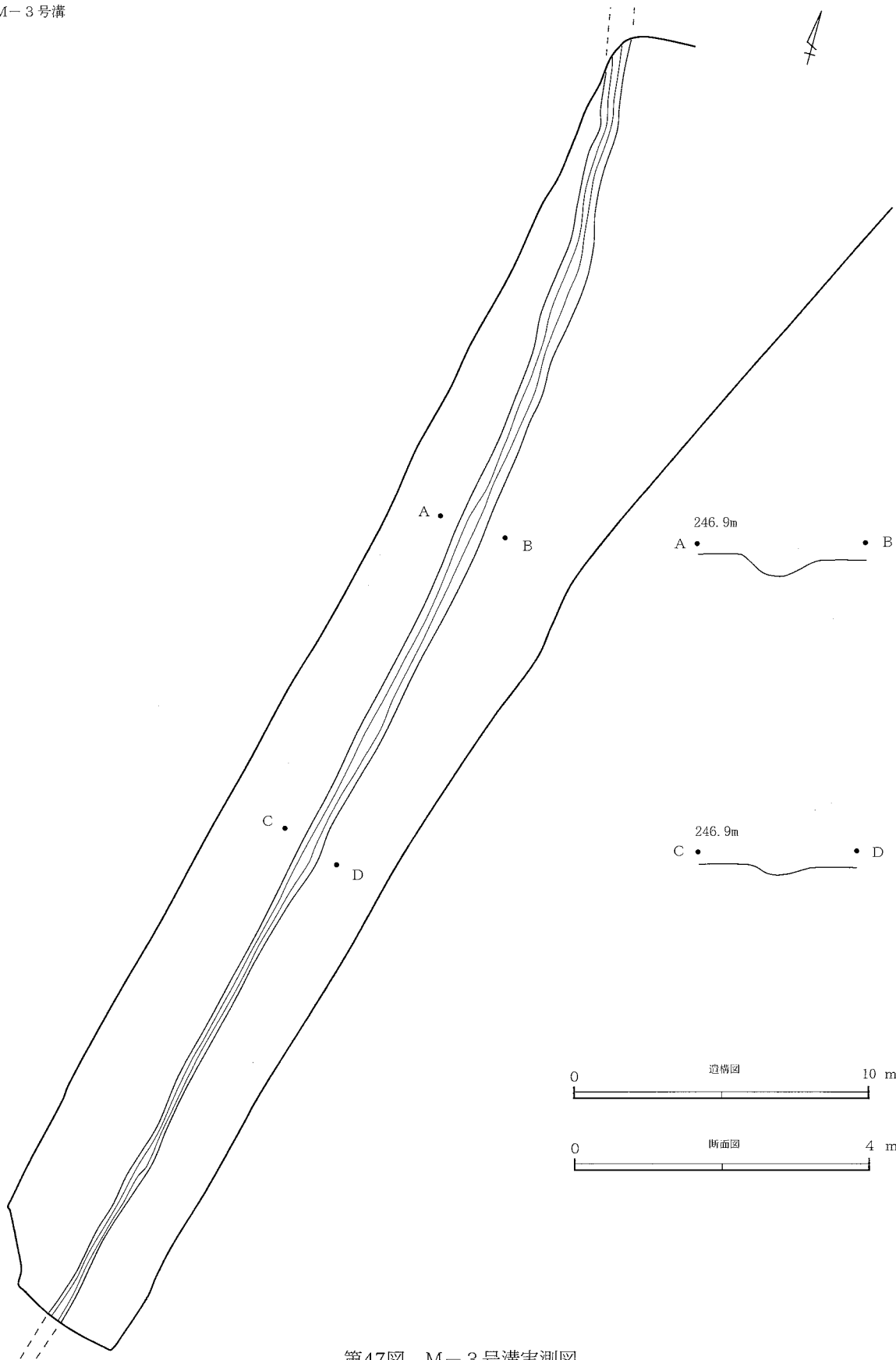
### 溝

#### M-3号溝(第47図)

北調査区の奈良・平安時代の遺構確認面よりも50cmほど上位で検出した。北調査区を南北方向に縦走しており(47.3m)、さらに南と北に続いていると推定される。溝の底面は北よりも南の方が高くなっている。溝は浅間B軽石で埋まっていた。用途は排水路だと考えられ、水は南から北へ排水されていたと考えられる。溝から遺物は出土しなかった。

(深町 真)

M-3号沟



第47图 M-3号沟实测图

## V 成果と問題点

### 1 縄文時代の配石遺構について

配石遺構とは、「石を集めてつくった縄文時代の遺構のうち、敷石住居や炉などを除く、墓や祭祀遺構あるいは用途不明のものの総称。そのうち、比較的整然と石を配したものや用途の推定できるものには、環状列石・環礫方形配石遺構・配石墓・組石石棺墓などの呼称がある。」(田中 琢・佐原 真 2003, p 707) というものである。

今回、堀端遺跡で検出されたS-1号配石遺構は、周辺から出土した土器から縄文時代後期前葉の所産であると考えられる(第48図)。その形状は、いくつかの石組がユニットとして形成されているものである。使用している石は安山岩で比熱はなく、角が取れているので、碓氷川の石と考えられる。これらの石は調査区の範囲内において全体としてL字状に配列されている。このL字の縦棒の東側にP-8のほか四つのピット及びD-38号土坑・D-39号土坑が半円形にならんでいる。配石のある場所が整地された様子はなかった。

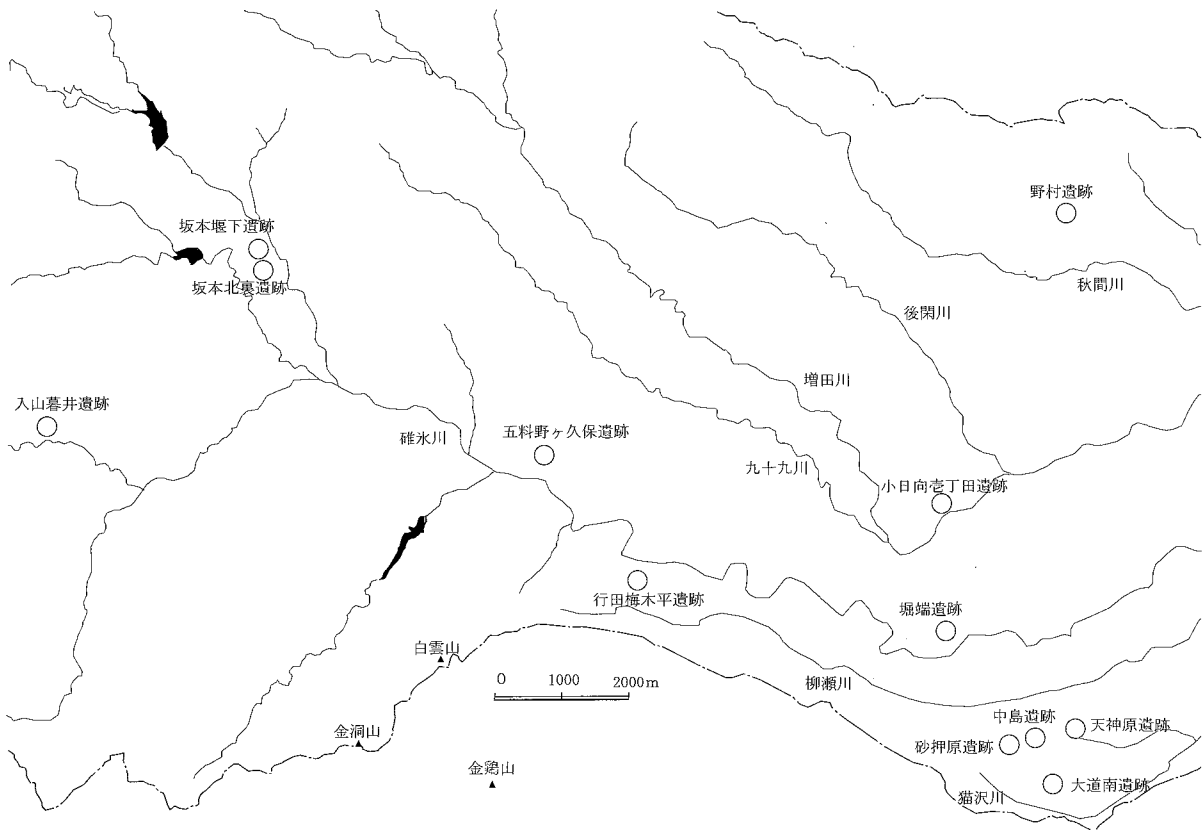
さて、安中市内の配石遺構としては、野村遺跡の環状列石(中期後葉)、坂本北裏遺跡の環状列石(中期後葉)、中野谷砂押原遺跡の列石(中期後葉)、小日向壺丁田遺跡の列石(中期末葉)、入山暮井遺跡の環状列石(中期末葉)、中野谷大道南遺跡の列石(中期末葉～後期後葉)、坂本堰下遺跡の弧状列石(後期前葉)、中野谷中島遺跡の配石遺構(後期前葉)、五料野ヶ久保遺跡の配石遺構(後期前葉～中葉)、行田梅木平遺跡の弧状列石(後期前葉～中葉)、中野谷天神原遺跡の環状列石(晩期前葉)がある(第50図)。第16表のように、安中市では中期後葉～晩期前葉にかけて配石遺構が造られた。このうち、野村遺跡の環状列石からは冬至の日に妙義山に沈む太陽が見え、中野谷天神原遺跡の環状列石からは春分の日・秋分の日に妙義山の金洞山に沈む太陽と冬至の日に大桁山に沈む太陽が観測できる。今回調査した堀端遺跡S-1号配石遺構からは春分の日と秋分の日に妙義山の白雲山に沈む太陽が観測できる。

番号	名称	時期	立地	規模	二至二分
1	野村遺跡の環状列石	中期後葉	秋間丘陵の中腹	環状列石と列状列石	冬至
2	坂本北裏遺跡の環状列石	中期後葉	坂本台地	直径10m	
3	中野谷砂押原遺跡の列石	中期後葉	碓氷川上位段丘	延長30m	
4	小日向壺丁田遺跡の列石	中期末葉	九十九川中位段丘		
5	入山暮井遺跡の環状列石	中期末葉		半径5m	
6	中野谷大道南遺跡の列石	中期末葉～後期後葉	碓氷川上位段丘	南北10m、東西15m	
7	坂本堰下遺跡の弧状列石	後期前葉	坂本台地	東西15m、南北6m	
8	中野谷中島遺跡の配石遺構	後期前葉	碓氷川上位段丘	延長18m	
9	五料野ヶ久保遺跡の配石遺構	後期前葉～中葉	松井田丘陵の裾野	南北15m、東西35m	
10	行田梅木平遺跡の弧状列石	後期前葉～中葉	西横野丘陵	3群の配石遺構	
11	中野谷天神原遺跡の環状列石	晩期前葉	碓氷川上位段丘	直径10m	春分・冬至

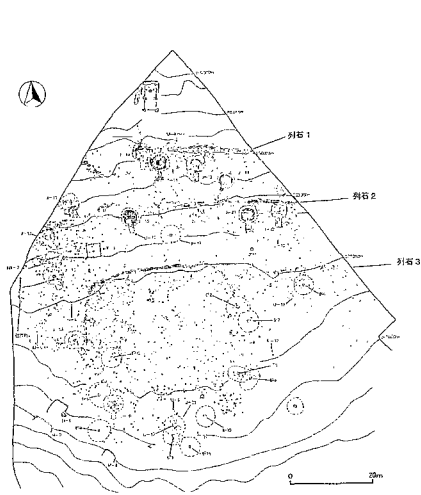
第16表 安中市内の配石遺構



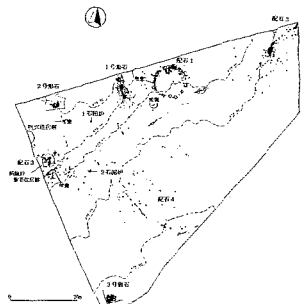
第48図 堀端遺跡 S-1 号配石遺構



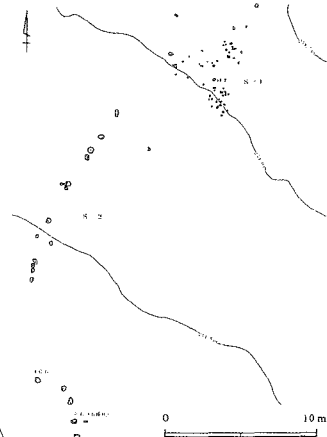
第49図 安中市内の配石遺構位置図



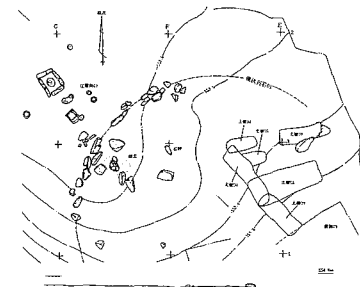
野村遺跡



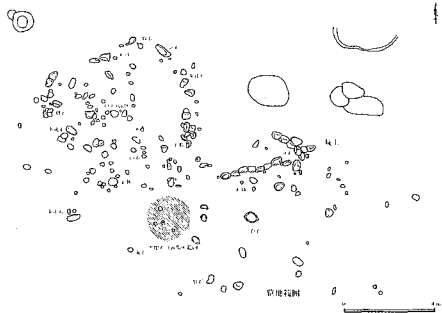
坂本北裏遺跡



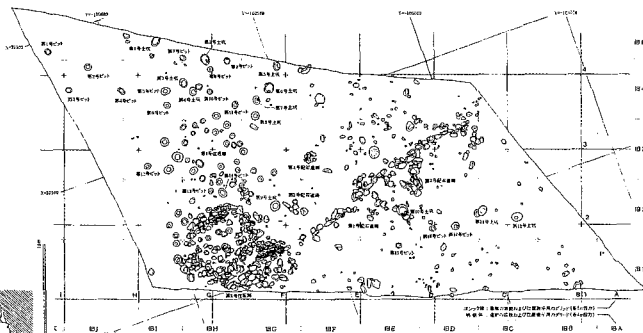
中野谷砂押原遺跡



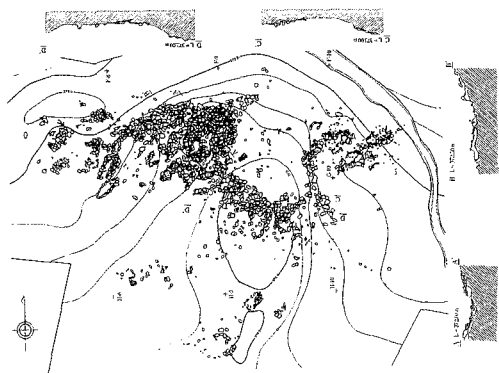
入山暮井遺跡



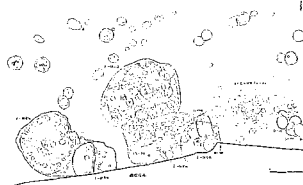
中野谷大道南遺跡



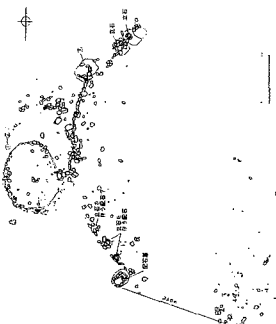
坂本堰下遺跡



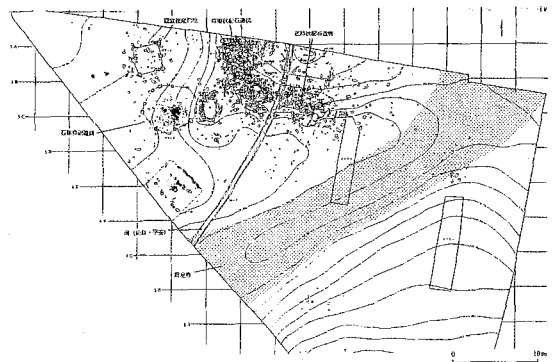
五料野ヶ久保遺跡



中野谷中島遺跡



行田梅木平遺跡 2号配石



中野谷天神原遺跡の環状列石

第50図 安中市内の配石遺構

## 2 奈良・平安時代の土器及び堀端遺跡の変遷について

南調査区及び北調査区から出土した奈良・平安時代の土器は、土師器は坏・甕があり、須恵器は坏・碗・高台付碗・高台坏皿・高台付盤・甑・甕・壺などがある。南調査区及び北調査区から出土した奈良・平安時代の土器を時期毎に並べてみると、第51図～第54図のようになる。この編年に基づいて遺構の所属時期別に分類したのが第55図である。

## 3 墨書土器及び刻書土器について

堀端遺跡からは墨書土器が10点、刻書土器が2点出土した（第56図）。

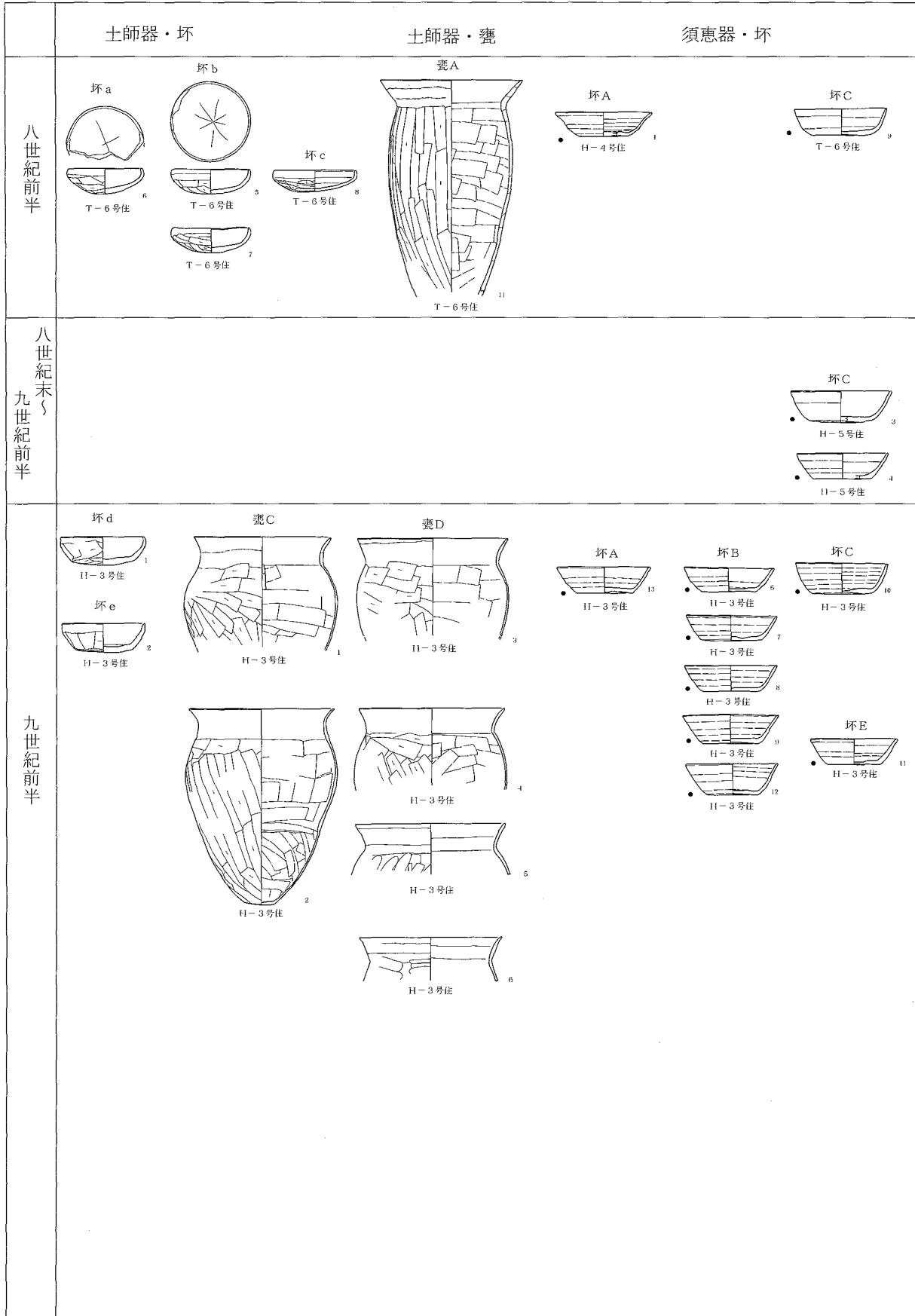
墨書土器を遺構別に見ると、H-6号住居址からは須恵器の底部の内外両面に「石」と墨書したものが6点、H-10号住居址からは「奉」を底部の内外両面に墨書したものの1点と底部外面に「真」と墨書したものの1点、H-11号住居址からは底部の外面に「十」を墨書したものの1点、D-42号土坑からは底部外面に「汗」？と墨書したものの1点である。すなわち、堀端遺跡で出土した土器に墨書されている文字は「石」と「奉」、「真」、「十」、「汗」？の5種類である。いずれも須恵器で、8点は坏、2点は高台付碗である。墨書がある部位は、底部の内外面が7点、底部外面が3点である。時期は9世紀後半段階である。一方、刻書土器はHT-6号住居址から2点出土した。2点とも土師器の坏で、刻書は底部の内面にあり、時期は9世紀前半である。

番号	遺構名	出土位置	種類	器種	種別	重量(g)	部位	文字	時期
1	H-6	2区1層・7区1層	須恵器	坏	墨書	140	底部内外面	石/石	9世紀後半
2	H-6	9区1層・10区1層	須恵器	坏	墨書	70	底部内外面	石/石	9世紀後半
3	H-6	12区床直・12区1層ベルト・16区1層・11区1層	須恵器	坏	墨書	120	底部内外面	石/石	9世紀後半
4	H-6	13区1層	須恵器	坏	墨書	107	底部内外面	石/石	9世紀後半
5	H-6	12区1層ベルト・11区1層	須恵器	坏	墨書	35	底部内外面	石/石	9世紀後半
6	H-6	6区1層・9区1層・7区床直	須恵器	高台付碗	墨書	150	底部内外面	石/石	9世紀後半
7	H-10	土器4	須恵器	坏	墨書	149	底部外面	真	9世紀後半
8	H-10	7区2層	須恵器	高台付碗	墨書	82	底部内外面	奉/奉	9世紀後半
9	H-11	D-1土器1・土器2	須恵器	坏	墨書	174	底部外面	十	9世紀後半
10	D-42		須恵器	坏	墨書	141	底部外面	汗?	9世紀後半
11	HT-6	16区2層	土師器	坏	刻書	109	底部内面		9世紀前半
12	HT-6	14区2層	土師器	坏	刻書	78	底部内面	×	9世紀前半

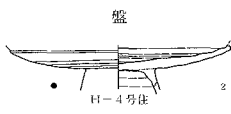

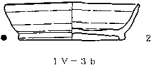

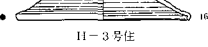
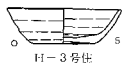
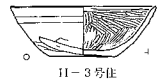
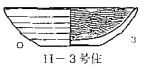
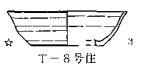
第17表 堀端遺跡出土墨書土器・刻書土器一覧表

墨書土器については、平川 南によれば、「これまで一般的に行われてきた墨書内容の分類としては、主なものとして、①官司・官職名、②人名、③地名、④吉祥句、⑤土器の器種、⑥方角、⑦数字、⑧習書などがある」（平川 南 2000、p73）り、「墨書土器は、官衙においては、多くの場合、他の土器との識別を目的としてその帰属を示すものとされている。集落においても、こうした官衙の墨書土器の性格の模倣であるといえる。一中略一集落全体または各住居単位内での祭祀や儀礼に際して、土器に墨書することも十分に考えられる。」としている（同、p74）。これに基づいて考えてみると、H-6号住居址出土の須恵器の底部の内外両面に「石」という墨書のある6点は人名か地名と思われる。人名ならば、古代の磯部地方に関連する「石上部」





第51図 堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(1)

	須恵器・埴	須恵器・その他	内面黒色土器・自然釉
八世紀前半		<p>盤</p>  <p>H-4号埴</p>	
八世紀末 九世紀前半			
九世紀前半	<p>埴D</p>  <p>H-3号埴</p>  <p>1V-3b</p>	<p>蓋</p>  <p>H-3号埴</p>  <p>H-3号埴</p> <p>(酸化焼成須恵器)</p> <p>埴B</p>  <p>H-3号埴</p>	<p>内面黒色土器</p> <p>埴B</p>  <p>H-3号埴</p> <p>埴D</p>  <p>H-3号埴</p> <p>自然釉</p> <p>埴E</p>  <p>T-8号埴</p>

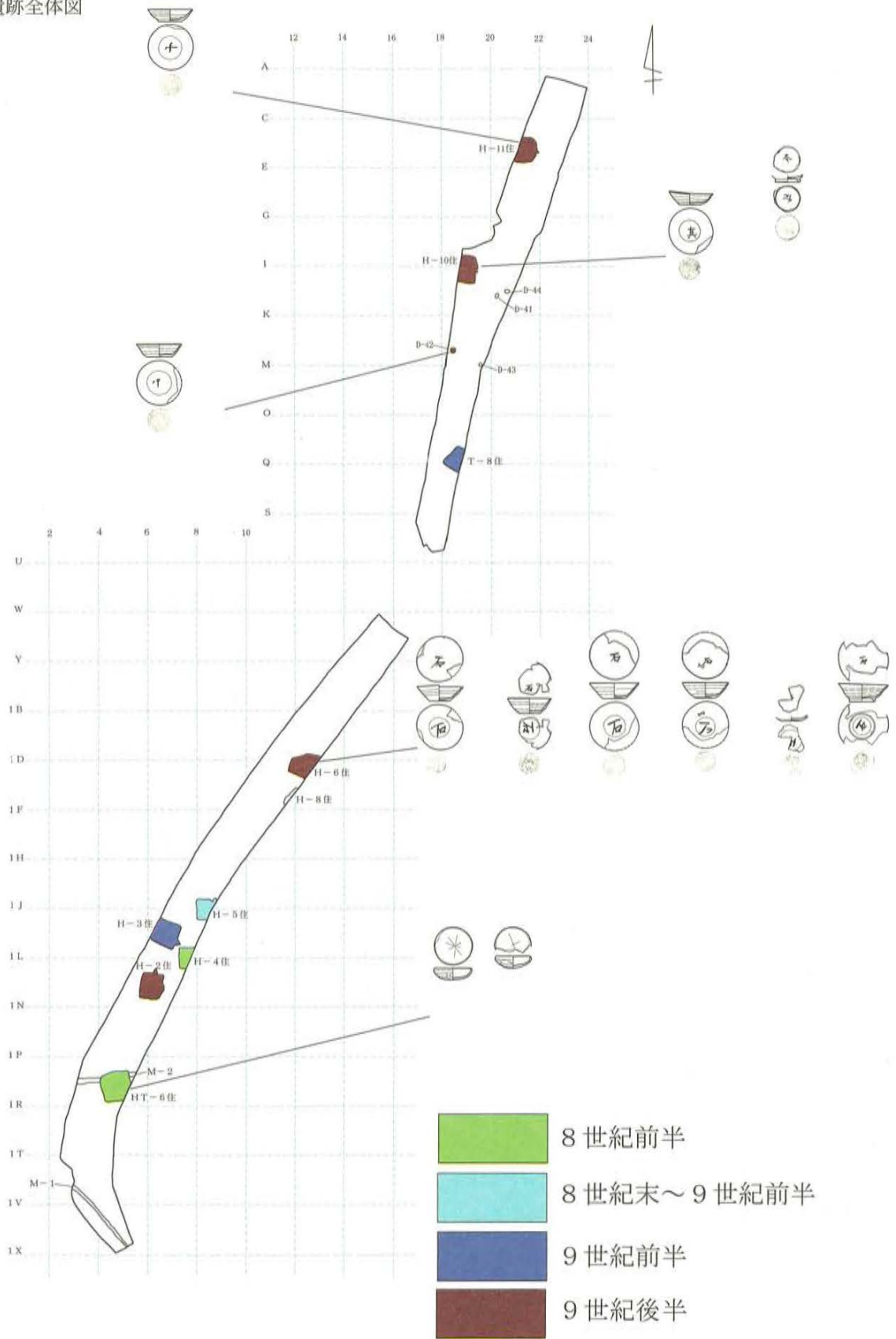
第52図 堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(2)



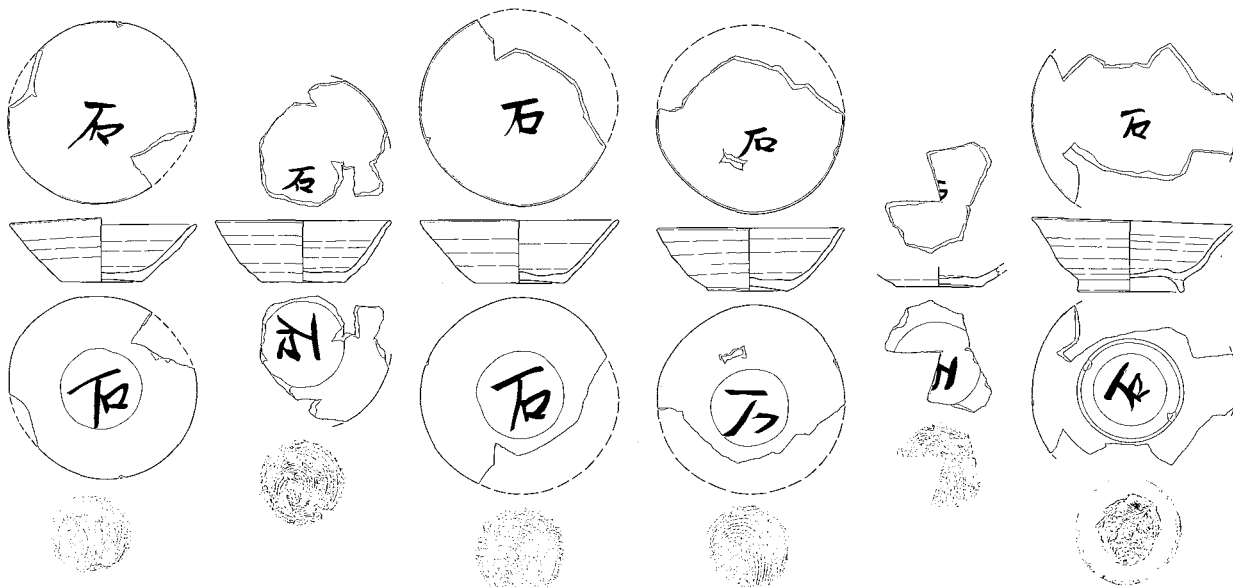
	須恵器・埴・皿		須恵器・その他
九世紀後半	<p>埴A ● H-11号住 9</p> <p>埴B ● H-10号住 10</p> <p>埴C ● H-11号住 10</p> <p>皿B ● H-10号住 12</p>	<p>(酸化焙焼成須恵器)</p> <p>埴A ○ H-6号住 1</p> <p>埴A ● H-6号住 6</p> <p>皿A ○ H-6号住 4</p> <p>甕E ○ H-6号住 6</p> <p>○ H-6号住 7</p>	<p>● H-10号住 13</p> <p>甕 ● H-11号住 12</p> <p>● H-10号住 4</p> <p>● 表採 4</p>

第54図 堀端遺跡奈良・平安時代の土器編年図(4)

堀端遺跡全体図

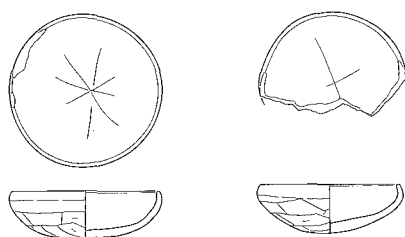
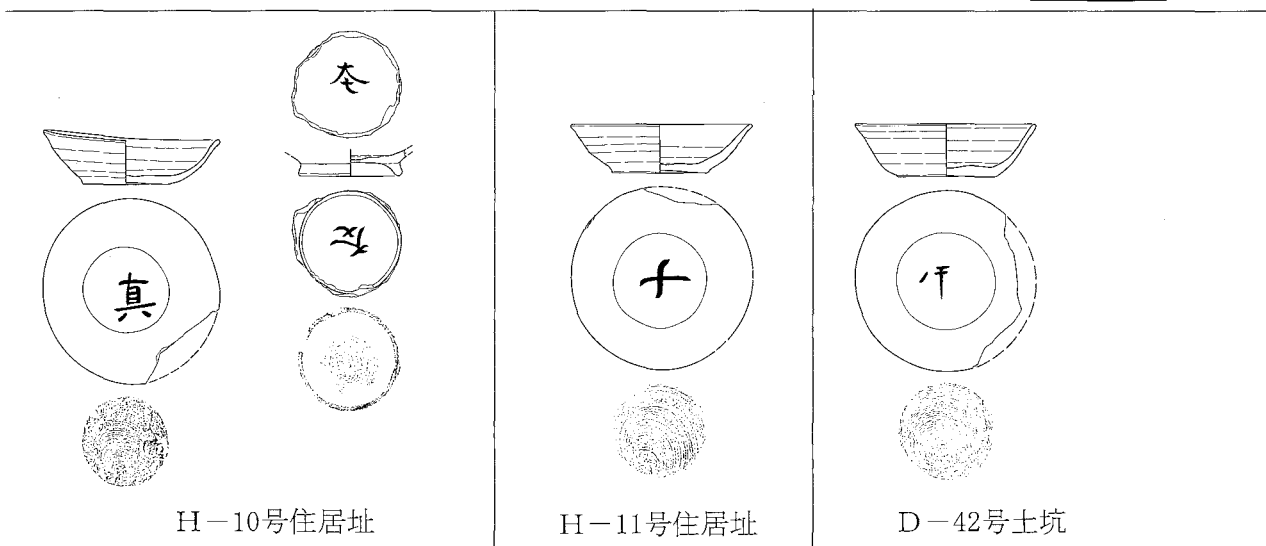


第55図 堀端遺跡奈良・平安時代の変遷



H-6号住居址

0 1:4 10cm



HT-6号住居址

第56图 堀端遺跡出土墨書土器・刻書土器

という氏族との関連が考えられる。地名ならば碓氷郡の「碓」の字の偏あるいは郷名（「石馬郷」）との関連の方が考えられる。H-10号住居址出土の「奉」を底部の内外両面に墨書した高台付碗は祭祀関係、H-10号住居址出土の底部外面に「真」と墨書した坏は人名と考えられる。H-11号住居址出土の底部の外面に「十」を墨書した坏は数字と考えることができる。

文字	遺跡名	遺構名	種類	器種	墨書部位	備考
奉	蔵畑Ⅱ遺跡	H-3号住居址	礫	墨書扁平礫	表裏両面	
	松井田工業団地遺跡	B-35号住居跡	須恵器	碗	体部外面	
	五料山岸遺跡	B区溝状遺構	土師器	坏	底部外面	
十	人見中の條遺跡	2号住居	須恵器	坏	底部外面	
	愛宕山遺跡	遺構外遺物	須恵器	坏	底部外面	
	五料稲荷谷戸遺跡	17号住居跡	須恵器	坏	底部外面	
石井	五料丙小竹遺跡	4号住居跡	須恵器	碗	体部外面	
真	松井田工業団地遺跡	B区遺構外遺物	須恵器	坏	体部外面	凡の中に真

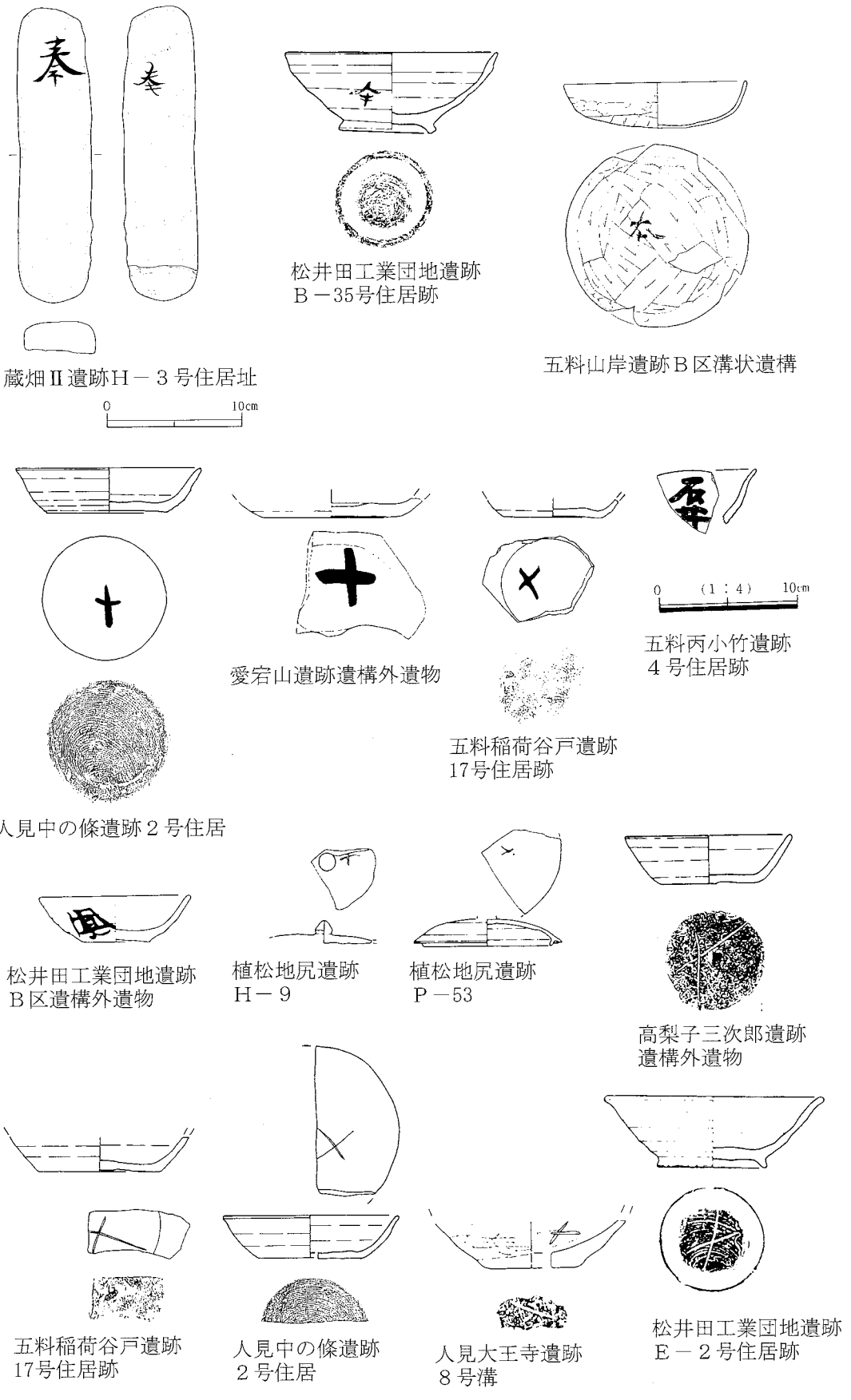
第18-1表 安中市内の関連墨書土器一覧表

文字	遺跡名	遺構名	種類	器種	刻書部位	備考
×	植松地尻遺跡	P-53	須恵器	擬宝珠蓋	内面	
	植松地尻遺跡	H-9	須恵器	擬宝珠蓋	内面	
	高梨子三次郎遺跡	遺構外遺物	須恵器	坏	底部外面	
	五料稲荷谷戸遺跡	17号住居跡	須恵器	坏	底部外面	
	人見中の條遺跡	2号住居	須恵器	坏	底部内面	
	人見中の條遺跡	遺構外遺物	須恵器	坏	底部外面	
	人見中の條遺跡	遺構外遺物	須恵器	高台付碗	底部外面	
	人見大王寺遺跡	8号溝	土師器	甕	内面	
	松井田工業団地遺跡	E-2号住居跡	須恵器	高台付碗	底部外面	
	松井田工業団地遺跡	E-62号住居跡	須恵器	羽釜	底部外面	

第18-2表 安中市内の関連刻書土器一覧表



第57図 関連する墨書土器・刻書土器が出土した市内の遺跡



第58図 市内の遺跡から出土した関連する墨書土器・刻書土器



遺構名	平面形態	位置	規模 (m)			主軸方向	遺物			主柱穴
			南北	東西	深さ		縄文	石器	台石	
T-2	楕円形か	W-15d~X-16a			0.36	N-124° -E	◎	△		
T-3	円形か	X-15c~Y-15b	4.00		0.20	N-37° -E	◎	△	○	○
T-4	長方形	Y-13b~Y14d	2.32	2.40	0.20	N-120° -E	○			
T-5	正方形か	1C-13a~1C-13d	2.80		0.20	N-136° -E	△			
J T-9	正方形か	1E-11c~1F-11a	2.60		0.12	N-118° -E	△			
T-7	正方形か	Y-15c~1B-14a	7.44		0.46	N-38° -E	△			
J T-7	長方形	1C-11b~1D-11b	4.20	5.40	0.20	N-101.5° -E	△			

第19表 遺構観察表 (1)

住居名	平面形態	位置	規模 (m)			主軸方向	土坑		貼床	主柱穴	竈	
			南北	東西	深さ		貯蔵	床下			位置	構造
H-4	正方形か	1K-7c~1L-7b	3.40		0.28	N-88° -E			○			
H-5	長方形か	1I-7d~1J-8d	3.40		0.24	N-11.5° -E			○		北壁	口-ム+黒色土
H-8	正方形か	1E-11b~1E-11d	3.40		0.20	N-15° -E						
H T-6	正方形	1P-4c~1Q-5b	4.84	4.80	0.28	N-77.5° -E				4本	東壁	口-ム+黒色土+袖芯河床礫
H-6	長方形	1C-11d~1D-12d	4.00		0.16	N-112.5° -E		2基				
H-2	長方形	1L-5d~1M-6d	4.00	3.40	0.40	N-112° -E	2基		○		東壁	口-ム+黒色土
											北壁	口-ム+黒色土
H-3	正方形	1J-6b~1K-7c	4.00	4.00	0.28	N-119° -E			○		東壁	口-ム+黒色土+袖芯河床礫
T-8	正方形か	P-18a~Q-18b	3.80		0.26	N-124° -E						
H-10	正方形か	H-18d~I-19c	4.60		0.40	N-100° -E					東壁	口-ム+黒色土+袖芯河床礫
											中央	口-ム+黒色土
H-11	正方形か	C-21c~D-22d	4.00		0.28	N-100° -E		2基	○		東壁	口-ム+黒色土+袖芯河床礫

第20表 遺構観察表 (2)

遺構名	断面形態	位置	規模 (m)			主軸方向	深さ (m)	礫	時期	備考
			長さ	上幅	下幅					
M-1	逆台形		13.0	0.72		N-140° -E	0.56	○	奈良平安時代	J T-1より新しい。
M-2	碗状		9.4	0.88		N-80° -E	0.44		奈良平安時代	H T-6より新しい。
M-3	皿状		47.3			N-135° -E	0.27		中世~近世	II b層より上位。

第21表 遺構観察表 (3)

	平面形態	位置	規模 (m)			主軸方向	遺物			
			南北	東西	深さ		縄文	石器	土師	須恵
T-1	楕円形	1B-12d~1C-12b	2.40	1.88	0.24	N-20° -E	△		※	
H T-1	正方形か	1V-3a~1W-3b		3.00	0.28	N-143° -E	△	※	※	
J T-1	長方形か	1W-4b~1W-5c			0.44	N-49° -E	※			

第22表 遺構観察表 (4)

※: 1~99g、△: 100~499g、○: 500~999g、◎: 1000g以上

遺構名	平面形態	断面形態	位置 (グリッド)	規模 (m)			主軸方向	出土遺物		時期
				長軸	短軸	深さ		縄文土器	石器	
D-1	隅丸方形	皿状	1V-4d	0.80	0.42	0.16	N-152.5° - E	※		前期前葉
D-2	楕円形	逆三角形	1V-4b	0.52	0.44	0.37	N-138.5° - E			
D-3	楕円形	碗状	1V-4b・4d	0.44	0.40	0.20	N-156° - E			
D-4	楕円形	碗状	1W-4b・4d	0.56	0.52	0.24	N-17.5° - E			
D-5	隅丸方形	皿状	1W-4a・4c	1.84	0.64	0.14	N-132.5° - E	※		前期前葉
D-6	楕円形か	碗状	1T-4c・4d	0.62		0.16	N-5° - E	※		
D-7	楕円形	碗状	1Q-3c・1R-3a	1.24	0.64	0.37	N-146.5° - E	△		後期前葉
D-8	隅丸方形	碗状	1R-3a	0.76	0.64	0.30	N-87.5° - E	※		
D-9	楕円形	碗状	1R-2d	0.72	0.66	0.32	N-167° - E	△	FLB	後期前葉
D-10	楕円形	皿状	1R-2d・1R-3c	0.66	0.64	0.27	N-138° - E	△		
D-11	楕円形	碗状	1Q-3a	0.88	0.68	0.33	N-111° - E	※		
D-12	楕円形	碗状	1Q-3b	0.74	0.52	0.34	N-23.5° - E	△		
D-13	楕円形	碗状	1P-3b・4a	0.62	0.58	0.25	N-79° - E	※		
D-14	楕円形	碗状	1P-4a	0.68	0.52	0.23	N	※		
D-15	楕円形	碗状	1P-3c	0.56	0.48	0.34	N-91° - E	※	石製品 (FT1)	後期前葉
D-16	楕円形	皿状	1Q-3c	0.68	0.64	0.18	N-102° - E	※		
D-17	楕円形	碗状	1P-3c・3d	0.84	0.52	0.34	N-86° - E	※		後期初頭
D-18	楕円形	碗状	1O-4d	0.92	0.60	0.40	N-10.5° - E			
D-19	楕円形	碗状	1O-4b・1O-5a	0.92	0.68	0.44	N-130° - E	※		
D-20	楕円形	コップ状	1N-4d	0.64	0.52	0.43	N-6.5° - E			
D-21	楕円形	碗状	1N-4c・4d	0.60	0.50	0.33	N-168° - E			
D-22	楕円形	碗状	1O-4a・4b	0.54	0.40	0.26	N-149° - E			
D-23	楕円形	碗状	1O-4c・4d	0.48	0.48	0.22	N-95° - E			
D-24	楕円形	碗状	1Q-3d	0.64	0.56	0.39	N-150° - E	△		
D-25	楕円形	碗状	1Q-3c・3d	1.34	0.92	0.40	N-112° - E	※		
D-26	楕円形	碗状	1S-3b・3d	1.04	0.72	0.52	N-166° - E	△		中期後半
D-27	楕円形	碗状	1Q-4c~1R-4b	0.72	0.66	0.28	N-4° - E	※		
D-28	楕円形	皿状	1M-6d	0.94	0.52	0.19	N-11° - E			
D-29	楕円形	皿状	1M-5a・5c	0.60	0.60	0.14	N-131° - E			
D-30	楕円形	皿状	1M-5d・1N-5b	0.70	0.54	0.20	N-32° - E			
D-31	楕円形	碗状	1M-5b・5d	0.78	0.62	0.46	N-16° - E			
D-32	楕円形	碗状	1I-7d	0.56	0.52	0.36	N-102.5° - E			
D-33	楕円形	碗状	1I-8a	0.58	0.52	0.30	N-112° - E			
D-34	楕円形か	皿状	X-14a・14c	1.20		0.45	N-40° - E	○		
D-35	楕円形	皿状	1F-9b・1F-10a	1.02	0.76	0.29	N-90° - E			
D-36	隅丸方形	碗状	1A-13b・1A-14	1.00	0.90	0.57	N-106° - E			
D-37	楕円形	碗状	Y-14c・1A-14a	0.76	0.70	0.56	N-104° - E			
D-38	円形	コップ状	1R-3d	0.64	0.48	0.43	N-143° - E			
D-39	楕円形	碗状	1S-3b・3d	0.88	0.86	0.39	N-90° - E	※		
D-40	楕円形	皿状	1T-3b・3d	0.74	0.66	0.20	N-171.5° - E	○	石皿・凹石	
D-41	楕円形	坏状	J-20a	0.80	0.50	0.30	N-14° - E			
D-42	楕円形	コップ状	L-18a・18b	0.80	0.74	0.62	N-12° - E			
D-43	楕円形	コップ状	L-19c~M-19b	0.52	0.48	0.24	N-118° - E			
D-44	楕円形	坏状	I-20d・J-20b	0.72	0.62	0.26	N-111° - E			

※: 1~99g、△: 100~499g、○: 500~999g、◎: 1000g以上

第23表 土坑観察表

参考文献 (発行年順)

駒井和愛 1973 『日本の巨石文化』 学生社

塚原正典 1987 『配石遺構』 ニュー・サイエンス社

群馬県教育委員会県史編さん室 1989 『群馬県出土の墨書・刻書土器集成 (1)』 群馬県教育委員会

群馬県教育委員会県史編さん室 1992 『群馬県出土の墨書・刻書土器集成 (2)』 群馬県教育委員会

群馬県教育委員会県史編さん室 1998 『群馬県出土の墨書・刻書土器集成 (3)』 群馬県教育委員会

- 平川 南 2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- 安中市史編さん委員会 2001 『安中市史 第4巻 原始古代資料編』 安中市史刊行委員会
- 田中 琢・佐原 真編 2003 『日本考古学事典』 三省堂
- 小林達雄編著 2005 『縄文ランドスケープ』 アム・プロモーション
- 大工原 豊 2005 『磯部蜃気楼の謎―雷と蜃気楼と神と人―』 安中市ふるさと学習館
- 大工原 豊 2006 『ストーンサークル出現―縄文人の心、環の思想―』 安中市ふるさと学習館
- 宮島了誠編 2007 『季刊考古学第101号 日本のストーン・サークル』 雄山閣
- 
- 大江正行 1990 『仁田遺跡 暮井遺跡』 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財発掘調査団
- 田口 修 1990 『松井田工業団地遺跡』 松井田町教育委員会・群馬県企業局
- 田口 修 1991 『五料山岸遺跡』 松井田町教育委員会
- 水澤祝彦・田口 修 1993 『五料丙小竹遺跡』 松井田町埋蔵文化財調査会
- 大工原 豊 1993 『大下原遺跡・吉田原遺跡』 安中市教育委員会
- 大工原 豊 1994 『中野谷地区遺跡群』 安中市教育委員会
- 大工原 豊 1996 『中野谷松原遺跡―縄文時代遺構編―』 安中市教育委員会
- 長井正欣 1997 『八城二本杉東遺跡(八城遺跡) 行田大道北遺跡(行田Ⅰ遺跡)』 日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
- 山武考古学研究所 1997 『新堀東源ヶ原遺跡(行田Ⅲ遺跡)』 日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
- 間宮政光 1997 『行田梅木平遺跡(行田Ⅱ遺跡)』 日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
- 福山俊彰 1997 『五料平遺跡(五料Ⅰ遺跡) 五料野ヶ久保遺跡(五料Ⅱ遺跡) 五料稻荷谷戸遺跡(高墓遺跡)』 日本道路公団・群馬県教育委員・松井田町遺跡調査会
- 大工原 豊 1998 『中野谷松原遺跡―縄文時代遺物本文編―』 安中市教育委員会
- 長井正欣 1998 『高梨子三次郎遺跡』 松井田町埋蔵文化財調査会
- 須永眞弘・金子正人・神津芳夫 1999 『坂本北裏遺跡』 松井田町埋蔵文化財調査会
- 徳江秀夫 2000 『愛宕山遺跡』 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 壁 伸明・野平伸一・笠原仁史 2001 『人見中の條・人見中の條2遺跡、人見大王寺・人見正寺田遺跡』 松井田町教育委員会
- 井上慎也 2004 『中野谷地区遺跡群2』 安中市教育委員会
- 井上慎也 2004 『天神林遺跡・砂押Ⅲ遺跡・大道南Ⅱ遺跡・向原Ⅱ遺跡』 安中市教育委員会
- 和久裕昭 2004 『坂本堰下遺跡』 松井田町教育委員会・坂本堰下遺跡調査会
- 井上慎也 2005 『植松・地尻遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
- 井上慎也 2006 『蔵畑Ⅱ遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
- 千田茂雄 2007 『原市4号墳発掘調査報告書』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
- 井上慎也 2008 『中村遺跡』 安中市埋蔵文化財調査事業団
- 井上慎也 2008 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報1』 安中市教育委員会

# 写真図版



堀端遺跡 南調査区全景



S-1号配石遺構全景



S-1号配石遺構全景



S-1号配石遺構全景



S-1号配石遺構



S-1号配石遺構



S-1号配石遺構



S-1号配石遺構



S-1号配石遺構



S-1号配石遺構



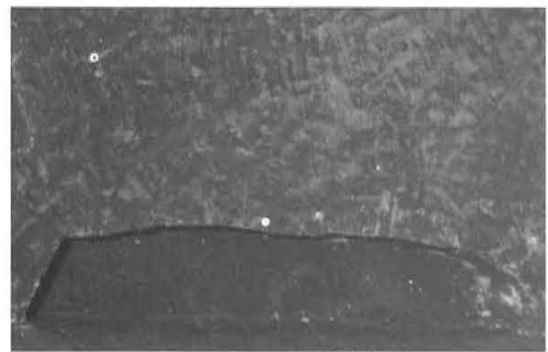
T-2号竖穴状遺構



T-3号竖穴状遺構



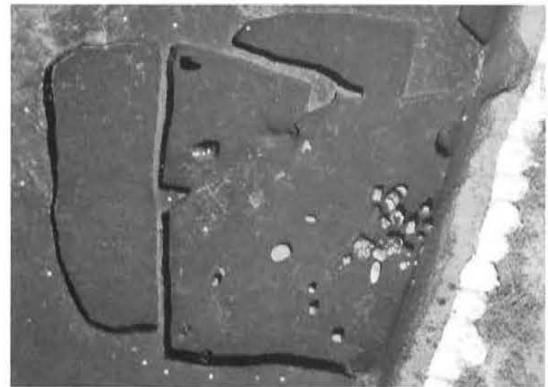
T-4号竖穴状遺構



T-5号竖穴状遺構



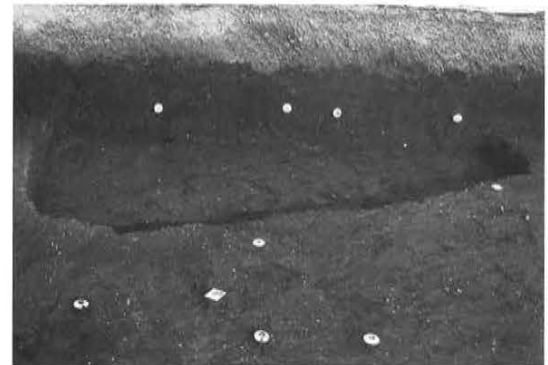
J T-7号竖穴状遺構・H-6号住居址



J T-7号竖穴状遺構・H-6号住居址



T-7号竖穴状遺構 東西セクション



J T-9号竖穴状遺構



PL4



D-1号土坑



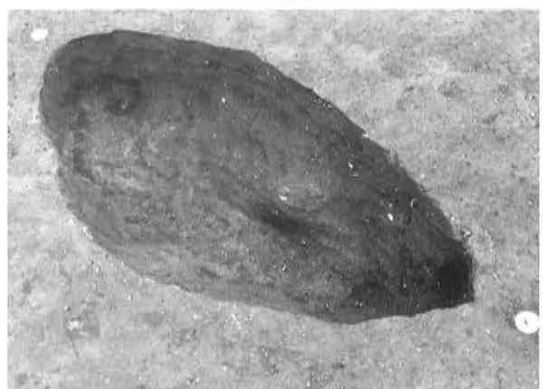
D-4号土坑



D-5号土坑



D-6号土坑



D-7号土坑



D-8号土坑



D-9号土坑



D-10号土坑

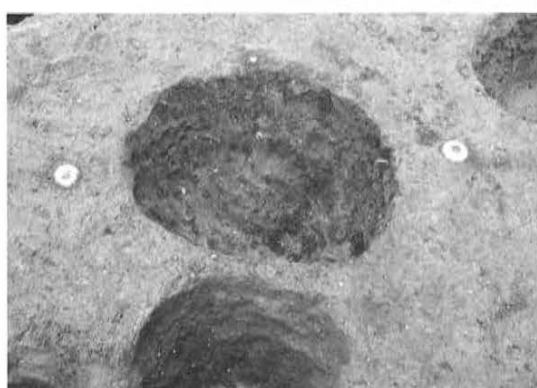




D-11号土坑



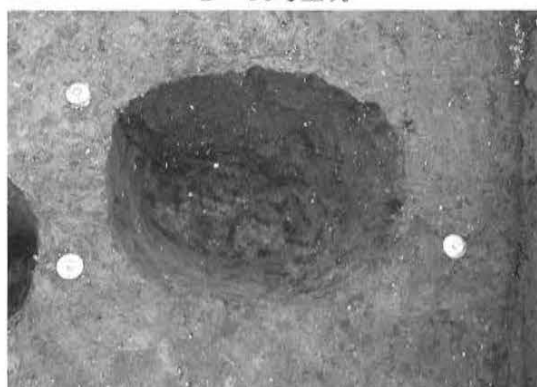
D-12号土坑



D-13号土坑



D-14号土坑



D-15号土坑



D-16号土坑



D-17号土坑

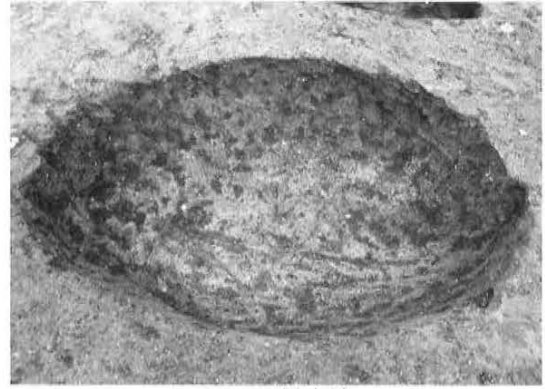


D-26号土坑

PL6



D-24号土坑



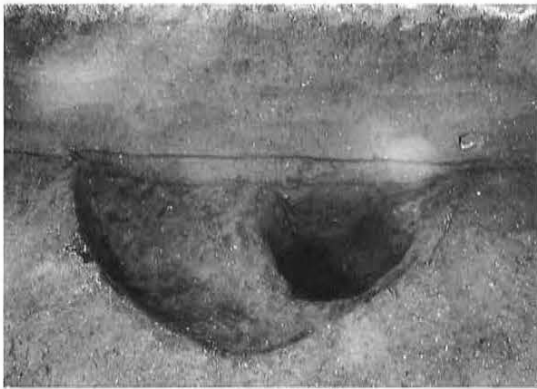
D-25号土坑



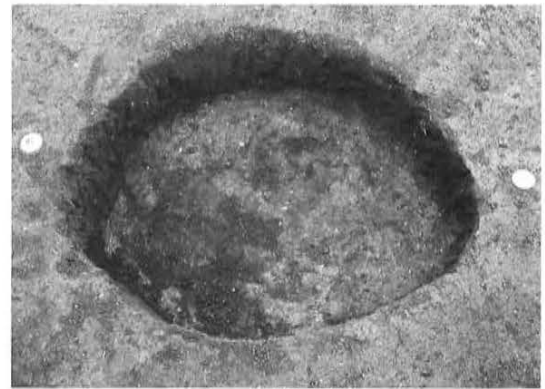
D-27号土坑



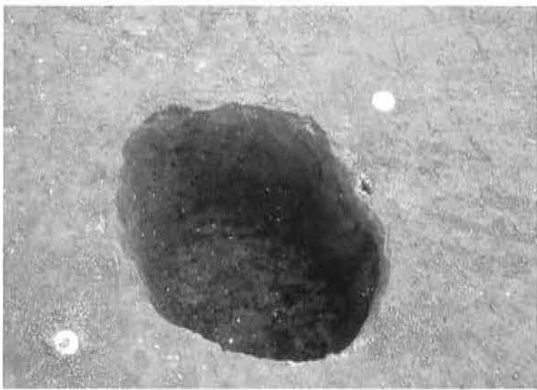
D-31号土坑



D-34号土坑



D-35号土坑



D-38号土坑



D-39号土坑



H-4号住居址



H-4号住居址 遺物出土状況



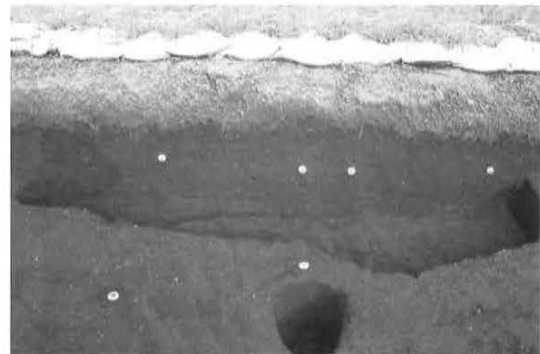
H-5号住居址



H-5号住居址 東西セクション



H-5号住居址 竈



H-8号住居址



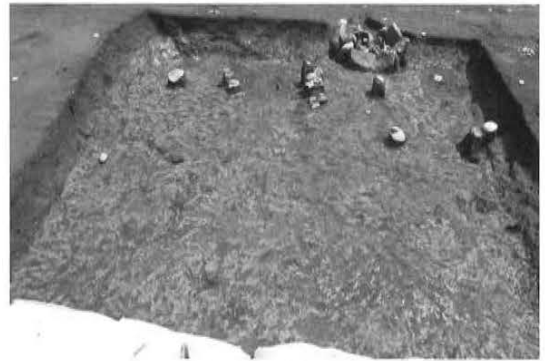
HT-6号住居址



HT-6号住居址



HT-6号住居址 竈



H-3号住居址



H-3号住居址 遺物出土状況



H-3号住居址 竈



H-3号住居址 7区・8区遺物出土状況



H-3号住居址 15区遺物出土状況



H-2号住居址



H-2号住居址 東西セクション





H-2号住居址 東竈



H-2号住居址 北竈



H-2号住居址 D-1



H-2号住居址 D-2



H-6号住居址



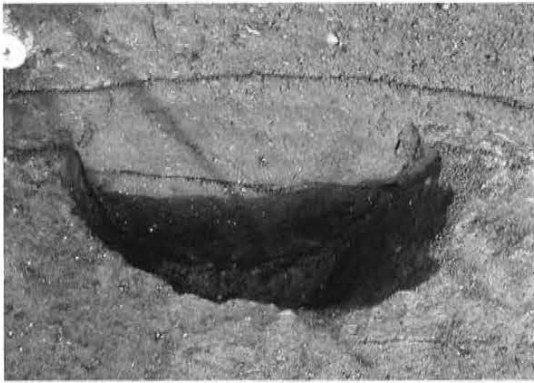
H-6号住居址 東西セクション



H-6号住居址 遺物出土状態



H-6号住居址 8区・12区遺物出土状態



H-6号住居址 D-1



M-1号溝



M-1号溝



M-1号溝 ベルト1



M-1号溝 ベルト2



M-1号溝 ベルト3



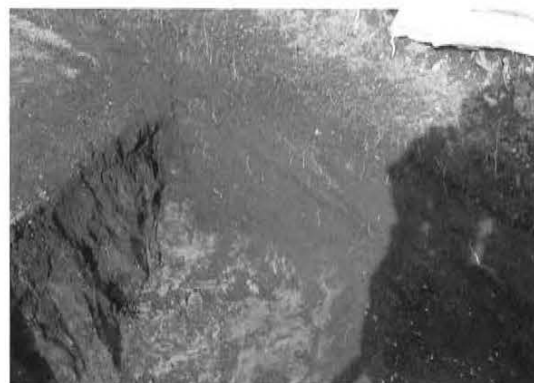
M-1号溝 西壁



M-2号溝 ベルト



M-2号溝 西壁



M-2号溝 東壁



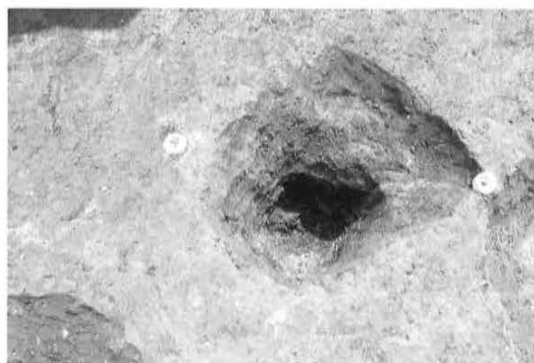
HT-1号竖穴状遺構



T-1号竖穴状遺構



JT-1号竖穴状遺構



D-2号土坑



D-3号土坑

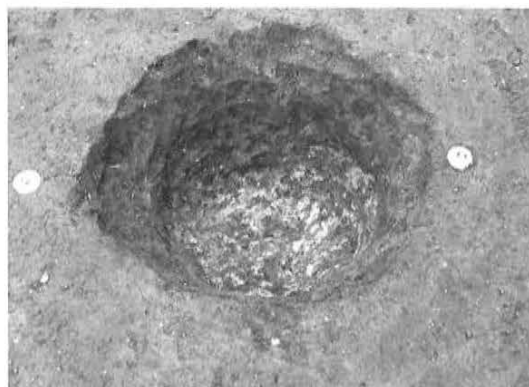


D-20号土坑

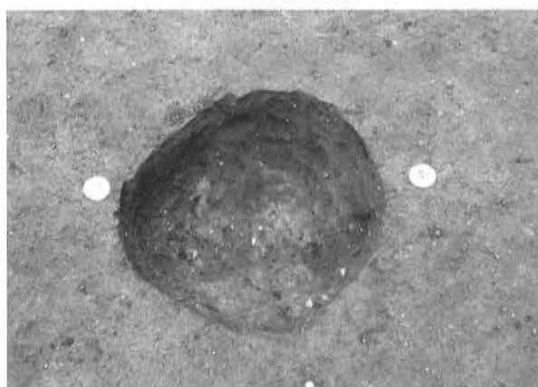
PL12



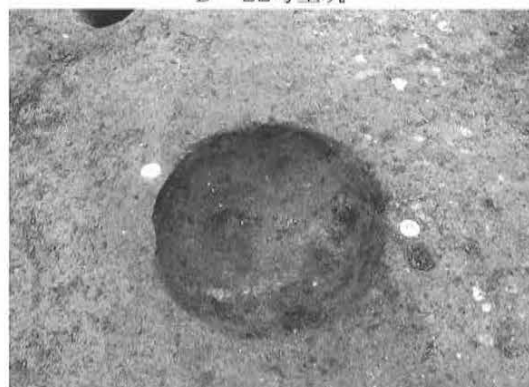
D-21号土坑



D-22号土坑



D-23号土坑



D-29号土坑



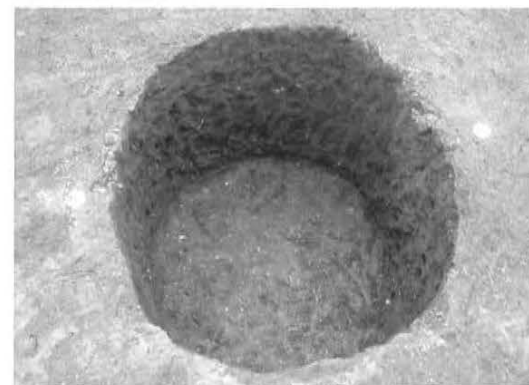
D-30号土坑



D-32号土坑



D-33号土坑



D-36号土坑





堀端遺跡 北調査区全景



T-8号住居址



T-8号住居址 東西セクション



H-10号住居址



H-10号住居址 東西セクション



H-10号住居址 東竈



H-10号住居址 北竈



H-10号住居址 竈3



H-11号住居址



H-11号住居址 南北セクション



H-11号住居址 竈



H-11号住居址 D-1



H-11号住居址 D-2



H-11号住居址 炉



D-42号土坑



D-41号土坑



D-43号土坑



D-44号土坑



M-3号溝

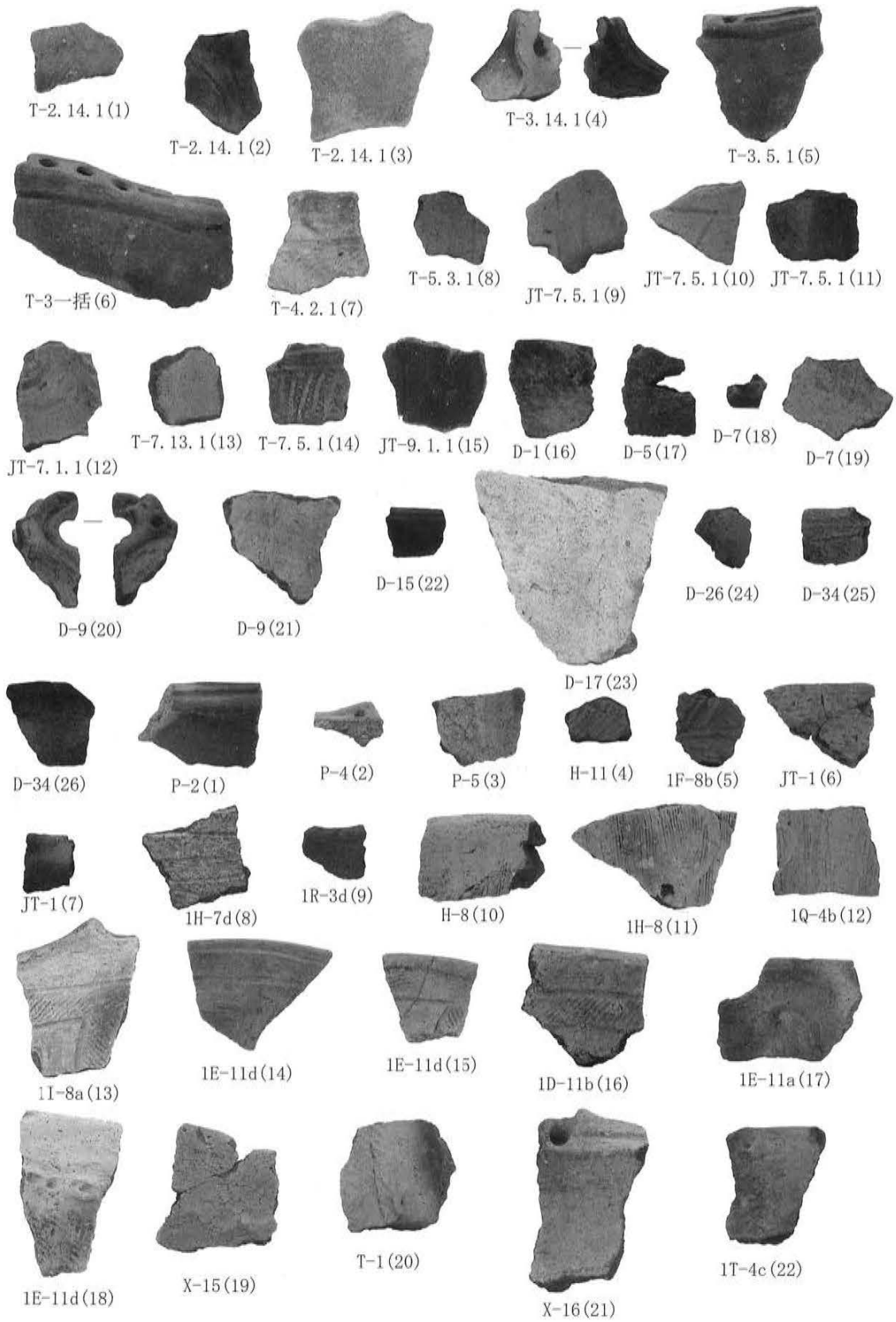


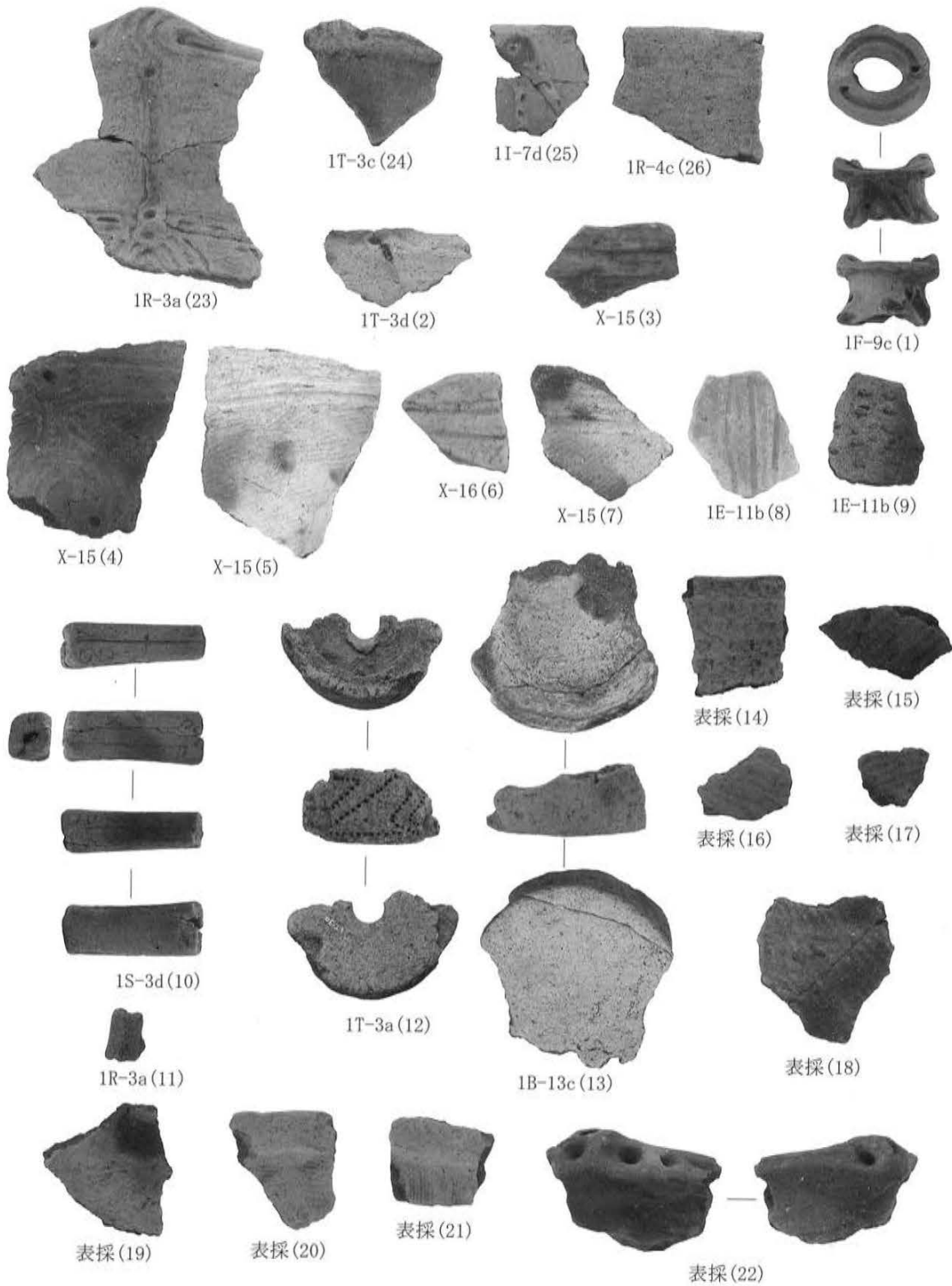
作業風景



作業風景

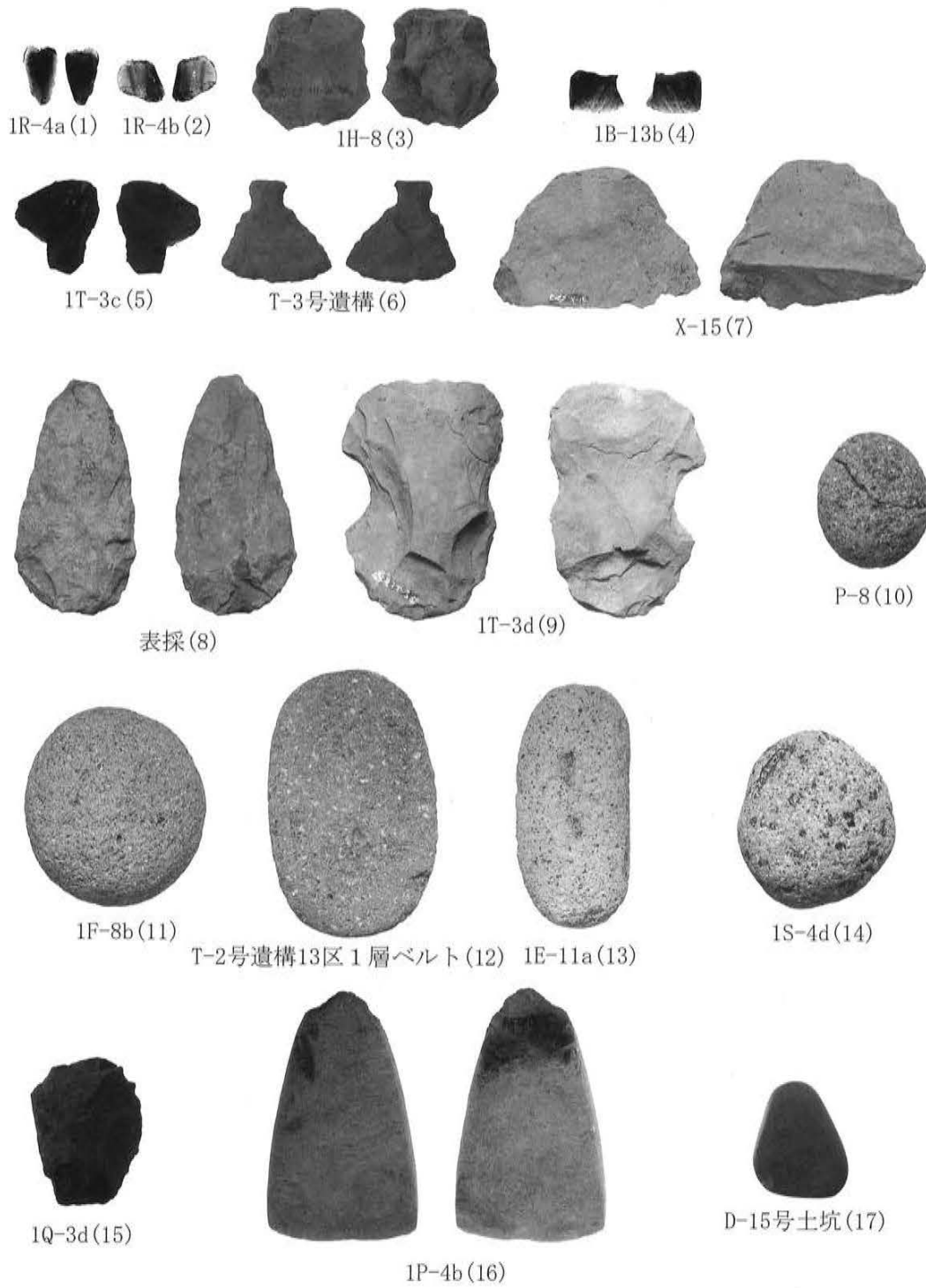
PL16







PL18





H-4 号住居址(1)



H-5 号住居址(4)



HT-6 号住居址(6)



H-4 号住居址(2)



HT-6 号住居址(7)



HT-6 号住居址(8)



H-5 号住居址(3)



HT-6 号住居址(5)



HT-6 号住居址(9)

PL20



HT-6号住址(10)



HT-6号住址(11)



H-2号住居址(12)



H-2号住居址(13)



H-3号住居址(1)



H-3号住居址(2)



H-2号住居址(14)



H-3号住居址(3)



H-3号住居址(4)



H-3号住居址(5)





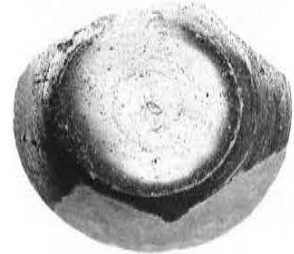
H-3 号住居址(6)



H-3 号住居址(7)



H-3 号住居址(8)



H-3 号住居址(9)



H-3 号住居址(10)



H-3 号住居址(11)



H-3 号住居址(12)



H-3 号住居址(13)



H-3 号住居址(14)





H-3号住居址(15)



H-3号住居址(2)



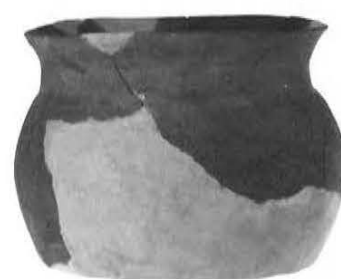
H-3号住居址(16)



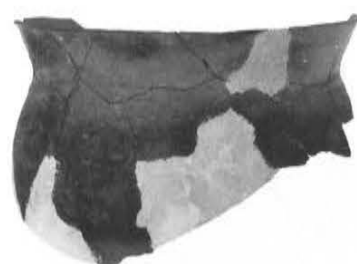
H-3号住居址(3)



H-3号住居址(5)



H-3号住居址(1)



H-3号住居址(4)



H-3号住居址(6)



H-6 号住居址(1)



H-6 号住居址(2)



H-6 号住居址(3)



H-6 号住居址(4)



H-6 号住居址(5)



H-6 号住居址(6)





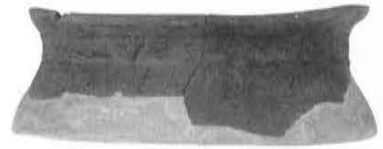
H-6 号住居址(1)



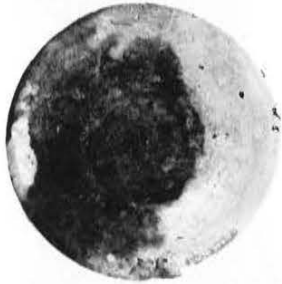
H-6 号住居址(2)



H-6 号住居址(3)



H-6 号住居址(6)



H-6 号住居址(5)



H-6 号住居址(7)



H-6 号住居址(4)



H-6 号住居址(8)



H-6 号住居址(9)



T-8号住居址(1)



T-8号住居址(2)



T-8号住居址(3)



H-10号住居址(4)



H-10号住居址(5)



H-10号住居址(6)



H-10号住居址(7)



H-10号住居址(8)



H-10号住居址(9)

PL26



H-10号住居址(10)



H-10号住居址(11)



H-10号住居址(12)



H-10号住居址(13)



H-10号住居址(1)



H-10号住居址(3)



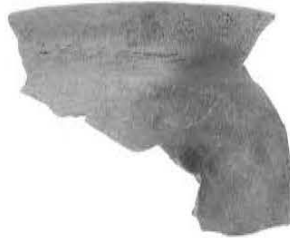
H-10号住居址(2)



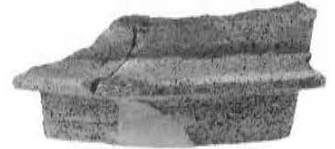
H-10号住居址(4)



H-11号住居址(5)



H-11号住居址(6)



H-11号住居址(7)





H-11号住居址(8)



H-11号住居址(9)



H-11号住居址(10)



H-11号住居址(11)



H-11号住居址(12)



D-42号土坑(1)



G-22(4)



IV-3b(2)

南調査区南東端部表採(3)

# 発掘調査報告書 抄録

ふりがな	ほりはたいせき
書名	堀端遺跡
副書名	平成19年度市単独土地改良事業（郷原堀端地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	深町 真
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245（安中市教育委員会内） TEL 027-382-1111
発行年	西暦2008年（平成20年）12月19日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほりはたいせき 堀端遺跡	あんなかしごうぼら 安中市郷原字 ほりはたいせき 堀端	102113	C-22	36°18'06"	138°50'13"	20070604 ～ 20071001	2,000㎡	土地改良事業 （農道拡幅）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堀端遺跡	集落	縄文前・中・後期  奈良・平安時代  中世	配石 土坑 住居址 土坑 溝2 溝1	縄文土器、石器  土師器・須恵器	奈良・平安時代の住居址から刻書土器2点と墨書土器8点が出土した。

## 堀端遺跡

—平成19年度市単独土地改良事業（郷原堀端地区）  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成20年12月19日  
編集・発行 安中市教育委員会  
群馬県安中市松井田町新堀245  
印刷 朝日印刷工業株式会社  
群馬県前橋市元総社町67